Cisco BroadWorks 構成ガイド (英語) 用 Webex

リリース 45.4

ドキュメントバージョン 1

目次

1 変更の概要 1
1.1 リリース 45.4、2025 年 4 月の変更 1
1.2 リリース 45.3、2025 年 3 月の変更 1
1.3 リリース 45.2、2025 年 2 月の変更 1
1.4 リリース 45.1、2025 年 1 月の変更 1
1.5 リリース 44.12、2024 年 12 月の変更 1
1.6 リリース 44.11、2024 年 11 月の変更 1
1.7 リリース 44.10、2024 年 10 月の変更 2
1.8 リリース 44.9、2024 年 9 月の変更 2
1.9 リリース 44.8、2024 年 8 月の変更 2
1.10 リリース 44.7、2024 年 7 月の変更 2
1.11 リリース 44.6、2024 年 6 月の変更 2
1.12 リリース 44.5、2024 年 5 月の変更 2
1.13 リリース 44.4、2024 年 4 月の変更 2
1.14 リリース 44.3、2024 年 3 月の変更 3
1.15 リリース 44.2、2024 年 2 月の変更 3
1.16 リリース 44.1、2024 年 1 月の変更 3
2 構成ファイルの変更 4
2.1 リリース 45.4 の構成ファイルの変更 4
2.2 リリース 45.3 の構成ファイルの変更 4
2.3 リリース 45.2 の構成ファイルの変更 4
2.4 リリース 45.1 の構成ファイルの変更 4
2.5 リリース 44.12 の構成ファイルの変更 4
2.6 リリース 44.11 の構成ファイルの変更 4
2.7 リリース 44.10 の構成ファイルの変更 5
2.8 リリース 44.9 の構成ファイルの変更 5
2.9 リリース 44.8 の構成ファイルの変更 5
2.10 リリース 44.7 の構成ファイルの変更 5
2.11 リリース 44.6 の構成ファイルの変更 6
2.12 リリース 44.5 の構成ファイルの変更 6
2.13 リリース 44.4 の構成ファイルの変更 6
2.14 リリース 44.3 の構成ファイルの変更 7
2.15 リリース 44.2 の構成ファイルの変更 7
2.16 リリース 44.1 の構成ファイルの変更 9

Cisco 社外秘

3 はじめに 10
4 インストール 11
4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード 11
4.2 Android クライアント 11
4.3 iOS クライアント 11
4.4 デスクトップクライアント 12
5 デバイス管理 13
5.1 デバイス管理タグ 13
5.2 デバイス タイプ選択の部分一致の強化 14
5.3 クライアントの構成 15
5.4 config-wxt.xml の展開 15
5.5 構成ファイル (config-wxt.xml) 15
5.6 システムデフォルトタグ 16
5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ 16
6 カスタムタグ 19
6.1 共通機能 31
6.1.1 SIP サーバの設定値 31
6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol 34
6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー 36
6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する 37
6.1.5 SIP ソケットを開くための構成可能なタイムアウト 39
6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出 40
6.1.7 SIP の優先ポートの使用状況 46
6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック 46
6.1.9 SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新と SUBSCRIBE の再試行 51
6.1.10 REGISTER で P-associated-URI を使用してください 52
6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー 52
6.1.12 SIP UPDATE のサポート 53
6.1.13 レガシー SIP INFO FIR 53
6.1.14 つながるねっとするための SIP ポート管理 54
6.1.15 SIP セッション ID 55
6.1.16 着信拒否の動作 55
6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲 56
6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ) 56
6.1.19 RTCP MUX 57
6.1.20 転送 58
6.1.21 N-Way 電話会議 と参加者 59
6.1.22 通話 (プル) 60
6.1.23 コール パーク/取得 60

Cisco 社外秘

6.1.24 コール統計 61
6.1.25 通話自動復元 /シームレス通話ハンドオーバー 61
6.1.26 通話録音 62
6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ 63
6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし 65
6.1.29 通話設定 65
6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定 68
6.1.31 コールセンター / 通話キューのログイン/ログアウト 72
6.1.32 XSI ルートおよびパス 72
6.1.33 XSI イベント チャネル 73
6.1.34 コーデックの設定 74
6.1.35 SIP-URI ダイヤリング 77
6.1.36 すべてのデバイスの通話履歴 77
6.1.37 ビデオ コールを無効にする 78
6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート 78
6.1.39 アイデンティティとしての PAI 80
6.1.40 画面共有を無効にする 80
6.1.41 スパム発信の表示 81
6.1.42 PSTN/モバイル通話のノイズ除去と帯域幅拡張 81
6.1.43 QoS DSCP マーキング 82
6.1.44 プライマリ プロファイル 83
6.1.45 ブロック一覧 (Webex Calling のみ) 84
6.1.46 メディアへの適応と復元力の実装 (MARI) 85
6.1.47 同一ユーザとの同時通話 87
6.1.48 RTCP-XR 87
6.1.49 着信の転送 88
6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID 88
6.1.51 複数行 91
6.1.52 強化された SIP 認証 92
6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中) 93
6.2 デスクトップのみの機能 95
6.2.1 強制ログアウト 95
6.2.2 コール ピックアップ 96
6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) サポート 96
6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレートする (Webex Calling のみ) 97
6.2.5 デスク フォン 制御コーリング - 自動応答 97
6.2.6 トーン通知音による自動応答 98
6.2.7 デスク フォンのコントロール - 通話中のコントロール - 電話会議 98
6.2.8 コールピックアップ通知 98

Cisco 社外秘

6.2.9 リモートコントロールイベントパッケージ 101
6.2.10 発信キュー エージェントの CLID の選択 101
6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ(Webex Calling のみ) 102
6.2.12 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ)..... 102
6.2.13 通話を移動..... 103
6.3 モバイルのみの機能 105
6.3.1 緊急通話..... 105
6.3.2 通話のプッシュ通知 106
6.3.3 単一のアラート 109
6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)..... 109
6.3.5 MNO サポート..... 110
6.3.6 着信発信者 ID..... 115
7 早期フィールド トライアル (ベータ) の機能..... 117
8 Cisco BroadWorks 用 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング..... 118
9 付録 A: TLS 暗号..... 126
10 付録 B: DM タグプロビジョニングスクリプト 127
10.1 デスクトップ..... 128
10.2 携帯 131
10.3 タブレット..... 134
10.4 システムタグ 137
11 頭字語と略語 138

Cisco 社外秘

1 変更の概要

このセクションでは、 リリースおよびドキュメントのバージョンごとにこのドキュメントにアクセスする必要があります。

1.1 リリース 45.4、2025 年 4 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを移動しました *6.1.34.1 AI コーデック* - ベータ版が終了しています。
- セクションを追加しました *6.1.51 複数行* - デスクトップのみとモバイル ベータのセクションを統合。
- セクションを移動しました *6.1.52 強化された SIP 認証* - ベータ版が終了しています。
- セクションを移動しました *6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中)* デスクトップおよびモバイル共通

1.2 リリース 45.3、2025 年 3 月の変更

このリリースでこのドキュメントに加えられた変更はありません。

1.3 リリース 45.2、2025 年 2 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを追加しました *強化された SIP 認証***Error! Reference source not found.** ベータ版です。

1.4 リリース 45.1、2025 年 1 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを移動しました *パーソナル アシスタント (退席中)* ベータ版が終了しました。
- セクションを移動しました *6.3.2.3 配信モード (Webex のみ)* ベータ版が終了しました。

1.5 リリース 44.12、2024 年 12 月の変更

このリリースでこのドキュメントに加えられた変更はありません。

1.6 リリース 44.11、2024 年 11 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを追加しました *モバイル (Webex Calling のみ)* ベータ版です。

1.7 リリース 44.10、2024 年 10 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

Cisco 社外秘

- セクションを追加しました *パーソナル アシスタント (退席中)* ベータ版**Error! Reference source not found.**。
- セクションを追加しました *配信モード (Webex のみ)* ベータ版です。

1.8 リリース 44.9、2024 年 9 月の変更

このリリースでこのドキュメントに加えられた変更はありません。

1.9 リリース 44.8、2024 年 8 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを更新 *6.1.34 コーデックの設定* – DTMF およびサポートされている配信メカニズムに関する説明を追加。

1.10 リリース 44.7、2024 年 7 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- ベータ版に セクション *AI コーデック* を追加しました。
- セクション *を更新しました。6.1.44 プライマリ プロファイル* – リリース 43.2 以前の Webex アプリの動作に関する詳細を削除しました。

1.11 リリース 44.6、2024 年 6 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクション *6.3.6を更新しました。 着信発信者 ID* - ネイティブ エクスペリエンスと機能の仕組みの詳細を追加しました。

1.12 リリース 44.5、2024 年 5 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを更新 *6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)* – NAT64 経由の IPv6 サポートを追加。
- セクション *6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID* を更新- サブセクション *6.1.50.2 リモート発信者 ID 名*を追加。

1.13 リリース 44.4、2024 年 4 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.50.1 発信発信者 ID*を更新しました。
- セクションを更新 *リリース 44.3 の構成ファイルの変更* – 44.3 のキープアライブの更新に関する詳細を追加しました。

Cisco 社外秘

1.14 リリース 44.3、2024 年 3 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクション *6.3.6を更新しました。 着信発信者 ID*
    - セクション *6.1.50.1 発信発信者 ID* をデスクトップとモバイルに共通に移動し、詳細を追加して更新しました。
- セクションを更新 *6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する* – カスタムタグを使用して設定可能なキープアライブに関する詳細を追加。

1.15 リリース 44.2、2024 年 2 月の変更

このバージョンのドキュメントには次の変更が含まれます。

- セクションを追加しました *6.3.6 着信発信者 ID*
- セクションを更新しました *6.2.8 コールピックアップ通知*
    - サブセクション *6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド* を追加- BLF の詳細をその中に移動しました。
    - サブセクション *6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*を追加。
- セクション *6.1.49 着信の転送*を追加しました。
- 更新されたセクション *6.1.8.3 バージョン IP の適用* – 新しい *nat64* モードの詳細を追加しました。
- セクションを更新 *6.1.42 PSTN/モバイル通話のノイズ除去と帯域幅拡張* – 新しい帯域幅拡張のサポートとノイズ除去の更新の詳細を追加しました。 セクション *PSTN 通話のスピーチの強化* は、ベータ版から削除されています。

1.16 リリース 44.1、2024 年 1 月の変更

このリリースでこのドキュメントに加えられた変更はありません。

Cisco 社外秘

2 構成ファイルの変更

2.1 リリース 45.4 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

2.2 リリース 45.3 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

2.3 リリース 45.2 の構成ファイルの変更

- [ベータ版]
  タグ <enhanced-authorization> を追加しました<protocols><sip>セクション。

```
<config>
<プロトコル>
  <sip>
    <enhanced-authorizationenabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

次の %TAG% が追加されました:

- %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%

2.4 リリース 45.1 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

2.5 リリース 44.12 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

2.6 リリース 44.11 の構成ファイルの変更

- [ベータ機能] [モバイルのみ] [Webex Calling のみ]
  タグ <protocols><sip><line> に複数回線対応可能属性を追加しました。
  <パーソナル>が追加されました。および <line><protocols><sip><回線>セクションの下にあるセカンダリ回線のセクションを選択します。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<Linesmulti-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
   <personal>
      <line-port>%BWDISPLAYNAMElineport%</line-port>
   </パーソナル>
   <line LineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
      …
   </行>
   <linelineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
      …
   </行>
   …
   <line LineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
```


Cisco 社外秘

```
        …
    </行>
</行>
```

2.7 リリース 44.10 の構成ファイルの変更

- [ベータ機能]
  <personal-assistant> を追加しました。<services> セクションの下にタグを追加します。

```
<config>
<サービス>
    <personal-assistantenabled="%PERSONAL_ASSISTant_ENABLED_WXT%"/>
```

- [ベータ機能] [モバイルのみ] [Webex Calling のみ]
  タグ <services><p Push-notifications-for-calls> に Delivery-mode 属性を追加しました。

```
<config>
<サービス>
    <p Push-notifications-for-callsenabled="true" connect-sip-on-
accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"●●●●●●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●●●●●●
```

```
      <codec name="PCMA" priority=".7" Payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" Payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4"ペイロード=""framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" Payload="101" in-Band="false"/>
```

2.11 リリース 44.6 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

2.12 リリース 44.5 の構成ファイルの変更

- [Webex Calling のみ]
  enable-ipv6-support 属性が <protocols><rtp><ice> に追加されました。タグを選択します。

```
<config>
<プロトコル><rtp>
  <iceenabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
       enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
       mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
       service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
       port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
```

- <remote-name>のタグを付けるがセクション <services><calls><caller-id>に追加されました。<Machine>を付けてをサブタグとして使用します。

```
<config>
<サービス><コール>
   <caller-id>
      <リモート名>
         <マシンモード="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%"/>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%
- %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%

2.13 リリース 44.4 の構成ファイルの変更

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ]
  タグ <additional-numbers>、<hunt-group> を追加しました。および <clid-delivery-Blocking><caller-id><outgoing-calls>セクションに移動します。

```
<config>
<サービス><コール>
  <caller-id>
    <outgoing-callsenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-
numbersenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%"/>
      <call-centerenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
      <hunt-groupenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
      <clid-delivery-
blockingenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```


Cisco 社外秘

2.14 リリース 44.3 の構成ファイルの変更

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ]
  Added <outgoing-calls>新しい <caller-id>セクション (<call-center>)をサブタグとして使用します。

```
<config>
<サービス><コール>
  <caller-id>
    <outgoing-callsenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <call-centerenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```

- <protocols><sip><transport>の下で、ハードコードされた各トランスポートのキープアライブ有効値を置き換えるために、カスタム タグ (%UDP_keepalive_ENABLED_WXT%、%TCP_KEEPAlive_ENABLED_WXT% および %TLS_keepalive_ENABLED_WXT%) が追加されました。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<トランスポート>
  <udp>
    <keepaliveenabled="%UDP_KEEPAlive_ENABLED_WXT%">
      …
  </udp>
  <tcp>
    <keepaliveenabled="%TCP_KEEPAlive_ENABLED_WXT%">
      …
  </tcp>
  <tls>
    <keepaliveenabled="%TLS_keepalive_ENABLED_WXT%">
      …
  </tls>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %UDP_KeP_Kepalive_ENABLED_WXT%
- %TCP_keepalive_ENABLED_WXT%
- %TLS_kepalive_ENABLED_WXT%

2.15 リリース 44.2 の構成ファイルの変更

- [モバイルのみ]
  <services><calls>にセクション<caller-id>を追加しました。 サブタグ <incoming-call> と < Missed-call> を追加し、両方に新しいサブタグ <append-number> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <発信者番号>
    <incoming-calls>
      <append-
numberenabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </incoming-calls>
```


Cisco 社外秘

```
    <不在着信数>
      <append-numberenabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    不在着信>
```

- [モバイルのみ] [Webex Calling のみ]
  新しい<caller-id>セクションの下に<outgoing-calls>を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <発信者番号>
    <outgoing-callsenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-
numbersenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%"/>
      <call-centerenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
      <hunt-groupenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
      <clid-delivery-
lockingenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```

- セクション <services><calls> にタグ <call- forwarding-info> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <call- forwarding-infoenabled="%ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ]
  サブタグとして <display-caller> と <max-timeout> を持つ <services><calls> の下に <group-call-pickup-notifications> セクションを追加しました。 また、<protocols><sip><line> セクションの各 <line> タグの下に <group-call-pickup> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <group-call-pickup-notificationsenabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
    <display-callerenabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
    <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
  </group-call-pickup-notifications>
  …
<プロトコル><sip>
  <行>
    <行>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    <行>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    …
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%
- %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%

Cisco 社外秘

- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%
- %ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%
- %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%
- %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%
- %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%

次の %TAG% は廃止されました:

- %ENABLE_NOICE_REMOVAL_WXT%

2.16 リリース 44.1 の構成ファイルの変更

このバージョンの構成ファイルの更新はありません。

Cisco 社外秘

3 はじめに

このドキュメントの目的は、Cisco BroadWorks クライアント Webex の構成について説明することです。

構成ファイル *config-wxt.xml* には 2 つのバージョンがあります。1 つはモバイル (Android および iOS) 用、もう 1 つはデスクトップ (Windows および MacOS) 用です。

クライアントは、エンドユーザには表示されない構成を使用して構成されています。 *config-wxt.xml* には、サーバのアドレスとポート、およびクライアント自体のランタイムオプション (たとえば、 *[設定]* 画面) を選択します。

構成ファイルは、デバイス管理から取得した後、開始時にクライアントによって読み取られます。 構成ファイルからの情報は暗号化されて保存されるため、エンドユーザには見えず、アクセスできません。

> **注意** : XML プロパティにはスペースを使用しないでください (たとえば、<transfer-callenabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"/> のように入力します: />)。

Cisco 社外秘

4 インストール

Cisco BroadWorks クライアント用の Webex は以下からインストールできます。

https://www.webex.com/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード

Cisco BroadWorks クライアント用の次のローカライズ版 Webex は、次の方法でダウンロードできます。

https://www.webex.com/ko/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/fr/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/pt/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-tw/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-cn/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/ja/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/es/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/de/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/it/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.2 Android クライアント

Android クライアントはアプリケーション (Android アプリケーションパッケージ [APK]) としてインストールされ、設定および構成に関連するデータはプライベート領域内に保持されます。

Google Play の手順に基づくバージョン管理があります。 標準の Google Play 通知が提供されます (つまり、Android は自動的に新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを示します)。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされます。ただし、ユーザデータはデフォルトで保持されます。

ユーザはインストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

4.3 iOS クライアント

iOS クライアントはアプリケーションとしてインストールされ、設定関連のデータは「サンドボックス」内に保持され、構成ファイルのデータは暗号化されて保存されます。

Apple App Store 手順に基づくバージョン管理があります。 App Store アイコンがハイライトされ、ソフトウェアの新しいバージョンが入手可能になったことを示します。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされます。ただし、ユーザデータはデフォルトで保持されます。

ユーザはインストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

Cisco 社外秘

4.4 デスクトップクライアント

デスクトップクライアント (Windows および MacOS) のインストールとバージョン管理についての情報は、次を参照してください: https://help.webex.com/en-us/nw5p67g/Webex-Installation-and-Automatic-Upgrade.

Cisco 社外秘

5 デバイス管理

5.1 デバイス管理タグ

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次の図に示す *端末管理タグセット* を使用します。 *システムデフォルト* およびカスタム タグ セットは、特定のデバイス/クライアント設定をプロビジョニングする必要があります。 このタグ セットにより、クライアントのネットワーク/サービス接続設定と機能アクティベーション コントロールを柔軟に管理できます。

このカスタムタグセットは、システム管理者が [*システム → リソース → </a5] を通してプロビジョニングします。>端末管理タグセット* のオプション。 管理者は新しいタグセットを追加する必要があります:

- モバイル: Connect_Tags
- タブレット: ConnectTablet_Tags
- デスクトップ: BroadTouch_Tags

個別のタグを作成し、値を設定します。 セクション リファレンスには、各タグの詳細な説明が記載されています。 カスタム タグは機能に基づいてグループに分けられます。 これについてはこのドキュメントの後半で説明します。

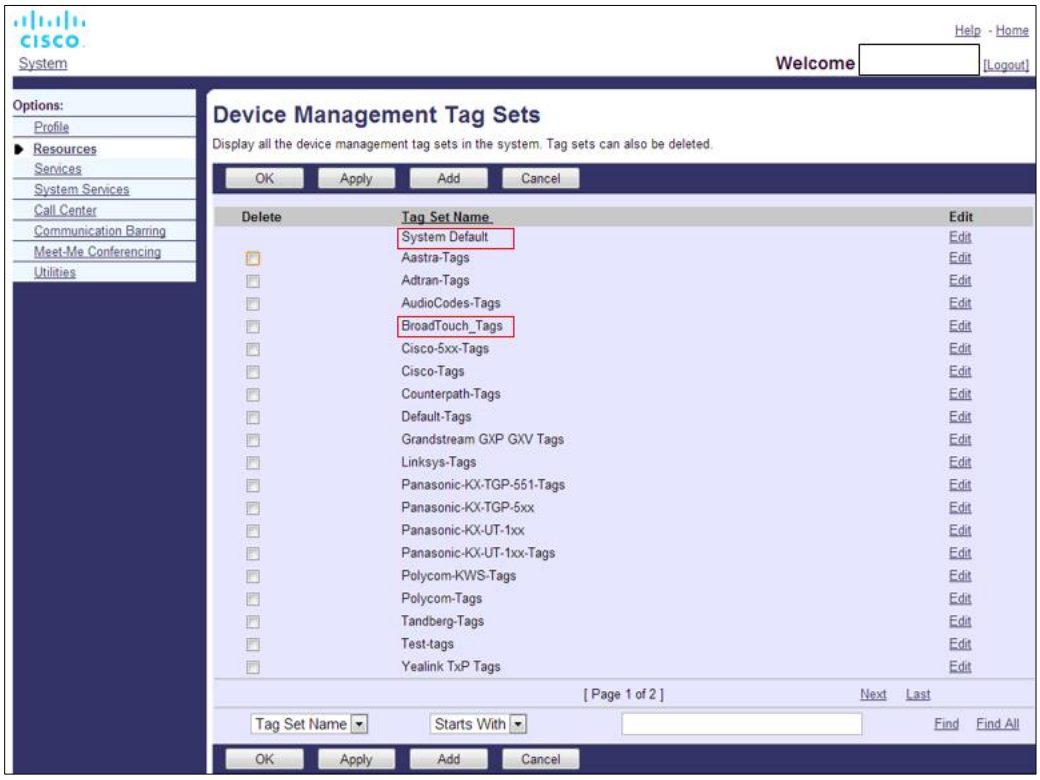

図 1 デスクトップデバイス管理タグセット

Cisco 社外秘

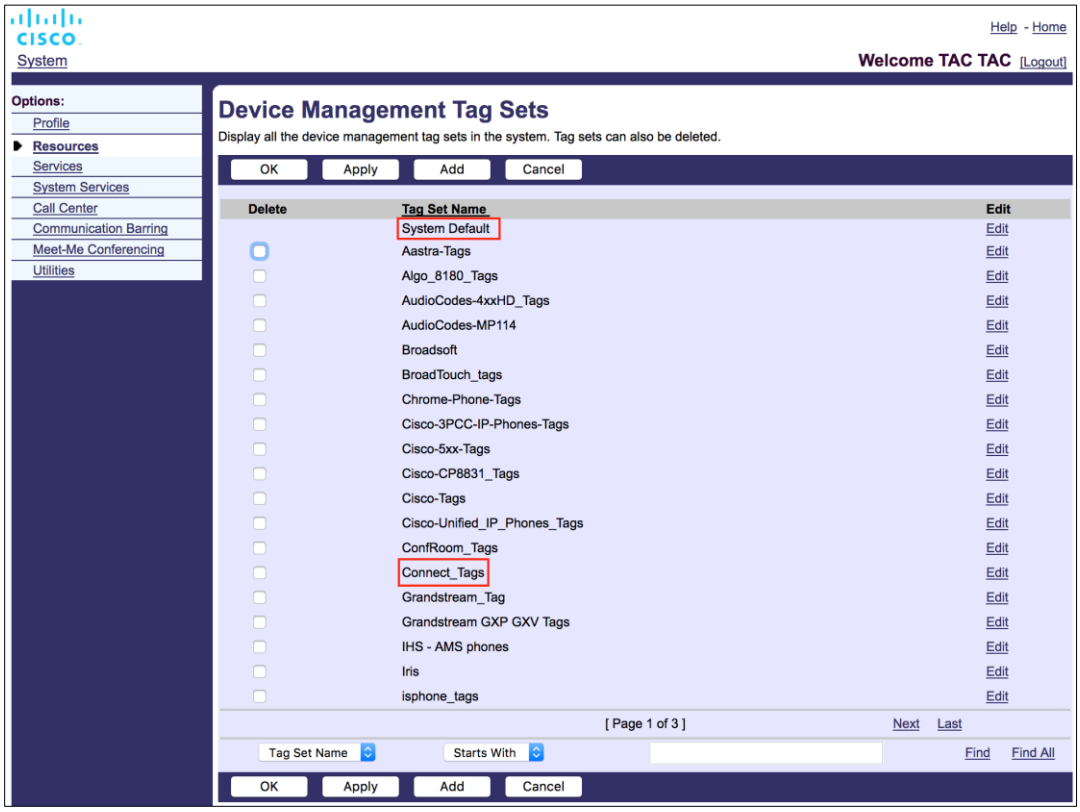

図 2 モバイル デバイス管理タグ セット

5.2 デバイス タイプ選択の部分一致の強化

ユーザ グループまたは個々のユーザに対して機能パッケージを選択する際の柔軟性を高めるために、デバイス プロファイル タイプは (最初の) 部分一致に基づいて選択されます。 これにより、顧客は異なるデバイス タイプを使用できます。

一般的なデバイス管理手順では、Cisco BroadWorks アプリケーション サーバがデバイス プロファイル タイプを提供することを指定します。 デスクトップでは「Business Communicator - PC」、モバイルでは「Connect - Mobile」、タブレットでは「Connect - Tablet」という名前になります。 デバイス プロファイルを作成し、ユーザに割り当てることができます。 次に、アプリケーションサーバは構成ファイルを作成し、プロファイルサーバに保存します。

ログイン時に、クライアントは Xsi 経由で割り当てられたデバイス リストを照会し、対応するデバイス タイプ プロファイルを検索します。 クライアントは、対応するデバイスタイプ名で始まる最初のプロファイルを選択します。このデバイスプロファイルに関連付けられたデバイスプロファイル構成データ (構成ファイル) は、さまざまな機能を有効または無効にするために使用されます。

これにより、同じクライアント実行可能ファイルをさまざまなデバイス プロファイル タイプで使用できるようになります。そのため、サービス プロバイダーは、ユーザまたはユーザのグループの DM でデバイス プロファイル タイプを変更するだけで、個々のユーザまたはユーザのグループの機能パッケージを変更できます。

Cisco 社外秘

たとえば、サービス プロバイダは、「Business Communicator - PC Basic」、「Business Communicator - PC Executive」、「Business Communicator - PC Assistant」など、ユーザの役割に基づいたデバイス プロファイル タイプをいくつでも所有し、利用できる機能を変更できます。個々のユーザについては、デバイス プロファイル タイプを変更することで管理できます。

受信したデバイス リスト XML には、一致するデバイス プロファイル タイプが複数ある必要はなく、1 つだけであることに注意してください。

5.3 クライアントの構成

クライアントの Cisco BroadWorks バージョン Webex は、 *config-wxt.xml* ファイルを使用して発信機能の設定を行います。 Webex 用の別の設定手順がありますが、このドキュメントでは説明していません。

5.4 config-wxt.xml の展開

対応する *config-wxt.xml* ファイルを [Connect - モバイル]、[Connect - タブレット]、[Business Communicator - PC] のデバイスプロファイルに追加します。 Cisco BroadWorks の Webex は、UC-One と同じデバイス プロファイルを使用して、展開を容易にします。

> **メモ 1**: 端末プロファイルごとに設定ファイルが存在する必要があります。
>
> **メモ 2**: Webex
> アプリの最新リリースでテンプレートを常に更新しておくことを強く推奨します。

5.5 構成ファイル (config-wxt.xml)

新しいカスタムタグ **_WXT** サフィックスは、Cisco BroadWorks 構成展開用の新しい Webex とレガシークライアントを区別するために使用されます。 しかし、UC-One と Webex の間で共有されるいくつかの (システム) タグがまだ残っています。

Cisco BroadWorks システムのカスタム タグの一部は、 *config-wxt.xml* 構成ファイルでも使用されます。 次の各タグに関する詳細は、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム* **タグ**を参照してください。

- %BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
- %BWVOICE-PortAL-NUMBER-n%
- %BW ラインポート-n%
- %BWAUTHUSER-n%
- %BWAUTHPASSWORD-n%
- %BWE164-n%
- %BWHOST-n%
- %BWNAME-n%

Cisco 社外秘

- %BWExtENSION-n%
- %BWAPPEARANCE-LABEL-n%
- %BWDISPLAYNAMElineport%
- %BW ラインポート-プライマリ%
- %BWE911-PRIMary-HELDURL%
- %BWE911-CUSTOMERID%
- %BWE911-SECRETKEY%
- %BWE911-緊急番号-リスト%
- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXID-n%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%" (Webex Calling のみ)

5.6 システムデフォルトタグ

システム管理者は、[*[システム] → リソース] → 端末管理タグセット* オプション。 次のシステム デフォルト タグは、VoIP 通話パッケージがインストールされている場合にプロビジョニングする必要があります。

タグ	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	これは、ネットワークに展開されたセッションボーダーコントローラー (SBC) の完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスとして構成する必要があります。 例: sbc.yourdomain.com
%SBC_PORT_WXT%	SBC_ADDRESS_WXT が IP アドレスの場合、このパラメータで SBC ポートを指定する必要があります。 SBC_ADDRESS_WXT が FQDN の場合、未設定のままにしておくことができます。 例: 5075

5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ

デフォルトのシステム タグと定義する必要があるカスタム タグに加えて、通常使用され、推奨される Device Type Archive File (DTAF) の一部である既存の Cisco BroadWorks システム タグがあります。 これらのタグはこのセクションに一覧表示されます。 インストールされているソリューションパッケージによっては、すべてのシステムタグが使用されるわけではありません。

タグ	説明
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%	N-Way 電話会議を有効にするために使用されるサーバ URI です。

Cisco 社外秘

タグ	説明
%BWVOICE-PortAL-NUMBER-n%	この番号はボイスメールに使用されます。 クライアントはボイスメールを取得するときにこの番号にダイヤルします。
%BW ラインポート-n%	登録などの SIP シグナリングで使用される SIP ユーザ名。
%BWHOST-n%	これは、ユーザに割り当てられたデバイス用にプロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分です。 ユーザのプロファイルから取得されます。 通常、SIP ドメインとして使用されます。
%BWAUTHUSER-n%	認証ユーザ名です。利用者に認証が割り当てられている場合、デバイス タイプで選択された認証モードに関係なく、これは [認証] ページでプロビジョンされたユーザ ID です。 SIP ユーザ名です。通常、401 および 407 シグナリングで使用されます。 デフォルトの SIP ユーザ名と異なるものにすることができます。
%BWAUTHPASSWORD-n%	ユーザの認証用パスワードです。 利用者に認証が割り当てられている場合、デバイス タイプで選択された認証モードの値に関係なく、これは [認証] ページでプロビジョニングされたパスワードです。 SIP シグナリングで使用される SIP パスワードです。
%BWE164-n%	このタグは、ユーザの電話番号を国際形式で提供します。
%BWNAME-n%	これはユーザのプロファイル中のサブスクライバーの名と姓です。 名と姓が連結されます。 複数回線の構成で、回線ラベルが設定されておらず、空でない場合、回線セレクタの回線の表示名として使用されます。
%BWExtENSION-n%	購読者の内線番号は、ユーザのプロファイルでプロビジョニングされた内線番号から取得されます。 内線番号が設定されていない場合、タグはサブスクライバの電話番号 (DN) に置換されます。
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%	これは設定された回線ラベルです。 回線名として使用されます (空でない場合)。
%BWDISPLAYNAMElineport%	これは最初のプライベート回線の回線/ポートであり、共有回線ではありません (共有コール アピアランス)。 これは、ユーザに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされた回線ポートです。 これはユーザのプロファイルから取得されます。 ユーザのプライマリ回線を識別するために使用されます。

Cisco 社外秘

タグ	説明
%BW ラインポート-プライマリ%	プライマリ回線ポートは、ユーザに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされます。 このタグには、プロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分は含まれません。 ユーザのプロファイルから取得されます。
%BWE911-PRIMary-HELDURL%	HELD プロトコルをサポートする RedSky 緊急ロケーションプラットフォームの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	RedSky HTTPS リクエストに使用される顧客 ID (HeldOrgId, CompanyID) です。
%BWE911-SECRETKEY%	RedSky HTTPS リクエストを認証するためのシークレット。
%BWE911-緊急番号-リスト%	RedSky がサポートする緊急電話番号のリスト。 このタグを使用するには、予約済みカスタムタグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% が、デバイスタイプで使用されるタグセットに追加されている必要があります。 「予約済み」タグには、BroadWorks の AS_CLI/System/CallP/CallTypes > で定義されている緊急電話番号が、911, 0911, 933 のようなコンマ区切り形式で指定されている必要があります。 **メモ:** Webex クライアントは緊急電話番号のワイルドカードをサポートしていません。そのため、「予約済み」カスタムタグには正確な緊急電話番号のみを追加する必要があります。 次の例は、予約済みタグ機能の使用方法を示しています。 1) ネイティブ タグ %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% が、デバイスのテンプレートファイルに追加されます。 2) 予約済みのカスタム タグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% が、値 911、0911、933 を持つデバイスで使用されるタグ セットに追加されます。 3) ファイルが再構築されると、%RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% ネイティブタグが 911、0911、933 に解決されます。
%BW-MEMBERTYPE-n%	これは各回線のタイプです。 「Virtual Profile」、「User」、「Place」のいずれかです。
%BWUSEREXID-n%	これは指定された回線の外部 ID です。(Webex Calling のみ)
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%"	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されている場合、情報を提供します。 (Webex 発信のみ)

Cisco 社外秘

6 カスタムタグ

このセクションでは、Cisco BroadWorks の Webex で使用されるカスタム タグについて説明します。 デスクトップとモバイル/タブレットの両方のプラットフォームで使用されるすべてのカスタム タグが一覧表示されます。

ただし、このセクションで説明されている一部の設定は、クライアントの特定のリリースでのみサポートされていることに注意してください。 設定が古いクライアントバージョンに適用されないかどうかを判断するには、該当するリリース固有の構成ガイドを参照してください。

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	Y	Y	true	*6.1.16 着信拒否の動作*
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	N	Y	拒否する_false	*6.3.2 通話のプッシュ通知*
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	N	Y	通話中	*6.3.2 通話のプッシュ通知*
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.20 転送*
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.21 N-Way 電話会議 と参加者*
%ENABLE_Nway_participant_list_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.21 N-Way 電話会議 と参加者*
%MAX_CONF_parties_WXT%	Y	Y	10	*6.1.21 N-Way 電話会議 と参加者*
%ENABLE_CALL_StatistICS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.24 コール統計*
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.22 通話* (プル)
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.2 通話のプッシュ通知*
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし*
%ENABLE_MWI_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%MWI_MODE_WXT%	Y	Y	空	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ*
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ*
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ*
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.1 強制ログアウト*
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	Y	N	空	*6.2.1 強制ログアウト*
%ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.1 常に着信の転送*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_DESCRIPTION_WXT%	Y	Y	true	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
お問い合わせ	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWhere_CALL_control_defaULT_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
パーセント	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
パーセント	Y	Y	フォルス	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.1 緊急通話*
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	N	Y	911, 112	*6.3.1 緊急通話*
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.14 つながるねっとするための SIP ポート管理*
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.14 つながるねっとするための SIP ポート管理*
%USE_TLS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%SBC_ADDRESS_WXT%	Y	Y	空	*5.6 システムデフォルトタグ*
%SBC_PORT_WXT%	Y	Y	5060	*5.6 システムデフォルトタグ*
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	Y	Y	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	Y	Y	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	Y	Y	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	Y	Y	空	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	Y	Y	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	Y	Y	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	はい (Windows のみ)	N	フォルス	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	Y	Y	5000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための構成可能なタイムアウト*
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	Y	Y	10000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための構成可能なタイムアウト*
%SOURCE_PORT_WXT%	Y	Y	5060	*6.1.7 SIP の優先ポートの使用状況*
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	Y	N	true	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	Y	N	900	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
パーセント	Y	N	フォルス	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	Y	Y	dns	*6.1.8.3. バージョン IP の適用*
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITies_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.10 REGISTER で P-associated-URI を使用してください*
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	Y	Y	18000	*6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する*
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	Y	N	フォルス	*6.1.8.4 DNS TTL 管理*
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.12 SIP UPDATE のサポート*
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー*
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.15 SIP セッション ID*
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.13 レガシー SIP INFO FIR*
%SRTP_ENABLED_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%SRTP_MODE_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_REKEYING_WXT%	Y	Y	true	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	Y	Y	8000	*6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲*
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	Y	Y	8099	*6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲*
%RTP_Video_PORT_RANGE_START_WXT%	Y	Y	8100	*6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲*
%RTP_Video_PORT_RANGE_END_WXT%	Y	Y	8199	*6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲*
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	Y	Y	true	*6.1.19 RTCP MUX*
%ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT%	Y	Y	true	*6.1.33 XSI イベント チャネル*
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	Y	Y	10000	*6.1.33 XSI イベント チャネル*
%XSI_ROOT_WXT%	Y	Y	空 (元の URL を使用)	*6.1.32 XSI ルートおよびパス*
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	Y	Y	/com.broadsoft.xsi-actions/	*6.1.32 XSI ルートおよびパス*
%XSI_eventS_PATH_WXT%	Y	Y	/com.broadsoft.xsi-events/	*6.1.32 XSI ルートおよびパス*
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.25 通話自動復元 / シームレス通話ハンドオーバー*
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	N	Y	cs のみ	*6.3.1 緊急通話*
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.2 コール ピックアップ*
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.2 コール ピックアップ*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	Y	Y	空	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	Y	Y	空	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.31 コールセンター / 通話キューのログイン/ログアウト*
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	Y	Y	外部	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_配列番号:	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイトとウェブベース通話設定*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT%	Y	Y	true	*6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定*
%USE_MEDIASEC_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー*
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)*
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	N	Y	10	*6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)*
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) サポート*
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	N	Y	35	*6.3.2 通話のプッシュ通知*
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.26 通話録音*
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.3 単一のアラート*
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.23 コール パーク/取得*
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	Y	Y	10	*6.1.23 コール パーク/取得*
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%RTP_ICE_MODE_WXT%	Y	Y	アイスタン	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	Y	Y	空	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_PORT_WXT%	Y	Y	3478	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	Y	Y	false	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	Y	N	フォルス	*6.1.8.4 DNS TTL 管理*
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレートする*
%ENABLE_DESKPHONE_Control_AUTO_ANSWER_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.5 デスク フォン 制御コーリング - 自動応答*
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	N	Y	true	*6.3.5 MNO サポート ネイティブのダイヤラーで発信する*
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.5 MNO サポート ネイティブのダイヤラーで発信する*
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	Y	Y	true	*6.1.35 SIP-URI ダイヤリング*
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	Y	Y	true	*6.1.37 ビデオ コールを無効にする*
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	Y	Y	true	*6.1.37 ビデオ コールを無効にする*
%VideoCALLS_ANSWER_WITH_Video_ON_DEFAULT_WXT%	Y	Y	デスクトップ - true モバイル、タブレット - false	*6.1.37 ビデオ コールを無効にする*
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	Y	Y	0	*6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート*
メールアドレス	Y	Y	-1	*6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート*
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	Y	Y	一度_per_login	*6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート*
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.6 トーン通知音による自動応答*
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.41 スパム発信の表示*
%ENABLE_NOICE_REMOVAL_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.42 PSTN/モバイル通話のノイズ除去と帯域幅拡張*
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.46.2 順方向誤り訂正 (FEC) およびパケット再送 (RTX)*
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.46.2 順方向誤り訂正 (FEC) およびパケット再送 (RTX)*
%ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.46.2 順方向誤り訂正 (FEC) およびパケット再送 (RTX)*
%ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.46.2 順方向誤り訂正 (FEC) およびパケット再送 (RTX)*
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.45 ブロック一覧 (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT%	N	Y	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中ウィジェット*
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	N	Y	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中ウィジェット*
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	N	Y	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中ウィジェット*
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.47 同一ユーザとの同時通話*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_REMOTE_MUTE_Control_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.12 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	Y	Y	true	*6.1.29.2 ボイスメールへの着信転送*
%SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	Y	Y	true	*6.1.8.1 SIP フェイルオーバー*
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.13 通話を移動*
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.42 PSTN/モバイル通話のノイズ除去と帯域幅拡張*
%DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%	N	Y	空	*6.3.5.1 ネイティブのダイヤラーで発信する*
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.20 転送*
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	Y	Y	true	*6.1.48 RTCP-XR*
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	N	Y	フォルス	*6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID* *発信発信者* ID
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%	N	Y	フォルス	*6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID* *発信発信者* ID
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	N	Y	フォルス	*6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID* *発信発信者* ID

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	N	Y	フォルス	*6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID 発信発信者* ID
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%	N	Y	フォルス	*6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID 発信発信者* ID
%ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.49 着信の転送*
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	Y	N	true	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	Y	N	0	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	Y	N	フォルス	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	Y	N	120	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%UDP_KeP_Kepalive_ENABLED_WXT%	Y	Y	true	*6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する*
%TCP_keepalive_ENABLED_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する*
%TLS_kepalive_ENABLED_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する*
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.51 複数行*
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	N	Y	フォルス	*6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレートする (Webex Calling)*
%ENABLE_CLID_DElivery_BLOCKING_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.5.3 発信発信回線 ID (CLID) - デュアル ペルソナ*

Cisco 社外秘

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	デフォルト値	項
%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%	N	Y	フォルス	*6.3.5.3 発信発信回線 ID (CLID)*
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	Y	Y	解決済み	*6.1.50.2 リモート発信者 ID 名*
%PERSONAL_ASSIStant_ENABLED_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中)**Error! Reference source not found.***
%PN_FOR_CALLS_DElivery_mode_WXT%	N	Y	nps	***Error! Reference source not found.*** *配信モード (Webex のみ)*
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	Y	Y	フォルス	*6.1.52 **Error! Reference source not found.**.*

Cisco BroadWorks の Webex で使用されるカスタム タグを UC-One で使用されるカスタム タグにマッピングする方法の詳細については、セクション *8 Cisco BroadWorks 用 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング*を参照してください。

Cisco 社外秘

6.1 共通機能

6.1.1 SIP サーバの設定値

クライアントは通常、SIP ネットワークを使用するように構成されます。これには、 *config-wxt.xml* ファイルを変更します。 通常、次のパラメータを変更する必要があります。

- SIP ドメイン。 これは、自身の SIP URI (自分の SIP URI は回線ポートと呼ばれることもあります)のドメイン部分として、SIP ヘッダーとリモート (XSI) コール全般で使用されます。 SIP URI のユーザ部分は、SIP 証明書の設定 (<credentials>の下のパラメータ <username>) から取得されます。
- SIP プロキシサーバの URI または IP アドレス 解決が失敗する場合の DNS を指定します。 TLS, IP アドレスをプロキシ パラメーターで使用できないことに注意してください。 これは TLS 証明書の検証が失敗するためです。 プロキシポートの詳細については、DM タグ %SOURCE_PORT_WXT% を参照してください。 プロキシ アドレス パラメーターで IP アドレスが使用されている場合、DNS TTL 管理機能は使用できないことに注意してください。 これらの理由により、このフィールドに IP アドレスを使用することはお勧めできません。

他のパラメータを変更して、通話のさまざまな機能を有効にすることもできます。 ただし、以前の設定では、次の基本機能が有効になります。

- SIP ネットワークに登録しています。
- 音声またはビデオ コールを発信する。
- 複数のプロキシの使用を可能にする DNS ベースのプロキシ検出を実行する。

SIP 登録が有効になったら、MWI の SIP SUBSCRIBE の有効化は、別の設定パラメータで行う必要があります。 ボイスメールの詳細については、「」を参照してください *6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ*。

SIP 通話が無効になっている場合でも、基本的な SIP 設定は常に MWI に必要です。 MWI は SIP NOTIFY を使用します。

SIP サーバのセットアップは、この基本スキームに従います。

- プロキシ アドレスには SIP サーバ URI が含まれます。
- 定義できるプロキシは 1 つだけです。
- DNS プロキシ検出は多くのプロキシのサポートを提供します。プロキシには DNS の適切なセットアップが必要です。

さらに、SIP タイマーは構成ファイルで公開されます (変更は推奨されません)。

```
<config>
<プロトコル>
<sip>
    <タイマー>
        500
        4000
```


Cisco 社外秘

```
        5000
    </timers>
```

- T1 – ネットワーク往復遅延時間 (ミリ秒) です。
- T2 – 招待以外の要求と招待の応答を再送信するまでの最大時間 (ミリ秒)。
- T4 – メッセージがネットワークに残る最大時間 (ミリ秒)。

各回線にはボイスメール番号、電話会議 URI、ドメイン、SIP 認証資格情報などの独自のパラメータがあります。 必要に応じて、401 および 407 シグナリングに別の資格情報を設定できます。

以下の例と表は、SIP 構成に使用される最も一般的な DM タグに関する情報を提供します。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<Linesmulti-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
        <回線>
                <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
                <name>%BWNAME-1%</name>
                <phone-number>%BWE164-1%</phone-number>
                <extension>%BWextension-1%</extension>
                <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
                <ボイスメール番号>%BWVOICE-ポータル番号-1%</ボイスメール番号>
                <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
1%</conference-service-uri>
                <domain>%BWHOST-1%</domain>
                <サインイン情報>
                        <username>%BW ラインポート-1%</username>
                        <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                        <auth>
                                <auth401>
                                        <デフォルト>
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </default>
                                        <relm id="%BWHOST-1%">
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </relm>
                                </auth401>
                                <auth407>
                                        <デフォルト>
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </default>
                                        <relm id="%BWHOST-1%">
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </relm>
                                </auth407>
                        </auth>
                </資格情報>
        </行>
        …
</行>
```


Cisco 社外秘

```
<proxy address="%SBC_ADDRESS_WXT%"port="%SBC_PORT_WXT%" />
<preferred-port>%SOURCE_PORT_WXT%</preferred-port>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%BW ラインポート-n%	空	文字列	通常は SIP ユーザ名です。 詳細については、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ* を参照してください。 例: johndoe
%BWAUTHPASSWORD-n%	空	文字列	通常 SIP パスワードです。 詳細については、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ* を参照してください。 例: シークレットパスワード
%BWE164-n%	空	電話番号	ユーザの既定の電話番号 (国際形式) です。 詳細については、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ* を参照してください。 例: 12345678
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	詳細については、セクション *5.6 システムデフォルトタグ*を参照してください。 例: sbcexample.domain.com
%SBC_PORT_WXT%	5060	number	詳細については、セクション *5.6 システムデフォルトタグ*を参照してください。 例: 5060
%BWHOST-n%	空	文字列	通常、SIP ドメインとして使用されます。 詳細については、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ* を参照してください。 例: exampledomain.com
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	number	通常、 *優先ポート* パラメータで使用します。 詳細については、セクション *6.1.7 SIP の優先ポートの使用状況*を参照してください。 例: 5061
%BWUSEREXID-n%	空	文字列	(Webex Calling のみ) 回線の外部 ID を保持します 詳細は *6.1.51 複数行* を確認してください。 例: 30f69bf7-710b-4cd0-ab4b-35ab393a1709

Cisco 社外秘

メモ : モバイル端末での標準 SIP ポート (5060) の使用に関する既知の問題のため、SIP ポートは 5060 とは別のもの (例えば 5075) を使用することを強く推奨します。

6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol

クライアントは TLS 上の SIP シグナリングとメディア暗号化に Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) を使用するように設定できます。 ただし、次の例に示すように、これらの機能は構成で有効にする必要があります。 動的 SIP プロキシ検出が使用される場合、DNS SRV 優先順位は、このような静的パラメータを上書きします (%USE_TLS_WXT%)、非 TLS トランスポートは、DNS SRV でより高い優先順位を持っている場合、使用されることにも注意してください。 動的 SIP プロキシ検出の詳細については、「」を参照してください *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出。*

動的プロキシ検出が使用されていない場合、SIP の TLS を有効にすると、それが使用されます。

SIP ALG がネットワークで使用される場合の SIP ポートとトランスポートプロトコルの推奨の詳細については、『 *RTCP for Cisco BroadWorks ソリューションガイド』を参照してください。*

使用する証明書は有効なものでなければなりません。 さらに、中間証明書もリンクされるように、証明書チェーンが損なわれていない必要があります。 広く使用されている証明書を使用して、デフォルトでデバイスにすでに存在するようにすることをお勧めします。 手動または一括プロビジョニングを使用して、ローカルのデスクトップ マシンに証明書を追加することも可能ですが、通常はこれは行われません。

メディア暗号化に関連する SRTP を有効にするには、別の設定があります。

RTP, RTP に加えてトラフィックは、上記の構成を使用して、RTP と同じメカニズムで保護できます。

SIP/TLS 暗号については、を参照してください *付録 A: TLS 暗号。*

SRTP は、3 つの異なる側面でメディア ストリームのセキュリティを提供するために使用されます。

- 機密性 (データは暗号化されます)
- 認証 (相手方の身元確認)
- 整合性 (リプレイ攻撃などに対する対策)

メディアフレームワークの現行バージョンは、保護のために AES 128 カウンターモードをサポートし、認証のためにハッシュメッセージ認証コード (HMAC)-SHA-1 をサポートしています。 マスターキーのサイズは 16 バイトで、マスター Salt は 14 バイトです。

Cisco 社外秘

メディア フレームワークは、完全 (80 ビット) と短い (32 ビット) 認証タグの両方をサポートしています。 クライアントは SIP シグナリングの一部として SDP 内でキーを交換し、通話の両側は使用するキーを反対側に送信します。

SRTP は次の例に示す構成を使用して有効にできます。 現在の実装では、SDP セキュア RTP プロファイルのみを使用し、 Audio Visual Profile (AVP) および Secure Audio Visual Profile (SAVP) エントリに対して複数行の SDP をサポートしています。 SRTP の実装は、さまざまな SBC の通常の展開構成で正常にテストされています。 AVP プロファイルを使用した暗号化のみをサポートするエンドポイントとの相互運用性テスト (IOT) には対応していません。

複数行の M 行が常に使用されるように、SRTP に関連する複数行の SDP 手順が実装されます。 AVP と SAVP に別々の m 行が使用されます。

ただし、SBC の設定は慎重に行う必要があります。特に、SDP の RTP/SAVP に関連付けられている着信 m= 回線が削除されていないことを確認してください。

いくつかの異なるネットワーク構成が可能ですが、一部の展開では SBC がメディア トラフィックに関与せず、他の展開では SBC に向かう各クライアント RTP メディア レッグが別々に暗号化され、SBC 経由でネゴシエートされます。 一部の展開では、SBC は複数の SDP 回線を許可しません。

SBC はまた、AVP (非暗号化) または SAVP (暗号化) モバイル回線を最初に配置して、コール セットアップ時に SDP マルチ ラインの順序を変更することもできます。 そのため、最初に機能するマルチラインを選択するクライアントは、暗号化されたトラフィックまたは暗号化されていないトラフィックのいずれかを優先するように作成されます。 さまざまな SRTP 設定オプションは次のとおりです:

- 必須 - 通話のセットアップ時に、提供時に最初の SDP には SAVP m 行のみが含まれ、クライアントは応答時に SDP で SAVP m 行のみを受け入れます。したがって、SRTP 通話のみが可能です。
- 優先 – コールのセットアップ時に、最初の SDP には AVP と SAVP の両方の m 行が含まれますが、提供するときは SAVP が最初で、優先順位が示されます。 応答するとき、クライアントは SAVP を選択します (利用可能な場合でも、最初の m 行でなくても) (SIP 仕様により、m 行の順序は応答時に変更されません)。
- オプション – 通話のセットアップ時に、最初の SDP には SAVP と AVP の両方の行が含まれますが、AVP は最初に優先順位を示します。 応答するとき、クライアントは最初のマルチライン (AVP または SAVP) を選択します。
- SRTP が有効になっていない – 提供時の最初の SDP に SAVP の行がありません。 応答するとき、SAVP は受け入れられないため、#dntr_bifeje げ z 発信のみが可能です。
- トランスポート - トランスポート プロトコルに基づいて SRTP モードを自動的に選択します。 TLS が使用されている場合、必須の SRTP モードが有効になります。 TCP または UDP が使用されている場合、SRTP は使用されません。

SRTP と RTP は通話の両方向で対称です。つまり、送信と受信のプロファイルは同じです。

Cisco 社外秘

```
<config>
<プロトコル><sip>
<セキュア>%USE_TLS_WXT%</セキュア>
```

```
<config>
<プロトコル><rtp>
<secureenabled="%SRTP_ENABLED_WXT%" mode="%SRTP_MODE_WXT%" rekey-
always="%ENABLE_REKEYING_WXT%"/>
```

SRTP が有効な場合、セキュア リアルタイム コントロール プロトコル SRTCP も使用されます。

一部の展開では、SRTP の再キーイングはサポートされません。 そのため、SRTP の再キーイングを有効/無効にするための設定パラメータがあります。 ただし、rfc3264 に従って更新された SDP で受信されると、新しいキーが常に使用されます。 構成可能性は、新しいキーの送信にのみ関係します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_TLS_WXT%	フォルス	true、false	「false」に設定すると、SIP TLS が非アクティブになります。 "true" に設定すると、SIP TLS が有効になります。 次のことに注意してください: *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出* が使用されている場合、このパラメータは無視されます。
%SRTP_ENABLED_WXT%	フォルス	true、false	false に設定すると、SRTP は無効になります。 "true" に設定すると、SRTP が有効になります。
%SRTP_MODE_WXT%	オプション	必須、優先、オプション、トランスポート	通話セットアップ時の SRTP の優先度を定義します。 既定値は「optional」です。
%ENABLE_REKEYING_WXT%	true	true、false	SRTP の SIP (SDP) キー再生成を有効にします。

注意: ICE サポートが有効になっている場合 (*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling* のみ)を参照)、キー更新が常に実行されます (設定の%ENABLE_REKEYING_WXT% 値は無視されます)。

Cisco 社外秘

6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー

新しい 3GPP 仕様では、追加の SIP ヘッダーでセキュアなリアルタイム転送プロトコル (SRTP) を使用する必要があります。 詳細については、 *3GPP TS 24.229* および以下を参照してください。

https://tools.ietf.org/html/draft-dawes-dispatch-mediasec-parameter-07

この仕様で要求されるヘッダーは、この仕様が使用されていない展開での SIP 通話を破壊する可能性があります。 そのため、これらのヘッダーはサーバ側でサポートされている環境でのみ使用することが推奨されます。

ヘッダーの使用のみを有効にできます。 個々のヘッダーには、これ以上の設定はできません。すべてのヘッダーが有効または無効になります。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<use-mediasecenabled="%USE_MEDIASEC_WXT%"/>
```

次の タグはこの機能を制御します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_MEDIASEC_WXT%	false	true、false	SRTP ネゴシエーションで 3GPP SIP ヘッダーを有効にします。

6.1.4 TCP, TLS または UDP の使用状況とキープアライブを強制する

Cisco BroadWorks クライアント用の Webex は、SIP シグナリングと RTP メディアの両方に TCP, TLS または UDP のいずれかを使用するように構成できます。 クライアントのデフォルトは TCP です。 TCP キープアライブがないと、非アクティブ状態が一定時間続いた後、SIP TCP 接続が閉じることに注意してください。

以下の例は、この構成ノードを示しています。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<トランスポート>
    <tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%</tcp-size-threshold>
```

次の タグは、クライアントが TCP または UDP のどちらを使用するかを制御します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値 (バイト)	説明
%TCP_SIZE_THRES ホールド_WXT%	0	0	TCP の使用を強制します。 クライアントに TCP または UDP を使用するかどうかは、サービスプロバイダーが決定します。TCP をデフォルト値の 0 で使用することをお勧めします。

Cisco 社外秘

	0	1 - 99,000	メッセージサイズがここで指定した値を下回る場合に、強制的に UDP が使用されます。 メッセージサイズが設定値より大きい場合、デフォルトで TCP になります。 UDP を使用する場合、デフォルトの推奨値は 1500 です。
	0	100000	強制的に UDP を使用します。

同じ構成ノードには、次の例に示すように、UDP, TCP および TLS キープアライブのパラメーターもあります。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<トランスポート>
        …
        <udp>
                <keepaliveenabled="%UDP_keepalive_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>20</timeout>
                        <payload>crlf</payload>
                </keepalive>
        </udp>
        <tcp>
                <keepaliveenabled="%TCP_kepalive_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tcp>
        <tls>
                <keepaliveenabled="%TLS_keepalive_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tls>
</トランスポート>
```

可能なパラメータは以下のとおりです。

- TCP または TLS キープアライブの有効化、可能な値 - true/false、ノードが見つからない場合のデフォルトは「false」です。 この機能が有効な場合、TCP キープアライブは UDP トランスポートが SIP に使用されている場合でも送信されます。
- UDP キープアライブの有効化、取り得る値 - true/false、ノードが見つからない場合のデフォルトは「true」です。 この機能が有効な場合、UDP キープアライブは SIP で TCP トランスポートが使用されている場合でも送信されます。 さらに、TCP が SIP に使用されている場合でも、クライアントは *RFC 3261*に従い、UDP 上のトラフィックも受け入れます。
- タイムアウトは、キープアライブメッセージが送信されるまでの最大非アクティブ時間を秒単位で指定します。 値がない場合、キープアライブがプロトコルで無効になります。
- キープアライブメッセージのペイロード、取り得る値(値がない場合は、そのプロトコルでキープアライブが無効であることを意味します):

Cisco 社外秘

- エラー
- Null (使用されません)
- カスタム文字列 (使用不可)

キープアライブは、NAT トラバーサルの目的で使用され、わずかな追加トラフィックで NAT バインディングを開いたままにしておくことができます。

キープアライブのためのサーバ IP アドレスとポートは、SIP プロキシ検出の通常の手順を使用して決定されます。 SIP 動的プロキシ検出で取得した SIP ポートおよびトランスポートプロトコルの選択は、静的ポートまたはトランスポート設定を上書きすることに注意してください。動的プロキシ検出の詳細については、を参照してください *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出。*

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%UDP_kepalive_ENABLED_WXT%	true	true、false	UDP トランスポートにキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TCP_kepalive_ENABLED_WXT%	フォルス	true、false	TCP トランスポートにキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TLS_kepalive_ENABLED_WXT%	フォルス	true、false	キープアライブ パケットが TLS トランスポートに送信されるかどうかを制御します。

6.1.5 SIP ソケットを開くための構成可能なタイムアウト

以前は、SIP ソケットを開くためのタイムアウトは、TCP では 5 秒、TLS では 10 秒にハードコードされていました。 これらのタイムアウトは構成可能になりました。

```
<config>
    <プロトコル>
        <sip>
            <トランスポート>
                <udp>
                    …
                </udp>
                <tcp>
                    …
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
                </tcp>
                <tls>
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
                </tcp>
            </トランスポート>
```


Cisco 社外秘

次のタグは、ソケット接続のタイムアウト ミリ秒を制御します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	5000	<整数>-ミリ秒単位のタイムアウト	TCP トランスポート使用時のソケット接続のタイムアウトを修正しました。
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	10000	<整数>-ミリ秒単位のタイムアウト	TLS トランスポート使用時のソケット接続のタイムアウトを修正しました。

6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出

SIP 動的プロキシ検出機能を有効にするには、以下の例を参照してください。

```
<config>
<プロトコル><sip>
プロキシ検出が有効になりました="%USE_PROxy_DISCOVERY_WXT%" tcp="%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%"
udp="%USE_UDP_FROM_DNS_Wgt%" tls="%USE_TLS_FROM"__;
    record-name>%SBC_ADDRESS_WXT%</record-名前>
     domain-override>%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%</domain-override>
</proxy-discovery>
```

DNS SRV からのどのトランスポート プロトコル エントリーが使用されるかを制御することが可能です。多くの場合、このセクションで提供される手順に従って使用されます。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	false	true、false	音声通話とビデオ コールの動的 SIP プロキシ検出を有効にします。 推奨値は true です。
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	この Cisco BroadWorks タグは通常、record-name パラメータに使用されます。 有効な URL を指定してください。IP アドレスは使用できません。 詳細については、セクション *5.6 システムデフォルトタグ*を参照してください。 例: sbc.domain.com
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	空	文字列	このカスタム タグはドメインの上書きに使用されます。詳細については、次のセクションを参照してください。 例: other.domain.com

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル (TCP) の DNS SRV 結果は破棄されます。 True の場合、このトランスポート プロトコルの DNS SRV (TCP) の結果が使用されます。 SRV の優先順位によっては、別のトランスポートが選択される場合があります。
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル (UDP) の DNS SRV 結果は破棄されます。 True の場合、このトランスポート プロトコル (UDP) の DNS SRV からの結果が使用されます。 SRV の優先順位によっては、別のトランスポートが選択される場合があります。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル (TLS) の DNS SRV 結果は破棄されます。 True の場合、このトランスポートプロトコル (TLS) の DNS からの結果が使用されます。 SRV の優先順位によっては、別のトランスポートが選択される場合があります。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	true、false	true	DNS バックアップ サービスを有効/無効にします。 有効な場合、A/AAAA 解決が SIP プロキシ アドレスに対して実行されます。 SRV/NAPTR サービス検出が有効な場合にのみ考慮されます。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	true、false	true	「true」に設定し、NAPTR サービスの検出が失敗したか、結果を返さない場合、構成された主催者に対して SRV サービスの検出が実行されます。 False に設定すると、SRV 検出は実行されません。
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	true、false	false	OS DNS キャッシュのバイパスを許可します。

DNS により、クライアントは RFC 3263 に準拠した SIP プロキシの IP アドレス、ポート、およびトランスポートプロトコルを取得できます。

DNS SRV、 命名機関ポインタ (NAPTR) および A レコードのクエリがサポートされています。 ログイン時の 3 ステップ フローは以下の通りです。

1. NAPTR クエリは、 *<レコード名>* フィールド 存在する場合は、トランスポートプロトコルを持つサーバ URI を取得します。 の値は、 *<レコード名>* パラメータには DNS が解決するフルドメインを指定します。IP アドレスは指定できません。

Cisco 社外秘

2. SRV クエリを使用して NAPTR クエリで見つかった項目を解決し、最終的なサーバ URI とポートを取得します。 SRV クエリで使用されるドメイン部分は、NAPTR クエリの結果から取得され、最終的なサーバ URI (およびポート) を検索します。 DNS SRV-query から受信したポートは、DNS SRV エントリが利用できる場合に使用されます。 ポートは、構成ファイルからのみ、構成ファイルの静的プロキシに適用され、SRV を使用して解決された URI には適用されないことに注意してください。 さまざまなレコード名の使用例を次に示します。

   NAPTR が見つからない場合、クライアントは *<domain>* パラメータから取得したレコード名で SRV クエリを試みます。 *<domain-override>* パラメータ *<domain-override>* が使用され、自動的に TCP, UDP, の別のエントリを探しますおよび TLS (*_sip_protocol* [UDP, TCP, または TLS]). ストリームコントロール伝送プロトコル (SCTP) には対応していません。 SRV クエリで結果が得られなかった場合、プロキシ検出は失敗し、エンドユーザには通話が利用できないことを示すエラーが表示されます。 この場合、SIP 登録は行われません。 ただし、すべての SRV クエリが失敗した場合、またはそこで受信したサーバが機能しない場合でも、フォールバックとして、クライアントは構成された静的プロキシが機能するかどうかを引き続き確認します。 機能する SIP 登録を提供する IP アドレスを生成するかどうかを確認するためです。 この最後の手段としてのポートとトランスポートは、 *tcp-threshold* および *<secure>a14>* パラメータにより決定されます。

3. A レコードクエリーを使用して、見つかった URI を解決します。 受信された最終的な IP アドレスは、SIP プロキシへの有効な接続を取得するために、受信された順に試行されます。 この順序は、サービス プロバイダーの URI. A レコードの検索に成功した最初の SIP プロキシ URI が選択され、機能しなくなるか、クライアントがログアウトするまで、使用されます。 A-query ステップでは、多数のアドレスを受信した場合でも、IP アドレスは一度に 1 つしか使用されません。 ただし、すべての SRV エントリは、ログアウトするかネットワークが切断されるまで解決されます。

重要な メモ

メモ 1: DNS プロキシ検出の結果、SRV ステップでトランスポートプロトコル用の動作中の SIP プロキシ URI を受信することで、トランスポートプロトコルの選択が行われる場合、 *tcp しきい値が上書きされます。* パラメータは通常、構成ファイルで UDP または TCP を選択するために使用されます。 同じことが SIP/TLS の設定にも適用されます。 TCP または UDP は、DNS の優先順位に応じて使用されます。

メモ 2: SRV 経由で受信したアイテムは、構成ファイル内の静的プロキシよりも優先されます。 NAPTR 注文は考慮されません。SRV 優先順位のみがカウントされます。 SRV の結果、トランスポート プロトコル、優先順位、重みが等しい複数の項目が得られた場合、受信した項目がランダムに選択されます。 NAPTR

Cisco 社外秘

重みはこのリリースではサポートされていませんが、SRV
重みはサポートされています。 SRV
優先順位が最初に確認され、同じ優先順位の項目については、特定のサーバが次に試行される可能性を判断するために重みが確認されます。

注意 3: オプションの *domain-override* パラメータにより、SIP
ドメイン設定パラメータ中の名前以外の A レコード名を SRV
で解決することができます。NAPTR 結果が省略された場合。
*ドメインオーバーライド*パラメータの使用例を参照してください。

メモ 4: クライアントは DNS
操作にオペレーティングシステムのプリミティブを使用します。通常、DNS
応答はキャッシュされ、DNS 応答の TTL に従います。

メモ 5: NAPTR レコード用の DNS タイプ (サービス) は *RFC 3263*
手順に従う必要があります。従わない場合、DNS 解決は失敗する可能性があります。
たとえば、TLS 上の SIP には SIPS+D2T を使用する必要があります。

メモ 6: クライアントは NAPTR
サービスの特定のプレフィックスのみをサポートします。
サポートされているプレフィックスを次に示します。

SIP+D2U -> _sip._udp

SIP+D2T -> _sip._tcp

SIPS+D2T -> _sips._tcp

SIPS+D2T -> _sips._tls

NAPTR 応答にサービス
タイプと一致しないプレフィックスのレコードが含まれる場合、このレコードは無視されます。

例 1: ドメインオーバーライド設定パラメータなしで DNS プロキシ検出を使用する

以下は、TCP 上の SIP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR
クエリが結果を返す場合の、SIP プロキシ検出を使用する構成の例です。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<proxy address="domain.com"port="5060"/>
<proxy-discoveryenabled="true" >
    <レコード名>record-domain.com</レコード名>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```


Cisco 社外秘

これにより、プロトコルレベルで以下の手順が必要になります。

```
1. record-domain.com に対する NAPTR クエリの回答:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
2. _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (NAPTR クエリで受信) に対する SRV
クエリ、回答
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. SRV で 28635
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.
3.  test.sipgeo.record-domain.com のレコードクエリー、回答:
test.sipgeo.record-domain.com をご覧ください。 16 日 に 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で IP アドレス 1.2.3.4 に向けて行われます。

例 2：構成ファイルで domain-override パラメーターを使用する

以下は、SIP プロキシ検出を使用する設定の 2 番目の例です。この場合、SIP ドメインはプロキシ ドメインとは異なり、UDP 上の SIP のみが使用され、NAPTR クエリは結果を返しません。

```
<config>
<protocols><sip
<プロキシアドレス=domain.com " ポート="5060"/>
<proxy-discoveryenabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルで以下の手順が発生します。

```
1. record-domain.com に対する NAPTR クエリ、応答なし。
2. _sip._tcp.override-domain.com (構成ファイルから) の SRV クエリ、回答
_sip._tcp.override-domain.com. SRV で 28635
10 10 5061  test.override-domain.com。
3. A レコードのクエリー test.override-domain.com、回答:
test.sipgeooverride-domain.com。 16 日 A 4.3.2.1
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して UDP 経由で IP アドレス 4.3.2.1 に向けて行われます。

例 3： SRV 優先順位を使用する

以下は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリーが結果を返すが、異なる優先順位を持つ複数の NAPTR および SRV レコードが受信される場合の、SIP プロキシ検出を使用する構成の別の例です。 この場合、さまざまな優先順位を持ついくつかの NAPTR レコードも受信されますが、このリリース イベントでは SRV 優先順位のみが問題になります。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<プロキシアドレス=domain.com " ポート="5060"/>
<proxy-discoveryenabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
```


Cisco 社外秘

```
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルで以下の手順が発生します。

```
1. record-domain.com に対する NAPTR クエリの回答:
record-domain.com。
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" " _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 120 10 "S" "SIPS+D2U" "" _sip._udp.test.sip.record-domain.com.

2. _sip._tcp.test.sip.record-domain.com に対する SRV クエリ (NAPTR クエリで受信)、回答
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. SRV で 28635
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

 _sip._udp.test.sip.record-domain.com (NAPTR クエリで受信) の SRV クエリ、応答
_sip._udp.test.sip.record-domain.com. SRV で 28635
20 10 5062 test.sipgeo.record-domain.com.

3.  test.sipgeo.record-domain.com の A レコードクエリー、回答:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 日 に 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV の手順で受信) を使用して TCP 経由で、UDP と TCP の両方に対応する IP アドレス 1.2.3.4 に向けて行われます。

例 4: サービスがサービス タイプと一致しない場合に、NAPTR で DNS プロキシ検出を使用する

以下は、TCP および TLS 上の SIP が使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返す場合の、SIP プロキシ検出を使用する構成の例です。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<proxy address="domain.com"port="5060"/>
<proxy-discoveryenabled="true" tcp="true" udp="false" tls="true">
    <レコード名>record-domain.com</レコード名>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルで以下の手順が必要になります。

```
1. record-domain.com に対する NAPTR クエリの回答:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tls.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.

2.
最初のレコードには、サービスタイプ「SIPS+D2T」があり、プレフィックスは「sip._tls.」です。
このプレフィックスはサービス タイプと一致しないため (上記のメモ 6 を参照)、無視されます。

3. _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (NAPTR クエリで受信) に対する SRV
クエリ、回答
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. SRV で 28635
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

3.  test.sipgeo.record-domain.com のレコードクエリー、回答:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 日 A 1.2.3.4
```


Cisco 社外秘

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で、IP アドレス 1.2.3.4 に対して実行されます。

6.1.7 SIP の優先ポートの使用状況

別のソフトウェアパッケージがクライアントと同じマシンで実行されていて、デフォルトの SIP ポートを占有している場合がありました。 SIP に別のポートを使用するようにクライアントを設定するには、 *preferred-port* パラメータを使用します。 クライアントは *preferred-port* パラメータで指定された設定済みポート値の使用を試みます。しかしそれが使用される場合、クライアントは徐々に設定済み値の上のポート値を試みます。 例えば、 *preferred-port* の値が「6000」である場合、そのポートが使用されると、クライアントは見つかるまで 6001、6002、6003、... を試行します。未使用のポート。 未使用のポートが見つかると、それを自身の SIP 通信に使用します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	number	通信で使用するローカル SIP ポートを指定します。 例: 5060

6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック

SIP フェールオーバーおよびフェールバックは、Cisco BroadWorks の手順に従います。 このためには、複数のプロキシ (通常は SBC) を設定する必要があります。

クライアント側で、プロキシは複数の IP アドレスに解決される必要があります。 これは、次のいずれかの方法で実現できます。

- SIP プロキシ探索が有効で、DNS サーバに SBC FQDN (セクション *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*を参照)の NAPTR および/または SRV レコードがある、または
- SIP プロキシアドレスは FQDN として提供され、複数の IP アドレスに解決されます (セクション *6.1.1 SIP サーバの設定値*を参照)。

オペレーティング システムの DNS キャッシュは、不要な DNS トラフィックを避けるために使用されます。 リスト中の IP アドレスの最大数には、ハードコードされた制限はありません。

サインイン時に、複数の IP アドレスが解決された場合、それらは優先度順に並べられます。 クライアントは利用可能な最初の IP アドレスを使用して開始します。

Cisco 社外秘

6.1.8.1 SIP フェイルオーバー

SIP フェイルオーバーは、ソケットエラー、リクエストタイムアウトエラー、またはサーバからの決定的なエラー応答のいずれかによってトリガーされる可能性があります。

- ソケットエラー – クライアントとサーバ間のソケットが壊れたり閉じられたりすると、ネットワーク接続が失われた場合のように、クライアントは即座に反応し、フェイルオーバーをトリガーします。
- タイムアウト (例えば、SBC がハングしたとき) – SIP T1 に基づく:
  - SIP INVITE – INVITE 要求がタイムアウトになった場合、クライアントは次に利用可能な SBC (IP) に登録し、INVITE を再試行します。
  - 別の SIP 要求 - クライアントは次に利用可能な SBC (IP) への登録を試みます。
- サーバから決定的なエラー応答を受け取りました:
  - SIP REGISTER に対するサーバからの以下の SIP エラー応答がフェイルオーバーをトリガーします。
    - 5xx
    - 6xx
  - 以下の SIP *4xx* SIP REGISTER 応答では、フェイルオーバーが発生しません。
    - 401 未認証
    - 403 禁止
    - 404 Not Found
    - 407 プロキシ認証が必要
    - 423 間隔が短すぎる
  - さらに、 *4xx* SIP INVITE へのエラー応答はフェイルオーバーをトリガーしませんが、 *5xx* および *6xx*

フェイルオーバーがトリガーされると、クライアントは次に利用可能な IP アドレスをリストから取得します。 SIP T1 タイマーは、リスト上のプロキシが次のプロキシに移るまでに試行される時間を定義します。通常は 32 秒の値が使用されます (64*T1)。 すべての IP アドレスが失敗した場合、クライアントは SIP 接続のユーザ インターフェイス エラーを表示します。 フェールオーバーが発生したときに VoIP 通話が進行中の場合、通話は終了します。

SIP フェールオーバー ロジックは、いくつかの構成パラメータに依存しています。

- SIP フェールオーバー タイマー - SIP タイマー T1、T2、および T4 は構成ファイルで公開されますが、それらを変更することはお勧めできません。

```
<config><protocols><sip>
<timers>
    500
    4000
    5000
```


Cisco 社外秘

```
</timers>
```

- T1 – ネットワーク往復遅延時間 (ミリ秒) です。
- T2 – 招待以外の要求と招待の応答を再送信するまでの最大時間 (ミリ秒)。
- T4 – メッセージがネットワークに残る最大時間 (ミリ秒)。

- SIP プロキシ アドレスおよび SIP プロキシ検出
  - のセクションを参照してください。 *6.1.1 SIP サーバの設定値*。
  - のセクションを参照してください。 *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*。
- 登録フェールオーバー構成 (下記を参照)

フェールオーバーの場合、Webex アプリケーションは 2 つの Contact ヘッダー (古いセッション用と新しいデバイス情報用の 1 つ) を含む SIP 登録を送信します。 古いセッションの Contact ヘッダーは、データをクリーンアップするよう SBC に通知するために含まれます。 このヘッダーには、expires=0 および q=0.5 が含まれます。

新しいデバイス情報を含む Contact ヘッダーには、 *<q-value>* タグから読み取られる q 値もあります。 *<q-value>* タグの値は、特定の連絡先アドレスの基本設定や優先順位を示すために使用されます。 値の範囲は 0 1.0 で、1.0 が最高の基本設定、0 が最低の基本設定です。 このタグには値をコントロールするためのカスタムタグがありません。1.0 にハードコードされています。 展開で使用される SBC に逆のロジックがあり、q=0.0 を最高の優先順位で扱う場合、値は手動で調整できます。

リリース 42.11 以降、新しい *<register-failover>* セクションが設定テンプレートに導入されています。 新しい設定可能なパラメータ *<registration-クリーンアップ>* があり、アプリケーションが古い端末情報を消去するために Contact ヘッダーを送信するかどうかをコントロールします。 一部の SBC はソケットが切断されるとすぐに古いセッションをクリーンアップするため、古いセッションの Contact ヘッダーの存在は必要ありません。 デフォルトでは、登録のクリーンアップ ロジックは有効になっています。

一貫性を保つために、 *<q-value>* タグも同じ *<register-failover>* </a12 の下に移動しました。> セクションです。

例:

```
<config>
<プロトコル><sip>
   <q-value>1.0</q-value><!-- 廃止済み -->
   <register-failover>
      <registration-
クリーンアップ>%SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEARUP_WXT%</registration-crunup>
      <q-value>1.0</q-value>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	true	true、false	SIP フェイルオーバー時の古いデバイス情報のクリーンアップを制御します。

6.1.8.2 SIP フェールバック

クライアントが優先順位で 1 位ではないプロキシに接続している場合、最高優先順位の IP への再接続を試みます。 フェールバックの時間は、DNS TTL 管理設定に基づきます (セクション *6.1.8.4 DNS TTL 管理*を参照)。 呼び出しが進行中のときにフェールバック タイマーに達した場合、クライアントはすべての呼び出しが完了するまで待機し、フェールバック手順をトリガーします。 SIP 接続はモバイルでの通話中にのみアクティブになるため、これはデスクトップ クライアントに対してのみ有効であることに注意してください。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	true	true、false	SIP フェールバックを有効または無効にします。
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	900	60 歳以上	SIP フェールバック タイムアウト (秒)。
パーセント	フォルス	true、false	SIP フェールバックの [0-10]% のランダムな期間を追加します。

6.1.8.3 バージョン IP の適用

Webex クライアントは、解決された主催者のリストを DNS を通じて注文し、SIP フェールオーバーの場合にそれらを反復処理する方法を構成できます。 すべてのモードで、優先順位と重みが尊重されます。

サポートされている構成は次のとおりです。

- Dns - DNS クエリによって返されたすべてのアドレスを使用します
- ipv4 - IPv6 アドレスをフィルタリングします
- ipv6 - IPv4 アドレスをフィルタリングします
- Prefer-ipv4 – IPv6 (リリース 42.9) より前に IPv4 アドレスを注文する
- Prefer-ipv6 – IPv4 (リリース 42.9) の前に IPv6 アドレスを注文します。
- nat64 – IPv6 アドレスを無視し、IPv4 のものを注文します (リリース 44.2)

環境/ネットワーク設定で別のモードが必要な場合を除き、デフォルト値 dns の使用をお勧めします。

Cisco 社外秘

「dns」設定では、特定の主催者に対して、IPv6 アドレスよりも IPv4 アドレスに優先順位が付けられます。 IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つ主催者が 2 人いる場合、順序は IPv4(host1)、IPv6(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host2) になります。

「prefer-ipv4」モードでは、IPv4 アドレスが IPv6 アドレスの前に並べられます (IPv4 および IPv6 グループ内の順序は変わりません)

例: IPv4(host1), IPv4(host2), IPv6(host1), IPv6(host2)。

「prefer-ipv6」モードでは順序が逆になり、IPv6 アドレスは IPv4 アドレスの前に配置されます。

例: IPv6(host1)、IPv6(host2)、IPv4(host1), IPv4(host2).

「nat64」モードでは、IPv6 アドレスは無視され、IPv4 の順序は尊重されます。 IPv6 プレフィックスが検出されます。 各 IPv4 アドレスについて、各 Pref64 プレフィックスおよび/またはサフィックスとの組み合わせが作成されます。

例: Pref64(1)::IPv4(host1)、Pref64(2)::IPv4(host1)::Suff64(2), IPv4(host1)::Suff64(3)、Pref64(1)::IPv4(host2)、Pref64(2))::IPv4(host2)::Suff64(2), IPv4(host2)::Suff64(3).

```
<config>
<プロトコル><sip><トランスポート>
<enforce-ip-version>%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%</enforce-ip-version>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	dns	ipv4 ipv6 dns Prefer-ipv4 Prefer-ipv6 nat64	Webex クライアントが SIP セッションに接続するために使用する IPv4/IPv6 アドレスの順序を制御します。

6.1.8.4 DNS TTL 管理

現在使用中のサーバの DNS レコードの TTL が期限切れになったときに、DNS の解決をやり直す方法を管理するための別の構成パラメータが追加されました。 次の表のパラメータは、有効な場合、DNS SRV の TTL、または現在使用されているサーバの A レコードが期限切れになったときに、クライアントに DNS 操作の再実行を強制します。

DNS 解決が再実行された後、このパラメータは現在使用されているサーバと異なる場合、受信した最優先サーバにクライアントを強制的に再接続します。現在の接続が完全に機能している場合でも同様です。 ただし、再接続は進行中の通話が終了した後にのみ行われます。

サーバ A の TTL と SRV レコードが異なる場合、小さい方の値が選択されます。

Cisco 社外秘

このパラメータが無効な場合、DNS 操作は TTL の期限が切れても再実行されず、15 分ごとに実行されます。

このパラメータは SIP でのみ機能します。

プロキシ アドレス パラメーターで IP アドレスが使用されている場合、DNS TTL 管理機能は使用できないことに注意してください。

> **メモ**: これはデスクトップのみの機能で、モバイル クライアントはコール中のみ SIP 接続を使用します。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<refresh-on-ttlenabled="%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%"
  use-random-actor="%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	フォルス	false、true	「false」に設定すると、SIP の DNS TTL 管理が無効になります。 「true」に設定すると、SIP の DNS TTL 管理が有効になります。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"	フォルス	false、true	有効にすると、0-10% の間のランダムな期間を DNS TTL に追加します。

> **注意** : DNS TTL ランダムファクタを有効にして、DNS へのリクエストの急増や、アプリケーションサーバへの再接続試行の急増を防ぐことを強くおすすめします。

6.1.9 SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新と SUBSCRIBE の再試行

Communicator は、SIP SUBSCRIBE および REGISTER の更新間隔の設定をサポートしています。 SIP SUBSCRIBE の場合、更新間隔 (秒) と、エラーがあった場合にクライアントが SIP SUBSCRIBE を再試行するまでの待ち時間 (秒) には、別のパラメータがあります。 *subscription-retry-interval* の最大値は 2000000 秒で、負の値、0、空の場合は 1800 秒になります。 サブスクライブの更新に負の値があると、[*Expires*] ヘッダーが除外されるため、1 回限りの SUBSCRIBE が作成されます。

クライアントが提案する SIP REGISTER 更新タイマーは秒単位で構成できますが、SIP の仕様に従って、サーバは値を上書きできます。 現在、クライアントは、構成された値を常に使用するのではなく、サーバによって提案された値を以降の更新のために記憶しています。

最後に、SIP セッション (SIP INVITE および SUBSCRIBE 用) の有効期限の値も設定できます (秒)。

Cisco 社外秘

```
<config>
<プロトコル><sip>
<subscription-refresh-interval>10800</subscription-refresh-interval>
<subscription-retry-interval>60</subscription-retry-interval>
<registration-refresh-interval>300</registration-refresh-interval>
<セッション>
       <expires-value>3600</expires-value>
</セッション>
```

6.1.10 REGISTER で P-associated-URI を使用してください

以下のパラメータは、関連する *200 OK* レスポンスを登録し、処理する際に使用されます。

このパラメータが「false」に設定されている場合、クライアントは *P-associated-URI* を使用せず、代わりに自身の SIP URI のアイデンティティを使用します。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<use-alternative-identities>%USE_ALTERNATIVE_IDENTITies_WXT%</use-alternative-
identities>
```

このパラメータが「true」に設定されている場合、クライアントはすべての発信 SIP リクエスト (INVITE、SUBSCRIBE、CANCEL、INFO、REFER) を、REGISTER の *200 OK* レスポンスから削除することができます。 さらに、これらの URI は連絡先リストで連絡先として表示されません。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITies_WXT%	フォルス	true、false	SIP REGISTER で代替アイデンティティの使用を有効にします。 "true" に設定すると、クライアントは発信 SIP リクエストの最後の *P-associated-URI* ヘッダーから自身の ID を取得します。 「false」に設定されている場合、発信 SIP リクエストのアイデンティティは SIP URI から取得されます。

6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー

SIP *P-Early Media* (PEM) ヘッダーは、例えば、信頼ドメイン内の IMs 環境で使用され、ネットワークが別のネットワークがすべてのアーリー メディアを許可している場合のインスタンス。

構成パラメータにより、SIP シグナリングでの PEM サポートのアドバタイジングが有効になります。 実際の早期メディア処理ロジックは、PEM と非 PEM の両方のケースで同じで、サポートされている PEM ヘッダー値に基づいて動作します。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-p-early-media>%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%</support-p-early-media>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	false	true、false	SIP シグナリングで PEM サポートを通知するクライアントを有効にするには、「true」に設定します。 SIP シグナリングで PEM サポートを通知するクライアントを無効にするには、「false」に設定します。

6.1.12 SIP UPDATE のサポート

SIP UPDATE は、たとえば、一部の IM 展開で、代替の re-INVITE の代わりに必要です。 これにより、クライアントはメディア ストリームのセットやコーデックなどのセッションのパラメータを更新できますが、SIP ダイアログの状態には影響しません。

典型的な使用例は、早期メディアに関連するもので、例えば、リングバックトーンとプレアラートを同時に使用する場合などです。

SIP UPDATE は現在、ダイアログ前のユースケース (early Media) で受信した場合にのみサポートされ、アクティブなダイアログ中はサポートされていません。たとえば、re-INVITE がまだ使用されている場合のコールの保留/再開です。

このリリースでは、SIP UPDATE (メディアの変更) を使用してビデオを音声に追加することはできません。 さらに、クライアントはリソース予約による完全な IM の長い呼び出しフローをサポートしていません。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-updateenabled="%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	フォルス	true、false	「false」に設定すると、SIP UPDATE サポートは無効になります。 「true」に設定すると、SIP UPDATE サポートが有効になります。

6.1.13 レガシー SIP INFO FIR

このクライアントは、SIP INFO メディアコントロールリクエスト経由でビデオキーフレームをリクエストする従来の方法をサポートしています。 これが必要なのは、一部のデバイスで RTCP-FB FIR への応答に問題があり、時折 RTCP がリモート エンドポイントに到達せず、ビデオが表示されない、またはビデオが一方向になるためです。 詳細については、次を参照してください。 *RFC 5168*。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<force-sip-info-firenabled="%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SIP INFO FIR サポートは無効になります。 「true」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが有効になります。

6.1.14 つながるねっとするための SIP ポート管理

クライアントは NAT トラバーサルに SIP rport メカニズムを使用するように設定できます。 通常、これが NAT トラバーサルの唯一のソリューションというわけではなく、SBC は主にこの目的で使用されることに注意してください。 Rport 仕様の詳細については、次を参照してください。 *RFC 3581*。

SIP アプリケーション層ゲートウェイ (ALG) がネットワークで使用される場合の SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨に関する詳細については、 *Cisco BroadWorks ソリューション ガイド (Cisco BroadWorks ソリューション ガイド) は Webex*。

「rport」文字列は、構成に関係なく、発信 SIP 要求に常に存在することに注意してください。 このパラメータは、SIP の「受信」および「rport」ヘッダーでサーバから受信した IP アドレスとポートの使用状況にのみ影響します。 この機能が有効になっている場合、「受信済み」および「rport」ヘッダーからの値は、SIP 要求の SIP 連絡先ヘッダーで使用されます (「受信済み」ヘッダーがない場合でも、REGISTER 応答)。

[*優先ポート* パラメータは、SIP Contact ヘッダーで使用されるポートを別の方法で定義するという点で関連しています。 SIP ポート割り当ての詳細については、「」を参照してください。 *6.1.7 SIP の優先ポートの使用状況*。

別の構成パラメータがあります *use-local-port* クライアント ソケットのローカル ポートを強制的に *連絡先* ヘッダーを表示します。 これは、クライアントが実際の IP (*連絡先* ヘッダー)、SBC は要求のためにクライアントへの別のソケットを確立しようとします。 ほとんどの場合、ファイアウォールは SBC とクライアントの間に位置し、クライアントへの受信接続を拒否します。

> **メモ**: IPv6 環境では、すべてのアドレスが実際のアドレスであり、SBC はリッスンしているクライアント アドレスへの接続を確立しようとします (*連絡先* ヘッダー)。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<use-rportenabled="%ENABLE_USE_RPORT_WXT%" use-local-
port="%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	フォルス	true、false	音声通話とビデオ コールの rport を有効にします。
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	フォルス	true、false	クライアントのソケットのローカルポートを SIP *連絡先* ヘッダーを表示します。

6.1.15 SIP セッション ID

有効な場合、初回登録時にローカルセッション ID が生成されます。 セッション ID は、そのデバイスの接続/セッションの有効期間中、すべての通話外ダイアログ、登録、サブスクリプション、通知などのために使用されます。 バインディングが失われるまで、同じセッション ID が使用されます。 登録バインディングが失われた場合 (DNS ルックアップ、接続リセット、電話リセットなど)、新しいローカル セッション ID が生成されます。

セッション ID の値を使用して、そのデバイスに関連付けられたダイアログの完全なセットを見つけることができます。

```
<config>
<プロトコル><sip>
<sip-sessionidenabled="%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	false	true、false	SIP セッション ID の使用を制御します。

6.1.16 着信拒否の動作

クライアントは次の方法で着信を拒否することができます: *486* または *603*。

クライアントが通話を拒否するように設定されている場合、 *603 拒否*を選択している場合、話中の転送および無応答の転送サービスは期待通りに動作しない場合があります。

```
<config>
<services><calls>
<reject-with-486enabled="%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	true	true、false	着信 SIP 通話を拒否するために使用される SIP エラーコードと理由を制御します。 有効な場合、 *486* *一時的に利用できません* が使用されます。 それ以外の場合は、 *603 拒否* が使用されます。

6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲

クライアントは、Real-Time Transport Protocol (RTP) ストリームに定義されたポート範囲を使用するように構成できます。これは、SRTP にも適用されます。 この構成は、次の例に示す タグを使用して、音声とビデオ ストリームの両方のポート範囲制限値を設定することによって行われます。

```
<config>
<プロトコル><rtp>
<preferred-audio-port-start>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%</preferred-audio-port-start>
<preferred-audio-port-end>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-audio-port-end>
<preferred-video-port-start>%RTP_video-port_ranGE_START_WXT%</preferred-video-port-start>
<preferred-video-port-end>%RTP_video-port_ranGE_END_WXT%</preferred-video-port-end>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	8000	number	音声ポート範囲の開始点。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	8099	number	音声ポート範囲の最後。
%RTP_Video_PORT_RANGE_START_WXT%	8100	number	ビデオポート範囲の開始点。
%RTP_Video_PORT_RANGE_END_WXT%	8199	number	ビデオポート範囲の最後。

注意 : ポート範囲は重複しないように設定する必要があります。

6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)

クライアントは、エンドポイント間のメディア パス最適化をピアツーピアで可能にする Interactive Connectivity Establishment (ICE) ネゴシエーションをサポートします。 これは、データ遅延を減らし、パケット損失を減らし、アプリケーション展開の運用コストを減らすために行われます。

Cisco 社外秘

現在の実装は STUN サーバをサポートしていますが、TURN はサポートしていないことに注意してください。

ICE サポートが有効な場合、SRTP の再キーイングが常に実行されます (セクション *6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*を参照)。

リリース 44.5 以降、Webex アプリは NAT64 を使用する ICE over IPv6 のサポートを追加します。

```
<config>
<プロトコル><rtp>
   <iceenabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
        enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
        mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
        service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
        port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	フォルス	true、false	ICE サポートを有効/無効にします。
%RTP_ICE_MODE_WXT%	アイススタン	アイススタン	ICE サポートモード。 現在サポートされている値は「icestun」のみです。
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	(empty)	有効な STUN サーバ URI または (空)	STUN サーバ URI.
%RTP_ICE_PORT_WXT%	3478	番号 (0-65535)	STUN サーバポートです。
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	フォルス	true、false	ICE over IPv6 を有効にします。

6.1.19 RTCP MUX

RTP MUX は設定可能です。 この機能により、クライアントは RTCP と RTCP に同じポートを使用します。 SIP/SDP シグナリング レベルでは、a=rtcp-mux の行が SDP に追加されます。 さらに、様々なモードが可能です:

- 下位互換モード (つまり、a=rtcp-mux の行は SDP に表示されません)
- 多重化モード (a=rtcp-mux の行が SDP に 2 回表示されます。1 回目は [音声] セクション、もう 1 回は [ビデオ] セクションです)

ビデオと音声は同じポートを使用しません。

```
<config>
<プロトコル><rtp>
<muxenabled="%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%"/>
```

RTCP MUX は SRTP 呼び出しでは使用できないことに注意してください。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	true	true、false	RTPC MUX を有効にするには、"true" に設定します。 MUX を無効にするには、"false" に設定します。

6.1.20 転送

Cisco BroadWorks クライアント用の Webex は、有人 コンサルテーション、セミコンサルテーション、ダイレクト (ブラインド) の着信転送をサポートしています。

セミコンサルタティブ着信転送を使用すると、リモートの着信者が通話を受ける前に、発信者が転送を完了することができます。 呼び出し音が呼び出し先側で開始され、対応する SIP 通知 (*180 呼び出し中*) が発信側で受信された後にのみ、発信者に対して「準完了ボタン」が有効になります。。 ブラインド転送は、UI では「今すぐ転送」と呼ばれます。

> **メモ**: 一部の環境、番号、クロスサーバ通信シナリオでは、SIP *180 呼び出し音* がトリガーされない場合があります。

Webex アプリのリリース 43.9 では、同じタイプの別のスタンドアロンの進行中の通話への転送が導入されています。 Webex アプリで終了した通話は、ローカル エンドポイントで終了した他の通話に転送できます。 リモート デバイスで着信した通話は、リモート エンドポイントで着信した通話に転送できます。 この機能に構成可能なオプションはありません。

リリース 43.12 以降、[転送] メニュー項目が選択されたときに、現在の通話を自動的に保留にするかどうかをコントロールする構成オプションが Webex アプリに追加されます。 この動作は、新しい *auto-ホールド* 属性で制御します。 デフォルトでは、自動保留は無効になっています。

```
<config>
<services><calls>
   <transfer-callenabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
                  auto- Hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	フォルス	true、false	True に設定すると、着信転送が有効になります。 False に設定すると、着信転送は無効になります。
%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%	フォルス	true、false	別のロケーションで終端されるリモート (XSI) 通話の転送オプションを有効にします。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%	フル	先にトーク、ブラインド、フル	BroadWorks 構成でユーザが利用できる転送タイプを指定します。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT%	フォルス	true、false	ユーザが通話中の画面のメニューから [転送] オプションを選択したときに、アクティブな通話を自動的に保留状態にするかどうかを制御します。

6.1.21 N-Way 電話会議 と参加者

次のカスタム タグを使用すると、Cisco BroadWorks クライアントの Webex で、SIP を介したアドホック (N-Way) 電話会議の可用性を制御できます。 さらに、N-way の所有者は SIP SUBSCRIBE/NOTIFY および電話会議イベント パッケージを介して参加者の完全なリストを確認できます。 所有者のクライアントは、先行する SIP *Contact* ヘッダーを介して SIP SUBSCRIBE の送信先となる URI を学習します ヘッダーの *200 OK* 電話会議 URI への INVITE に応答して送信されたメッセージですが、参加者については、同じ情報が前の call-info NOTIFY にあります。

電話会議の参加者の最大数は、Cisco BroadWorks システム設定 (*maxConferenceParties)* を使用して設定されます。 特定の通話について、ユーザが持つことができる、または「参加者の追加」通話中のコントロール オプションまたは Cisco BroadWorks N-way Calling 機能を通じて追加できるアクティブな同時参加者の数を示します。

この情報は、次の CLI コマンドを使用して、アプリケーションサーバ (AS) から取得します。

```
AS_CLI/SubscriberMgmt/Policy/CallProcessing/Conferencing>取得する

出力例:
maxConferenceParties = 6
会議 URI =
```

maxConferenceParties の値 (415 の範囲) を取得したら、それに応じて %MAX_CONF_parties_WXT% タグを設定する必要があります。

```
<config>
<サービス><コール>
<conferenceenabled="%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%">
    <service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-1%</service-uri>
    <schedule-conference-infoenabled="%ENABLE_Nway_participant_list_WXT%"/>
        <max-nway-participants>%MAX_CONF_participants_WXT%</max-nway-participants>
</conference>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	フォルス	true、false	ユーザに対して電話会議オプションを有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_Nway_participant_list_WXT%	フォルス	true、false	双方向所有者参加者リストを有効にするには「true」に設定します。 双方向の所有者参加者リストを無効にするには、「false」に設定します。
%MAX_CONF_parties_WXT%	10	415 の数字 (empty)	クライアントによって強制される最大の N-way 参加者数を指定します。例えば、10 です。サーバ側には、独自の制限があります。 値が空の場合、クライアント側での N 間の参加者制限の実施が無効になります。

6.1.22 通話 (プル)

コール プル機能は、次の例に示すように、単一の構成パラメータを使用して有効にできます。

```
<config>
<サービス><コール>
<call-pullenabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	false	true、false	コール プルを有効にします。

6.1.23 コール パーク/取得

グループ コール パーク機能を使用すると、進行中の VoIP 通話をコール パーク サーバに転送することができます。これにより、発信者は別の操作を行い、同じユーザまたは別のユーザが通話を取得できます。 進行中の通話は、コールパークグループ内の最初の利用可能な内線番号に対してパークされます。

ユーザがダイアログで、コールをパークした直後に、構成可能な秒数だけコールをパークすることで、通話の取得を実行できます。 または、ユーザまたは別のユーザが通話取得オプションを選択し、番号または内線番号を入力することで、パークされた通話を取得することもできます。

```
<config>
<サービス><コール>
<call-
parkenabled="%ENABLE_CALL_PARK_WXT%"timer="%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%"
/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	false	true、false	コールパーク/取得を有効にします。
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	10	530 の間の数字	[コール パーク] ダイアログが自動的に閉じるまでの時間を秒単位で指定します。

6.1.24 コール統計

Session Initiation Protocol (SIP) BYE メッセージでの通話終了の統計のレポート通話が終了したときに、リモート エンドに通話の統計を送信できます。 通話統計は、SIP BYE メッセージの新しいヘッダーとして送信されるか、BYE メッセージへの対応する *200 OK* レスポンスで送信されます。 統計には、送信または受信した Real-time Transport Protocol (RTP) パケット数、送信または受信した合計バイト数、失われたパケット数、遅延ジッター、往復遅延、通話継続時間が含まれます。

```
<config>
<サービス><コール>
<call-統計情報有効="%ENABLE_CALL_統計_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_StatistICS_WXT%	フォルス	true、false	コール メトリックスのキャプチャを有効にするには、「true」に設定します。 「false」に設定すると、通話メトリックスのキャプチャが無効になります。

6.1.25 通話自動復元 /シームレス通話ハンドオーバー

クライアントは、ユーザが継続中の VoIP 通話を行っている間、ネットワークを切り替える際の通話自動回復をサポートしています。 通話の自動復元は、セルラー データから Wi-Fi および Wi-Fi からセルラー データの両方向、および Wi-Fi ネットワーク間の切り替え時に機能します。 通話は 1 分以内に復元され、停止されます。 進行中の VoIP 通話が複数ある場合、アクティブな通話だけが回復されます。

セルラー データから Wi-Fi への移行では、クライアントは、セルラー データ ネットワークが終了するか、セルラー データ ネットワークが失われるまで、セルラー データで進行中の VoIP 通話を保持します。

```
<config>
<サービス><コール>
<auto-recoveryenabled="%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	フォルス	true、false	ユーザに対して自動回復メカニズムを有効にするかどうかを制御します。

6.1.26 通話録音

通話録音機能はクライアントによってサポートされており、サーバ側の機能の可用性と構成オプションによって異なります。 この機能は、有効になっている XSI イベント チャネル (セクション *6.1.33 XSI イベント チャネル*を参照) と、 *X-BroadWorks-Correlation-Info* SIP を送信するように設定されたアプリケーション サーバ (AS) によって異なります。ヘッダー (*Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド*を参照)。

この機能が無効になっている場合、ユーザには録画ボタンとオプションは表示されません。 通話録音は通話ごとではなく、ユーザごとに動作することに注意してください。つまり、通話の参加者の 1 人が通話録音をサポートしている場合、通話を録音できます。

通話録音機能が有効になっている場合、通話が録音されると常に視覚的な通知が表示されます。次の通話録音モードは、Cisco BroadWorks でサポートされています。

常に

- 通話の録音は、通話の確立時に自動的に開始されます。
- ユーザは通話の録音を停止/一時停止 **できません** 。

常時一時停止/再開のサポート

- 通話の録音は通話の確立時に自動的に開始されますが、ユーザは通話を一時停止したり再開することができます。
- 可能なユーザ操作:
  - 記録が進行中 - **一時停止** 記録アクション。
  - 録画は一時停止中です – **録画を再開** します。

オンデマンド

- 通話が確立されると、サーバ上で通話の録音が開始されます。
- ユーザが通話中に [録音の開始] オプションを押すと、通話録音が保存され、起動時から通話が保持されます。 そうしないと、ユーザから録音の開始が開始されなかった場合、通話の録音がサーバから削除されてしまいます。
- 可能なユーザ操作:
  - 録画はまだ開始されていません – **録画を開始** します。
  - 記録が進行中 - **記録を一時停止** アクションです。
  - 録画は一時停止中です – **録画を再開** します。

Cisco 社外秘

オン デマンド（ユーザによる開始）

- ユーザは、通話中に複数回、通話録音をいつでも開始、停止、一時停止、再開できます。
- 各通話録音の起動に対して個別の通話録音が存在します。
- 可能なユーザ操作:
  - 録画はまだ開始されていません – **録画を開始** する。
  - 記録が進行中です - **停止** および **一時停止** アクションを行います。
  - 録画は一時停止中です – **[録画] アクションを停止** と **再開** します。

ユーザに割り当てる通話録音モードは Control Hub から選択できます。

```
<config>
<サービス><コール>
<recordenabled="%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	フォルス	true、false	通話録音のコントロールを有効にします。

6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ

次のカスタム タグを使用すると、Cisco BroadWorks クライアントの Webex で Cisco BroadWorks ボイスメールとビジュアル ボイスメールの可用性を制御できます。 Cisco BroadWorks システム タグ (%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%) はボイスメールで使用されることに注意してください。

Visual Voicemail (VVM) は音声のみに対応しています。 サポートされている形式は、wav、ulaw、および H264 ビデオ (音声として再生のみ) を含む mov です。 ユーザはリスト ビューで着信ボイスメールを表示し、個々の項目を再生できます。 この機能は Xsi に基づいていますが、新しいボイスメールの通知は SIP 経由で提供されます。そのため、通知が機能するには SIP が有効になっている必要があります。 さらに、通知を受信するには、メッセージ待機インジケーター (MWI) 構成の SIP SUBSCRIBE が必要です。ビジュアル ボイスメールが機能するには、MWI が有効になっている必要があります。 SIP 設定の詳細については、「 *6.1.1 SIP サーバの設定値*。

ビジュアルボイスメールの Cisco BroadWorks リリースおよびパッチ要件については、『 *Webex for Cisco BroadWorks Solution Guide*』を参照してください。

ビジュアルボイスメールは構成で個別に有効にする必要があります。

ビジュアルボイスメールを使用するには、CommPilot ポータルで以下の設定が必要です。

- ボイスメッセージが有効になりました
- [メッセージ受信時にユニファイドメッセージングを使用する] オプションを有効にする

Cisco 社外秘

- [電話メッセージ待機インジケータを使用する] オプションが有効

Cisco BroadWorks 側でユーザに割り当てられたビジュアルボイスメールサービスを持たない場合、サービスの構成は自動的に無効になります。

SIP 登録を無効にすると、新しいボイスメールの MWI も無効になります。 MWI の有効化の詳細については、次の表を参照してください。

ボイスメール メッセージ情報を UI に表示するには、クライアントがサーバから SIP MWI 通知 (つまり、ボイスメール イベント パッケージ) を受信する必要があります。 サブスクリプションオプションについては、次の表を参照してください。 ビジュアルボイスメールの通知が機能するには、MWI が必要であることにも注意してください。

ボイスメール イベント パッケージへの SIP サブスクリプションが失敗した場合、クライアントが設定されていれば、再試行を続けることに注意してください。 SIP SUBSCRIBE 再試行の設定の詳細については、を参照してください *6.1.9 SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新と SUBSCRIBE の再試行。*

```
<config>
<サービス><コール>
<mwienabled="%ENABLE_MWI_WXT%" type="%MWI_MODE_WXT%"/>
<voice-mailenabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%" video-
voicemail="%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%">
    <center-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</center-number>
</voice-mail>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	フォルス	true、false	ボイスメールサポートを有効にするには "true" に設定します。 ボイスメールのサポートを無効にするには、"false" に設定します。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	フォルス	true、 false	false に設定すると、VVM は無効になります。 true に設定すると、VVM が有効になります。 実際の VVM 属性が下位互換性のために引き続き使用される前に、voice-mailenabled=false と設定されていることに注意してください。
%BWVOICE-PortAL-NUMBER-1%	空	number	クライアントは、ボイスメールにダイヤルする際に、通常、既存の Cisco BroadWorks システム タグを使用して指定されたこの番号に発信します。
%ENABLE_MWI_WXT%	フォルス	true、false	"true" に設定して MWI を有効にします。 false に設定すると、MWI が無効になります。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%MWI_MODE_WXT%	空	暗黙の、明示的な	「explicit」に設定すると、MWI が有効な場合に SIP SUBSCRIBE for MWI イベントパッケージが送信されます。 「implicit」を使用すると、MWI が有効になっているときに、SIP SUBSCRIBE for MWI イベントパッケージが送信されません。 空の場合、MWI は無効になります。

6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし

この機能により、ボイスメール メッセージはテキストに変換され、Webex Calling デスクトップおよびモバイル アプリのビジュアル ボイスメール メッセージ ビューに表示されます。

この機能は、次の場合にのみユーザに対して有効にする必要があります。

1. アプリは Webex Calling 展開で実行されています。
2. ユーザのビジュアルボイスメール機能が有効になっている。
3. この機能が構成内で有効になっている必要があります (<services><voice-mail><Transscription> タグの有効な属性が「true」に設定されている必要があります)。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	フォルス	true、false	[Webex Calling のみ] ビジュアルボイスメールが有効な場合にのみ、ボイスメールの文字起こしの有無を制御します。

6.1.29 通話設定

6.1.29.1 常に着信の転送

次のカスタム タグを使用すると、Cisco BroadWorks クライアントの Webex での Cisco BroadWorks 常時着信転送サービスの可用性を制御できます。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<call- forwarding-alwaysenabled="%ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT%	フォルス	true、false	常に着信の転送の利用を制御します。 デフォルトでは、この機能はディセーブルです。

Cisco 社外秘

注意: Call Forwarding Always 着信転送とボイスメールへの着信転送 (*6.1.29.2 ボイスメールへの着信転送*) を組み合わせて使用すると、Webex アプリの [Call Forward] 設定の表示と非表示を切り替えることができます。
両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの [コール転送] 設定は非表示になります。

6.1.29.2 ボイスメールへの着信転送

リリース 43.9 以降、Webex アプリでボイスメールへの転送の可用性を制御するオプションが提供されるようになりました。この機能はデフォルトで有効になっています。次の設定オプションを使用して無効にすることができます。

```
<config>
<サービス>
   <ボイスメール>
      < forwardingenabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORDING_WXT%	true	true、false	ボイスメールへの転送の可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は有効です。

メモ 1:
この機能は、ユーザに割り当てられる「ボイスメッセージングユーザ」または「サードパーティのボイスメールサポート」サービスのいずれかによって異なります。

メモ 2: ボイスメールへの着信の転送 (*6.1.29.1 常に着信の転送*) を一緒に使用して、Webex アプリの「着信の転送」設定を表示または非表示にできます。
両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの [コール転送] 設定は非表示になります。

6.1.29.3 BroadWorks Anywhere (Single Number Reach)

次のカスタム タグは、BroadWorks Anywhere の可用性、および Cisco BroadWorks クライアントの Webex での設定の可用性を制御します。 クライアント内部のこの機能の名前は、 *マイ番号の管理*。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<broadworks-anyplaceenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_WXT%">
       <descriptionenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DESCRIPTION_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

```
        <alert-all-
locationsenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%"/>
        <call-controlenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_DEFAULT_WXT%"/>
        <diversion-
inhibitorenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%"/>
        <answer-
confirmationenabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%"
default="%BROADWorkS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%"/>
</broadworks-anyplace>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_WXT%	フォルス	true、false	構成レベルで BroadWorks Anywhere (BWA) を有効にします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_DESCRIPTION_WXT%	true	true、false	BWA の場所の [説明] をユーザが利用できるようにするかどうかを制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	フォルス	true、false	ユーザが BWA サービスのすべてのロケーションに警告を有効にするには、"true" に設定します。 "false" に設定すると、ユーザは BWA サービスの [すべてのロケーションに警告] を利用できなくなります。
お問い合わせ	フォルス	true、false	2 番目以降の新しい BWA ロケーションを追加するたびに、アプリケーションで [すべてのロケーションのアラート] 状態を有効にするかどうかをコントロールします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT%	フォルス	true、false	BWA ロケーションのコールコントロールをユーザが利用可能にするかどうかをコントロールします。
%BROADWORKS_ANYWhere_CALL_control_defaULT_WXT%	フォルス	true、false	BWA ロケーションのコールコントロールのデフォルト状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	フォルス	true、false	ユーザが BWA ロケーションの Diversion Inhibitor を利用できるようにするかどうかを制御します。
パーセント	フォルス	true、false	BWA ロケーションの Diversion Inhibitor のデフォルト状態をコントロールします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	フォルス	true、false	BWA ロケーションの回答確認をユーザが利用可能にするかどうかを制御します。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
パーセント	フォルス	true、false	BWA ロケーションの応答確認のデフォルト状態をコントロールします。

6.1.30 設定ポータルサイト とウェブベース通話設定

Cisco BroadWorks クライアント用の Webex は、ユーザがアプリケーションやサービス設定の一部を構成できる設定 (セルフ ケア) ポータルへのアクセスを提供します。

さらに、クライアントは通話設定ウェブ表示 (CSWV) を代わりに使用するオプションを提供します。 これにより、ユーザはサーバベースの通話設定をより詳細に制御できます。 別のタグを使用して、特定のサービスをウェブベースの通話設定で表示するかどうかをコントロールできます。

> **注意** : コールセンター (セクション *6.1.31 コールセンター / 通話キューのログイン/ログアウト* を参照) や BroadWorks Anywhere (セクション *6.1.29.3 BroadWorks Anywhere* を参照) のようなアプリケーションですでに表示されている設定は非表示にすることをお勧めします。) を参照してください。 Remote Office サービスも、BroadWorks Anywhere サービスに引き継がれているため、非表示にすることをお勧めします。

次のカスタム タグを使用して、設定 (Self Care または CSWV) ポータルの URL を構成できます。 タグが空の場合、設定ポータルへのリンクはアプリケーションのユーザには表示されません。

```
<config>
<サービス>
<web-call-settings target="%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%"
 <url>%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%</url>
<branding-enabled="%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%">
  <service-settings>
   <service name="Call Forwarding
Always"可視="%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT%"/>
   <service name="話中の通話の転送"可視="%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT%"/>
   <service name="着信の転送が到達できません"
color="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT%"/>
   <service name="無応答の転送" color="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT%"/>
   <service name="Do Not Disturb"可視="%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT%"/>
   <service name="匿名着信拒否"可視性="%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT%"/>
   <service
name="同時呼び出しパーソナル"可視化="%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT%"/>
   <service
name="シーケンシャル呼び出し"可視性="%WEB_CALL_SETTINGS_配列番号:VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Automatic Callback" color="%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT%"/>
   <service name="キャッチホン" color="%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT%"/>
   <service name="Calling Line ID 配信のブロック"
color="%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT%"/>
   <service name="Personal Assistant"可視="%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT%"/>
   <service name="コールセンター - 標準" color="%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

```
   <service name="BroadWorks Anywhere"
color="%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT%"/>
   <service name="BroadWorks Mobility"
color="%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT%"/>
   <service name="Remote Office"可視="%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT%"/>
   <service name="ボイスメールユーザ" color="%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT%"/>
 </service-settings>
<userportal-settings><url>%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%</url></userportal-
settings>
</web-call-settings>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、csw	管理者ポータル モードをコントロールします。 外部ブラウザで設定ポータルサイト URL を開くには、"external" に設定します。 追加パラメータ セクション<services><web-call-settings>を使用して、埋め込みブラウザで CSW ポータルを開くために、「csw」に設定します。を POST リクエストから
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	設定ポータルの URL。 例: https://settings.webex.com
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定で、[常に着信の転送] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定で、応答不可 (DND) オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定でユーザの匿名着信拒否 (ACR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定で、ユーザに [話中の通話の転送] (CFB) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定でユーザの [到達不能な着信の転送] (CFNR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT%	true	true、false	無応答の転送 (CFNA) オプションをウェブベース設定でユーザに表示するかどうかを制御します。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_ SIMRING_VISIble_WXT%	true	true、false	パーソナル同時呼び出し (SIMRING) オプションをウェブベース設定でユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ 配列番号	true	true、false	ウェブベース設定で、ユーザの [シーケンシャル リング] オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO _VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定でユーザにリモートオフィス (RO) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ ACB_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定でユーザに自動コールバック ACB オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ CW_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定で、キャッチホン (CW) オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ CLIDB_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定でユーザの [Calling Line ID Delivery Blocking (CLIDB)] オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA _ VIsible_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定で、ユーザのパーソナル アシスタント (PA) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_B WA_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定で、BroadWorks Anywhere (BWA) オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC _ VIsible_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定でコールセンターのオプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ BWM_VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定で、BroadWorks Mobility (BWM) オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。 現在、推奨される値は false です。これは、 Cisco BroadWorks および BroadWorks Mobility。
%WEB_CALL_SETTINGS_VM _VISIble_WXT%	true	true、false	ウェブベース設定で、ユーザの音声管理 (VM) オプションを表示するかどうかを制御します。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	フォルス	true、false	新しい通話設定 Webex ブランディングを使用するかどうかを管理します。 サーバ側の CSWV バージョンが 1.8.6 以降の場合に有効にします。 そうでない場合は、false のままにします。
%WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定でメール/ボイスメールのメッセージオプションを表示するかどうかを制御します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	ユーザ設定ポータルの URL を指定します。 この機能を有効にして、UI に [ユーザポータルにアクセス] ボタンを表示するには、このカスタムタグが空でなければなりません。 例: https://settings .webex.com.
%USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、内部	URL を埋め込みブラウザまたは外部ブラウザのどちらで開くかを指定します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT%	false	true、false	埋め込みブラウザが設定されている場合にのみ適用できます (USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT=internal)。 有効にすると、HTTP POST リクエストが使用され、BroadWorks の短期トークンが BODY の一部として追加されます。 無効にすると、URL は HTTP GET で開かれます。

メモ 1: 通話設定 WebView URL の末尾には常に「/」が設定されている必要があります。
例: https://<XSP-FQDN>/<CSW-Context-Path>/

メモ 2: 通話設定 WebView アプリケーションのサポートされている最小バージョンは 1.7.5 です。

Cisco BroadWorks リリース 21.0 へのインストールについては、「 *Webex Cisco BroadWorks ソリューションガイド」で説明されている追加の手順を参照してください。*

Cisco 社外秘

6.1.31 コールセンター / 通話キューのログイン/ログアウト

Webex アプリは、コール センター (通話キュー) のエージェント設定へのアクセスを提供します。 ユーザにコールセンターが設定されている場合、ユーザはこの機能により、コールセンターにログインして使用可能な通話キューを表示したり、キューに参加/参加解除したり、 自動通話分配 (ACD) の状況です。

デスクトップ リリース 42.8 およびモバイル 42.12 以降、コール センター (通話キュー) エージェントは通話設定ウェブビューに基づいていません (セクション *6.1.30 設定ポータルサイト とウェ ブベース通話設定*を参照)。 コール センター (通話キュー) エージェントの構成には、デスクトップのフッターとモバイル Webex アプリの設定からアクセスできます。

```
<config>
<サービス>
<call-center-agentenabled="%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	フォルス	true、false	コールセンターのサポートを有効にします。

6.1.32 XSI ルートおよびパス

Cisco BroadWorks クライアント用の Webex は、サインインに使用されるものとは異なる構成が必要な場合、次のタグを使用して XSI ルート、アクション、およびイベント パスを制御します。

XSI Root を変更する主な理由は、構成レベルでの負荷分散の実装ですが、代わりに HTTP レイヤーでの負荷分散の使用を推奨します。

イベントとアクションのパスは通常、ブランディング要件により変更され、クライアントにより実行される XSI HTTP リクエストの URL パスから *com.broadsoft* ドメイン参照を削除します。

```
<config>
<プロトコル><xsi>
        <パス>
                <root>%XSI_ROOT_WXT%</root>
                <actions>%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%</actions>
                <events>%XSI_Events_PATH_WXT%</events>
        </paths>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%XSI_ROOT_WXT%	設定の取得に使用した元の設定を引き続き使用します。	URL 文字列	すべての XSI 操作の XSI ルートです。 例: https://domain.com/

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-actions/	文字列	XSI アクション パスを指定します。 「/」で開始および終了し、actions コンテキストのみを含む必要があります。 例: /com.domain.xsi-actions/
%XSI_eventS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-events/	文字列	XSI イベント パスを指定します。 "/" で開始および終了し、イベントのコンテキストのみを含む必要があります。 例: /com.domain.xsi-events/

6.1.33 XSI イベント チャネル

XSI イベント チャンネルは、次のようなさまざまなサービスで使用されます。

- XSI 通話中のコントロール
- 通話設定の状況の通知
- 通話録音

XSI Event のハートビートは、XSI Event チャネルを開いた状態に維持するために使用されます。ハートビートの間隔は、以下のパラメータを使用して指定することができます。

```
<config>
<プロトコル><xsi>
<event-chnnelenabled="%ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT%">
    <ハートビート間隔>%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</HeARTBeatInterval>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT%	true	true、false	XSI イベント チャンネルを有効にするかどうかをコントロールします。 たとえば、通話中のコントロールサービス関連イベントを受信する場合は、「true」に設定する必要があります。 推奨値は true です。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	10000	number	これは XSI イベント チャネルのハートビートです (ミリ秒単位)。 デフォルトは「10000」です。

Cisco 社外秘

6.1.34 コーデックの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex は、さまざまな音声とビデオのコーデックを提供しています。 コーデックの一覧は、 *config/services/calls/ audio/codecs* および *ビデオ/コーデック* セクションをご覧ください。 各コーデックの優先順位は、 *XML 属性の優先順位*、 で変更できます。これは 0.0 (最低) 1.0 (最高) の間の値です。。

Webex アプリは次のコーデックを正式にサポートしています:

- 音声
  - Opus
  - G.722
  - G.729
  - PCMU (G.711U)
  - PCMA (G.711A)
  - iLBC
  - AI コーデック
- ビデオ
  - H.264

Cisco 社外秘

```
<config>
<サービス><コール>
  <音声>
    <コーデック>
      <codec name="opus" priority="1" Payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="HP" priority=".99" Payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="ULP" priority=".98" Payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" Payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" Payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" Payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" Payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4"ペイロード=""framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" Payload="101" in-Band="false"/>
    …
  <ビデオ>
    <コーデック>
      <codec name="H264"ペイロード="109"解像度="CIF"フレームレート="25"
bitrate="768000"優先順位="1.0">
        <packet-mode>0</packet-mode>
```

クライアントがビデオコーデックとして H.264 をサポートしていること。 ビデオ解像度の属性を使用して、SUBQCIF、QCIF、CIF、4CIF、VGA、および HD のいずれかの値を設定できます。

設定でビットレートが入力されていない場合、デフォルトのビットレート値が使用されます。解像度とフレームレートごとのデフォルトのビットレート値を次の表に示します。

解像度	ビデオサイズ *	FPS (フレーム/秒)	解像度および FPS ごとのデフォルト ビットレート値
SUBQCIF	128×96	15	128000
QCIF	176×144	30	192000
CIF	352×288	15	384000
CIF	352×288	30	768000
VGA	640×460	15	2000000
4CIF	704×576	25	2000000
HD	960×720	30	2000000

***** アドバタイズされたビデオ解像度の最大値です。 Cisco BroadWorks クライアントの場合、2 つの Webex 間の通話中の実際のビデオ解像度は、両方のクライアントの機能によって異なります。小さい方の値になり、同じになります。必要があります。

Cisco 社外秘

ビデオ コールのビデオ解像度は、セッションのセットアップ時にネゴシエートされ、2 つのエンドポイントの機能に基づいて決まります。 ビデオ コールの解像度は、両方のエンドポイントで同じです。 つまり、Cisco BroadWorks エンドポイントの Webex が異なる機能を持っている場合 (したがって、異なる解像度をサポートしている場合)、コールに対して低い解像度がネゴシエートされます。 ネットワークの状態が悪化した場合、通話中にビデオ解像度が変更される場合があります。 この場合、2 つのモバイルエンドポイントは異なるビデオ解像度を使用している可能性があります。

パケットモードは SingleNAL (0) または非インターリーブ (1) に設定できます。 このテンプレートは既定で SingleNAL を使用します (<packet-mode>0</packet-mode>)。

単一または複数の電話イベント設定もサポートされています。 コーデックのネゴシエーション中に、クライアントは電話イベントを含むすべての構成済みコーデックを送信します。 音声コーデックが選択されると、オファーから電話イベントが検索されます。 ネゴシエートされた音声コーデックのサンプル レートの電話イベントが提供される場合、この電話イベントが選択されます。 それ以外の場合は、リストの最初の電話イベントが使用されます。

1 つ以上の電話イベントのネゴシエートが行われた場合、デュアルトーン多重周波数 (DTMF) は、対応するペイロード タイプを使用して、RTP パケットとして送信されます。 ネゴシエートされた電話イベントがまったくない場合、DTMF はネゴシエートされた音声コーデックのペイロード タイプを持つ RTP パケットとして送信されます。 DTMF を配信するためのアウトオブバンド メカニズムは、Webex アプリではサポートされていません。

設定されたコーデックの例:

```
<codec name="telephone-event" Payload="100" in-Band="false" />
<codec name="telephone-event" Payload="101" clockrate="48000" in-Band="false" />
```

48kbps のサンプルレートの音声コーデックがネゴシエートされる場合、ペイロード 101 の電話イベントが使用されます。

6.1.34.1 AI コーデック

リリース 44.8 以降、Webex アプリは新しい音声コーデックである AI コーデック (xCodec) のサポートを導入しています。 この音声コーデックは、良好な通話品質を達成するために、悪質なネットワーク条件で使用されます。 Webex アプリの Webex メディア エンジンは、端末の機能をチェックし、メディア品質を追跡し、設定ファイルを通じて AI コーデックがサポートされ、有効になっている場合に使用できます。

AI コーデックは Opus コーデックとの組み合わせでのみ機能します。 これは、Opus と AI コーデックの両方が、SDP ネゴシエーション中に両側によってアドバタイズされ、ネゴシエートされる必要があることを意味します。

Cisco 社外秘

6.1.35 SIP-URI ダイヤリング

現在、BroadWorks を通じた SIP-URI ダイヤルは利用できません。デフォルトでは、すべての SIP-URI 通話は Locus を通じてルーティングされます。これは「Free Calling」とも呼ばれます。 一部の環境では、これは望ましくないため、そのような呼び出しはブロックする必要があります。

> **メモ**: これは Locus 通話が無効になっている場合にのみ適用されます。
> この場合にのみ、SIP URI ダイヤル ブロックが機能します。

次の構成はこのオプションを提供します。

```
<config>
    <サービス>
        <コール>
            <sip-uri-dialingenable-locus-
calling="%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	true	true、false	SIP-URI が場所を経由してルーティングされるか (true)、ブロックされるか (false) を制御します。

6.1.36 すべてのデバイスの通話履歴

クライアントは、ローカルに保存する代わりに、サーバから呼び出し履歴を保存および取得する機能を提供します。 このようにして、通話履歴はすべてのデバイスで統合されます。

> **注意**:
> 統合された通話履歴は、通話履歴の紛失やレコードの重複を避けるために、クライアント側とサーバ側で同時に有効にする必要があります。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	フォルス	true、false	アプリケーションが統合通話履歴またはクライアント側 (ローカル) のどちらを使用するかを制御します。

Cisco 社外秘

6.1.37 ビデオ コールを無効にする

リリース 41.9 では、ビデオ コールを無効にする機能が追加されました。 BroadWorks 支援の VoIP 通話と Locus (無料) 通話では、この機能をコントロールするための別の構成オプションがあります。

機能が有効で、機能タグが「false」に設定されている場合:

- ユーザには [ビデオ オンで着信を受け付ける] 設定が表示されません。
- すべてのビデオコールの着信、許可されると音声通話になります
- ユーザは通話をビデオにエスカレートできなくなり、ビデオ エスカレーションは自動的に拒否されます

ビデオ コールが有効になると、[ビデオがオンの状態で着信に応答する] 設定の既定値をコントロールするための新しい構成プロパティが追加されます。 デフォルトでは、この機能はデスクトップではオンになっており、モバイルとタブレットではオフになっています。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	BroadWorks を介した SIP ビデオ コールの可用性を制御します。
%ENABLE_LOCUS_VideoCALLS_WXT%	true	true、false	Locus (無料) ビデオ コールの可用性を制御します。
%VideoCALLS_ANSWER_WITH_Video_ON_DEFAULT_WXT%	デスクトップ - true モバイル/タブレット - false	true、false	[ビデオがオンの状態で着信コールを受け付ける] 設定の既定値をコントロールします。

6.1.38 緊急 (911) 発信 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート

デスクトップおよびタブレットの Webex クライアントは、BroadWorks 展開の Webex の E911 緊急通話プロバイダーとして、RedSky、Intrado、または帯域幅を使用した E911 ロケーション レポートをサポートします。 E911 プロバイダーは、デバイスごとのロケーション サポート (Webex デスクトップおよびタブレット アプリ、HELD 対応の MPP デバイス) と、緊急通話を米国およびその準州 (グアム、プエルト) の公共安全応答局 (PSAP) にルーティングするネットワークを提供します。リコ諸島、バージン諸島、カナダのみ。 このサービスはロケーションに基づいて有効になります。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	フォルス	true、false	E911 プロバイダの緊急時ロケーション プラットフォームを有効にします。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%BWE911-PRIMary-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダ 緊急位置情報プラットフォームの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダ HTTPS リクエストで使用される顧客 ID (HeldOrgId, CompanyID) です。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダ HTTPS リクエストを認証するためのシークレット。
%BWE911-緊急番号-リスト%	空	CSV 文字列	E911 プロバイダーがサポートしている緊急電話番号のリストです。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (ユーザへの再表示はありません)	番号 [0 - 43200]	緊急ロケーションが入力されていない、または無効な場合に、ユーザに緊急ロケーションの更新を催促するタイムアウト時間 (分単位)。 を有効にする場合の推奨値: 1440 (1 日)。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできる)	数字 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーション ダイアログを閉じることができる (つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることができない) 時間。 有効な値： ▪ N = -1 (ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます) ▪ N = 0 (ユーザはダイアログをキャンセルできません - 常に必須の場所です) ▪ いいえ > 0 (ユーザはダイアログが必須になるまでに N 回だけキャンセルできます)
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	積極的、ones_per_login	一度_per_login	E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。 「aggressive」の値は、ネットワークが未知の場所に変更するたびに、ユーザにダイアログを表示します。「once_per_login」の値は、ダイアログを 1 回だけ表示し、それ以上のポップアップやユーザの邪魔になるのを防ぎます。

メモ 1: BWE911-*** タグは「動的な組み込みシステムタグ」です。
詳細については、セクション *5.7 Cisco BroadWorks Dynamic 組み込みシステム タグ* を参照してください。

Cisco 社外秘

メモ 2: VOIP 発信が無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の値は cs-only のみとなります。

6.1.39 アイデンティティとしての PAI

着信の場合、この新しいパラメータは SIP From および P-Asserted-Identity (PAI) ヘッダーの優先順位、および発信回線 ID として使用されるものを制御します。 着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがある場合、SIP From および PAI ヘッダーよりも優先して使用されます。 着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがない場合、この新しいパラメータにより、SIP From ヘッダーが PAI ヘッダーよりも優先されるかどうかが決まります。

<use-pai-as-calling-identity>タグの enabled 属性が「true」に設定されている場合、PAI ヘッダーが From ヘッダーよりも優先的に使用されます。 この発信者の ID は、連絡先を解決し、ユーザに提示するために使用されます。

対象 **発信通話**、このロジックは適用されません。 18X、200 OK 応答では、接続済み回線のアイデンティティが受信されるため、Webex アプリケーションは常に優先順位を持つ SIP PAI ヘッダーを使用します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT%	フォルス	true、false	ユーザに提示される発信者 ID を SIP From ヘッダーまたは SIP P-Asserted-Identity ヘッダーから取得するかどうかを制御します。 優先順位付きの PAI ヘッダーを使用する場合は、"true" に設定します。

6.1.40 画面共有を無効にする

リリース 42.5 では、画面共有の可用性をコントロールする機能が追加されました。 画面共有が無効になっている場合:

- 1 対 1 の通話でユーザに画面共有を開始するオプションは表示されません。
- 受信した画面共有要求は拒否され、ユーザには詳細なメッセージが表示されます。

既定では、この機能は有効になっています。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT%	true	true、false	ユーザに対して画面共有を有効にするかどうかを指定します。

Cisco 社外秘

6.1.41 スパム発信の表示

機能トグル (展開タイプごと) が有効で、機能が構成ファイルで有効になっている場合、Webex アプリは、スパム コール確認ステータスを、NewCall プッシュ通知または履歴レコード。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	フォルス	true、false	Webex Calling でのみ、着信画面と通話履歴のスパム通話表示の可用性をコントロールします。

6.1.42 PSTN/モバイル通話のノイズ除去と帯域幅拡張

ノイズ除去は、PSTN またはモバイル デバイスで Webex 以外のユーザと通話する際に、発信ユーザにより良い通話体験を提供します。 リリース 43.12 では、ノイズ除去はデフォルトでオンになっています。

Webex アプリのリリース 44.2 では、ナローバンド PSTN 通話用の新しい着信音声メディア Speech AI の強化が導入されています。

- 新しい帯域幅拡張アルゴリズムが追加され、狭帯域 PSTN 周波数帯の帯域幅を拡張し、ノイズを除去することで音声品質を向上させます。 帯域幅を拡張することで、明瞭度が向上し、聞き取りの疲れが軽減されます。
- 既存のノイズ除去アルゴリズムが強化され、保留時の音楽やその他の音声トーン (ビープ信号など) の制限がなくなりました。
- この機能が有効になっている場合、ユーザには [スマート音声 - 外部] インジケーターが表示され、受信音声メディアの Speech AI 強化をコントロールできます。

既定では、これらの音声認識機能は有効になっています。 ユーザは音声基本設定のスマート音声設定を通じて初期状態をコントロールできます。

```
<config>
   <サービス>
      <コール>
         <speech-enhancementsenabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
% ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT %	フォルス	true、false	外部 (受信) メディアのスピーチ強化を有効にします。

Cisco 社外秘

メモ: ノイズ除去は追加の音声認識機能強化の一部になりました。<noise-removal> タグは新しい <speech-enhancements> タグにより廃止されました。 ノイズ除去カスタム タグ % ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% のサポートも終了しました。

6.1.43 QoS DSCP マーキング

QoS DSCP マーキングは、メディア RTP パケット (音声とビデオ) を呼び出す Webex アプリでサポートされています。 DSCP は、ネットワーク データのトラフィック分類を決定します。 これは、どのネットワークトラフィックがより高い帯域幅を必要とし、より高い優先順位を持ち、パケットをドロップする可能性が高いかを判断するために使用できます。

メモ: 最近のバージョンの Microsoft Windows オペレーティング システムでは、アプリケーションが発信パケットに直接 DSCP や UP を設定することはできません。その代わり、UDP ポート範囲に基づいて DSCP マーキング ポリシーを定義するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) の展開が必要になりました。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_QOS_WXT%	true	true、false	音声通話の QoS を有効にします。
%AUDIO_QOS_VALUE_WXT%	46	0-63	音声通話用に選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が提供されない場合、または値が正常に解析されなかった場合、デフォルト値が使用されます。
%ENABLE_Video_QOS_WXT%	true	true、false	ビデオ コールの QoS を有効にします
%Video_QOS_VALUE_WXT%	34	0-63	ビデオコール用に選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が提供されない場合、または値が正常に解析されなかった場合、デフォルト値が使用されます。

Cisco 社外秘

6.1.44 プライマリ プロファイル

共有回線の インテグレーション (*6.1.51.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス***Error! Reference source not found.**) で、ユーザの回線が別のユーザと共有されている場合、同じタイプの複数のプロファイルがユーザに設定される場合があります。 電話サービスにログインするための正しいプロファイルを選択するために、Cisco BroadWorks が強化され、ユーザがデバイスを所有しているかどうか、つまりデバイスのプライマリ回線/ポートがデバイスに割り当てられているかどうかを示すようになりました。Cisco BroadWorks の更新の詳細については、 デバイスリストの所有者フラグが Webex クライアント共有回線をサポートするようになりました。

管理者ポータルでの ID/デバイス プロファイルのプライマリ回線/ポートの構成

リリース 43.2 から、プライマリプロファイルの制限を適用するかどうかをコントロールする新しい設定オプション (*device-wner-restriction*) が追加されました。 これを使用すると、RTCP アプリケーションがプライマリ以外の回線/ポート プロファイルを使用して電話サービスにログインすることを許可できます。 この構成オプションは、ユーザに構成されたプロファイルの数に関係なく、すべての構成に適用されます (**デバイスの所有権の制限が有効で、対応するプラットフォームのプライマリ回線/ポートを持つデバイスがない場合、電話、サービスは接続できません**)。

デスクトップ Webex アプリ内でユーザがペアリングできるデバイスにも同じ制限が適用されます。 ユーザは、彼が所有しているデバイスでのみ表示およびペアリングできます。 これにより、共有回線または仮想回線が割り当てられた別のユーザのデバイスとのペアリングが防止されます。 同じ構成パラメータの値がこの制限にも適用されます。

```
<config>
<サービス><コール>
<device-wner-restrictionenabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	true	true、false	デバイス所有者の制限を制御します - 電話サービスが特定のデバイスのプライマリ プロファイルを使用する必要がある場合

> **注意:** 所有者制限を有効にすることをお薦めします。 無効にすると、電話サービスは最初に見つかったプロファイルを使用してログインします。同じタイプのユーザに複数のプロファイルが設定されている場合、問題が発生する可能性があります。

6.1.45 ブロック一覧 (Webex Calling のみ)

43.5 以降、Webex アプリはユーザが定義した電話番号のブロック リストを導入します。 この機能が有効な場合、ユーザは特定の番号からの着信をサーバ側でブロックし、ユーザのデバイスには配信しないように指定できます。 ユーザは、通話履歴でこれらのブロックされた通話を確認できます。

ユーザは [通話基本設定] と [通話履歴] の 2 つの場所からブロック リストを構成できます。 [基本設定] で、ユーザはブロックされた番号のリストを表示し、編集できます。 通話履歴では、ユーザはユーザ定義のブロック リストでブロックされた通話の通話履歴を確認できます。 番号がユーザ定義のブロックリストにある場合、これらのレコードには [ブロック済み] 表示があり、ユーザは特定のレコードの番号を直接ブロック解除するオプションがあります。 ブロックオプションも利用できます。

ユーザ定義のブロックリストに追加される番号のルール:

- 番号の形式
  - 通話基本設定からブロックすると、Webex アプリのローカルで E.164 形式の制限が適用されます
  - 通話履歴からのブロックはすべての Webex 記録に対して許可されます
  - Cisco BroadWorks は、番号の形式に基づいて、ブロック リストに追加される新しい番号の要求を許可または拒否する場合があります。
- 内線番号 - 内線番号からの着信は、ユーザが定義したブロック リストに含まれている場合でも、ユーザに転送されます。

ユーザ定義のブロックリストは、Cisco BroadWorks で構成され、ユーザのすべての WxC デバイスに適用されます。この機能は、管理者定義のブロックリストと連携して機能します。これは、ユーザが設定することはできず、Control Hub にアクセスします。 管理者が定義したブロックリストによってブロックされた着信に対して、通話履歴記録はありません。

ユーザ定義のブロック リストは、STRI/SHA ケン、管理者定義のブロック リスト、および匿名着信拒否ポリシーの後に適用されます。

```
<config>
<サービス><コール>
```


Cisco 社外秘

```
<call-lockenabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	true	true、false	ユーザ定義のブロックリストを有効にする「true」に設定すると、Calling 基本設定と通話履歴でブロックリストが表示されます。

メモ: この機能は、ユーザに割り当てられている Cisco BroadWorks 着信拒否サービスによって異なります。

6.1.46 メディアへの適応と復元力の実装 (MARI)

6.1.46.1 レート適応

音声がビデオ パケット損失の影響を受けないようにし、混雑時に使用される帯域幅の量を管理するためにビデオがビデオ レート適応を活用できることを確実にするために、Webex アプリケーションには適応型メディア品質技術がすでに統合されています。

レート適応または動的ビットレート調整は、使用可能な可変帯域幅にコールレートを調整し、パケット損失の状態に基づいてビデオのビットレートを加速または減速します。 エンドポイントは、パケット損失があることを示すメッセージを受信者から受信すると、ビットレートを下げます。パケット損失が減少したら、ビットレートの高速化が行われます。

レート適応メカニズムの使用を制御するための構成可能な設定はありません。

6.1.46.2 順方向誤り訂正 (FEC) およびパケット再送 (RTX)

リリース 43.4 以降、Webex アプリはメディア適応メカニズムに、音声とビデオの両方のメディアに対する順方向エラー訂正 (FEC) とパケット再送信 (RTX) のサポートを追加します。

FEC は、事前に決定されたアルゴリズムを使用することにより、送信される情報に冗長性を提供します。 この冗長性により、受信者は送信者に追加のデータを要求することなく、限られた数のエラーを検出して修正することができます。 FEC は受信者にデータの再送信を要求するためのリバース チャネル (RTCP など) を必要とせずにエラーを修正する機能を提供します。

エンドポイントは 768 kbps より低い帯域幅で FEC を使用しません。 また、FEC が導入される前に、少なくとも 1.5% のパケット損失がなければなりません。 エンドポイントは通常 FEC の有効性を監視し、FEC が有効でない場合は使用されません。

FEC は再送信より多くの帯域幅を消費しますが、遅延は小さくなります。 わずかな遅延が許容され、帯域幅に制約がある場合、RTX が使用されます。 遅延が大きく帯域幅が十分である場合、FEC の方が適しています。

Cisco 社外秘

Webex アプリは、ネゴシエートされた帯域幅と特定のメディア ストリームの遅延許容範囲に応じて、RTX または FEC を動的に選択します。 FEC は冗長ビデオデータのために帯域幅の使用率が高くなりますが、失われたパケットを回復するための追加の遅延をもたらしません。 RTX は帯域幅使用率の向上につながりませんが、RTP パケットは、#dntr_bfejeigjz フィードバックチャネルで受信側がパケット損失を示した場合にのみ再送信されるため、 RTX では、RTCP パケットが送信側から受信側に到達するまで、および再送信されたパケットが送信側から受信側に到達するまでにかかる時間のために、パケット復元の遅延が発生します。

RTX を有効にするには、FEC を有効にする必要があります。

```
<config><services><calls>
<音声>
        <audio-Quality-enhancements>
                <まり>
                        <fecenabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
                                <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                                <payload>111</payload>
                                <max_esel>1400</max_esel>
                                <max_n>255</max_n>
                                <m>8</m>
                                <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                                <non_seq>1</non_seq>
                                <feedback>0</feedback>
                                <注文>FEC_SRTP</注文>
                        </fec>
                        <rtxenabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
                                <mar-rtx>90000</mar-rtx>
                                <payload>112</payload>
                                <time>180</time>
                                <data-flow>1</data-flow>
                                <注文>RTX_SRTP</注文>
                        </rtx>
                </mar>
...
<ビデオ>
        <ビデオ品質-エンハンスメント>
                <まり>
                        <fecenabled="%ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT%">
                                <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                                <payload>111</payload>
                                <max_esel>1400</max_esel>
                                <max_n>255</max_n>
                                <m>8</m>
                                <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                                <non_seq>1</non_seq>
                                <feedback>0</feedback>
                                <注文>FEC_SRTP</注文>
                        </fec>
                        <rtxenabled="%ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT%">
                                <mar-rtx>90000</mar-rtx>
                                <payload>112</payload>
                                <time>180</time>
                                <data-flow>1</data-flow>
                                <注文>RTX_SRTP</注文>
                        </rtx>
                </mar>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	フォルス	true、false	音声通話の FEC を有効にする
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	フォルス	true、false	音声通話の RTX を有効にします (有効な音声 FEC が必要です)
%ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT%	フォルス	true、false	ビデオ コールの FEC を有効にする
%ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT%	フォルス	true、false	ビデオ コール用の RTX を有効にします (有効なビデオ FEC が必要です)

6.1.47 同一ユーザとの同時通話

単一のデバイスでの同じユーザとの同時通話のサポートを追加します。

この機能は、コールの提示されたアイデンティティが接続されたアイデンティティと同じではない一部の展開で役立ちます。 これにより、元のパーティへの在席転送を開始することができなくなります。 この機能を有効にすることで、ユーザは同じリモート パーティとの複数の同時コールを処理することができます。

```
<config>
   <サービス>
      <コール>
         <silultanous-calls-with-same-
userenabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
% ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT %	フォルス	true、false	Webex アプリが同じユーザに対して単一または複数の WxC 呼び出しを持つことができるかどうかを指定します。

6.1.48 RTCP-XR

リリース 43.8 以降、Webex アプリは通話中に交換する RTCP-XR パケットのネゴシエーションを追加します。 ネゴシエーションは SIP INVITE セッションの確立中に発生します。 両方のエンドポイントが RTCP-XR パケットをサポートしている場合、Webex メディア エンジンはこれらのパケットの交換を開始し、適応型通話品質メカニズムを支援します。 この機能はデフォルトで有効になっています。

Cisco 社外秘

さらに、Webex Calling に限り、これらの追加メトリクスは SIP BYE 経由で送信され、この方法で Control Hub で公開されます。

```
<config>
<プロトコル><sip>
   <rtcp-xr>
      < 出，いただいて 表示 され ます
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	true	true、false	通話品質を向上させるために、RTCP-XR ネゴシエーションとパケット交換を有効にします。 デフォルトでは有効になっています。

6.1.49 着信の転送

Webex アプリのリリース 44.2 には、通話関連の画面と通話履歴での着信転送とリダイレクト情報の表示/非表示をコントロールする設定可能なオプションが導入されています。

```
<config>
<services><calls>
<call- forwarding-infoenabled="%ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%	true	true、false	着信の転送とリダイレクト情報の表示を制御します。 「true」に設定すると、通話関連の画面と通話履歴の情報が表示されます。

6.1.50 ﾊｯｼﾝｼｬID

6.1.50.1 発信発信者 ID

Webex モバイル (リリース 44.2) および デスクトップ (リリース 44.3) アプリでは、発信コール用の優先外部発信者番号通知を選択する新しい機能がユーザに導入されました。 利用可能なオプションのリストには以下が含まれます。

- 直通回線 (既定)
- ロケーション番号
- 同じ組織からのカスタム番号
- ユーザが属している通話キュー。これにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます

Cisco 社外秘

- ユーザが属しているハント グループにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます
- 発信者 ID を非表示にする

注：

- オプションのリストは行によって異なります。
  - プライマリ回線 - オプション一式
  - 共有回線 - 利用できません
  - 仮想回線 - 通話キューのオプションのみ
- すでに選択されている ID が利用できない場合、ユーザのデフォルトの発信者 ID が使用されます
- 緊急通話には常にユーザの緊急コールバック番号を使用
- <services><call-center-agent>セクションの<outgoing-calls>タグを廃止

利用可能なオプションのリストは、管理者ポータルから構成することができます。 Webex アプリでこれらの機能強化の可用性をコントロールするための個別の DMS カスタム タグもあります。

```
<config>
<services><calls>
   <発信者番号>
      <outgoing-callsenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
         <additional-numbersenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%"/>
         <call-centerenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
         <hunt-groupenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
         <clid-delivery-lockingenabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%"/>
      </outgoing-calls>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
% ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT %	フォルス	true、false	発信コールの発信回線 ID 番号の選択を有効にします。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%	フォルス	true、false	ユーザ用に設定された追加番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT %	フォルス	true、false	ユーザ用に設定されたコールセンター (DNIS) 番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	フォルス	true、false	ユーザに設定されたハントグループ番号の可用性を制御します。
"%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%	フォルス	true、false	発信通話の選択として、発信者 ID 配信ブロックを有効にします。

Cisco 社外秘

メモ: デスクトップ アプリ バージョン 44.3 はコール センターの CLID のみをサポートし、44.4 は残りのオプションのサポートを追加します。

6.1.50.2 リモート発信者 ID 名

コールの受信時/開始時に、Cisco BroadWorks は SIP INVITE でリモート パーティの表示名を送信します。 これは Webex アプリによってデフォルトで使用されます。 同時に、Webex アプリは複数のソースに対して、以下の優先順位で連絡先の解決を開始します。

- 共通 ID (CI)
- 連絡先サービス (カスタム連絡先)
- Outlook の連絡先 (デスクトップ)
- ローカルアドレス帳 (モバイル)

いずれかの検索ソースに対して連絡先が正常に解決された場合、リモート パーティの表示名が更新されます。 また、連絡先が CI で見つかった場合、通話セッションは同じユーザの Webex Calling クラウド サービスにリンクされ、リモート パーティのアバターとプレゼンスを確認するオプション、チャット、画面共有、エスカレートするオプションが提供されます。Webex クラウド ミーティングなどに

Webex アプリのリリース 44.5 では、1 対 1 の Cisco BroadWorks 通話に使用される Workspaces または RoomOS デバイスとの通話で、連絡先の解決策を無視して常に Cisco BroadWorks 表示名を保持する構成可能なオプションが追加されています。

```
<config>
<services><calls>
   <発信者番号>
      <リモート名>
         <Machine mode="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	解決済み	解決済み、sip	ワークスペースと RoomOS デバイスのリモート パーティ表示名をコントロールします。「sip」を使用して、連絡先の解決を無視し、SIP INVITE セッションで受け取った表示名を使用します。

Cisco 社外秘

6.1.51 複数行

Webex ユーザは 1 つのプライマリ回線と最大 9 つのセカンダリ回線を持つことができます。 セカンダリ回線は共有または仮想回線にできます (Webex 発信のみ)。

Webex アプリは、ログイン時と 12 時間ごとにダウンロードされる DMS 構成ファイルを通じて回線構成を取得します。 回線構成の更新が検出された場合、ユーザは変更を適用するためにアプリケーションを再起動するように求められます。 ユーザが再ログインすると、直ちに回線構成の更新が検出され、適用されます。

以下は、デスクトップとモバイル両方の複数行サポートに関連する DMS 構成テンプレートのセクションを示しています。

```
<config>
<プロトコル>
   <sip>
       <linemulti-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
          <personal>
             <line-port>%BWDISPLAYNAMElineport%</line-port>
          </personal>
          <line LineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
             <external-id>%BWUSERextID-1%</external-id>
             ...
          </line>
          <line LineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
             <external-id>%BWUSERextID-2%</external-id>
             ...
          </line>
          ...
          <line LineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
             <external-id>%BWUSERextID-10%</external-id>
             ...
          </line>
```

複数行の機能をコントロールするには、専用のカスタム タグを使用します。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	false	true、false	複数回線のサポートを有効にします (設定されている場合)。 無効にした場合 ("false" に設定)、設定された最初の行だけがアプリケーションによって使用されます。

メモ 1 : 機能 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート は複数回線構成との組み合わせでは利用できません。

メモ 2: BroadWorks のその他の要件については、Cisco BroadWorks ソリューション ガイドの Webex の「共有回線のアピアランス」を参照してください。

Cisco 社外秘

6.1.51.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス

リリース 42.12 以降、Webex アプリケーションは共有回線のサポートを追加します。 管理者は各共有回線に共有コール アピアランスをセットアップする必要があります。

リリース 43.12 では、Webex アプリが強化され、別のユーザまたは別のデバイスの同じユーザによって処理された、共有または仮想回線の保留中のコールを移動 (ローカルで再開) できるようになりました。 詳細については、 *6.2.13 通話を移動*。

6.1.51.2 デスクトップ - バーチャル ライン (Webex のみ)

Webex Calling 展開の場合のみ、Webex アプリは仮想回線を使用した複数回線構成をサポートします。 機能的には、仮想回線による構成は、共有回線を使用する複数回線と一致します。ユーザ用に構成された仮想回線を確認し、着信および発信通話に使用することができます。

リリース 43.4 では、仮想回線サポートが拡張され、グループ コール パークとコール パーク取得が追加されました。

リリース 43.12 では、Webex アプリが強化され、別のユーザまたは別のデバイスの同じユーザによって処理された、共有または仮想回線の保留中のコールを移動 (ローカルで再開) できるようになりました。 詳細については、 *6.2.13 通話を移動*。

6.1.51.3 モバイル (Webex Calling のみ)

リリース 45.4 では、Webex Calling 展開の場合のみ、モバイル バージョンの Webex アプリに複数回線 (共有および仮想) のサポートが追加されています。 回線の割り当ては、デスクトップとモバイル Webex アプリの両方に適用できます。

モバイル プラットフォームの特性により、ユーザは任意の回線で同時に最大 2 つのコールを行うことができます。

> **メモ 1**: ネイティブのダイヤラーでの発信が有効になっている場合 (*6.3.5.1 ネイティブのダイヤラーで発信する*)、複数行は無効になります。
>
> **メモ 2**: タブレットバージョンでは複数行はサポートされていません。

6.1.52 強化された SIP 認証

Webex アプリのリリース 45.4 は、すべての SIP セッション間で承認を共有することにより、SIP 通信を最適化するための構成可能なオプションを提供します。 アプリは承認を保存し、有効になるまで再使用します。

この機能により、サーバと Webex アプリ間の SIP 通信がスピードアップし、トラフィックが減少し、通話接続時間が短縮され、Webex アプリの全体的なパフォーマンスが向上します。

Cisco 社外秘

```
<config>
<プロトコル>
  <sip>
    <enhanced-authorizationenabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
% ENABLE_ENHANCED_ AUTHORIZATION_WXT %	フォルス	true、false	「true」に設定すると、SIP 認証強化が有効になります。

メモ 1注意: 一部の SBC では、すべてのセッションで新しい SIP 認証が必要な場合があるため、この機能は展開の詳細に従って使用する必要があります。

メモ 2: この機能が有効になっている場合でも、Webex アプリが 401 未認証を受け取ると、新しい認証が次の SIP リクエストで使用されます。

6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中)

リリース 44.11 (モバイル Webex アプリ) およびリリース 45.3 (デスクトップ Webex アプリ) で、Cisco BroadWorks Personal Assistant (PA) サービスとの統合が追加されます。 これはユーザの退席中プレゼンスと組み合わせて機能し、PA 状況を Webex クラウド プレゼンスと同期させる必要があります。

PA サービスは、着信側が応答できない理由を発信者に通知するオプションをユーザに提供します。オプションで、着信側がいつ戻るか、およびコールに応答するアテンダントの有無に関する情報も提供します。

PA が有効な場合、ユーザは [退席中] オプションを利用できます。 これは、PA を Cisco BroadWorks 側で構成するために使用できます。 この機能がアクティブになると、ユーザには、ユーザの退席中のプレゼンスが、PA の状況および構成された継続時間と組み合わされて表示されます。

ユーザは、PA の手動構成のみを構成できます。 PA サービスに影響を与えるスケジュールがある場合、プレゼンスはパーソナル アシスタント状況同期によって更新されます。 ただし、Webex アプリは、PA に影響を与えるスケジュール構成とスケジュールを公開しません。

```
<config>
<サービス>
  <personal-assistantenabled="%PERSONAL_ASSISTant_ENABLED_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	フォルス	true、false	ユーザが [退席中] プレゼンス機能を利用できるかどうかを制御します。

メモ 1: この機能を使用するには、Partner Hub からパーソナル アシスタント状況の同期を有効にする必要があります。

注意 2: DND、常に着信の転送、または選択的着信転送のサービスがアクティブの間は、パーソナル アシスタントの標準的なコール ルーティングが有効になりません。

メモ 3: 手動による [応答不可] および [取り込み中] プレゼンス状態は、退席中よりも優先されます。 ユーザ マニュアルによりこれらのプレゼンス状況のいずれかがアクティブ化されている場合、パーソナル アシスタントを有効にしてもプレゼンス状況が [退席中] に変更されません。

Cisco 社外秘

6.2 デスクトップのみの機能

6.2.1 強制ログアウト

この機能により、Cisco BroadWorks は同じデバイス タイプのオンライン クライアント インスタンスを追跡し、一度にそのうちの 1 つだけをオンラインにすることを許可できます。 Cisco BroadWorks がクライアントにログアウトするよう通知すると、SIP 接続が終了し、クライアントは発信側が接続されていないことを示します。

この機能は、同様のクライアントが同時にオンラインで副作用を引き起こす可能性がある一部の展開で必要です。 一例として、職場や家庭でデスクトップマシンを使用しているユーザがいる場合、どの SIP 登録がアクティブであるかに応じて、着信通話がクライアントの 1 つだけによって受信されます。

強制ログアウトは SIP に基づきます。クライアントは、特別な *appid-value* を持つ *call-info* イベントパッケージに SIP SUBSCRIBE を送信します *From* ヘッダーの *bsoft-call-info* パラメータ値に関係なく、 Cisco BroadWorks が同じ *appid*を持つ複数のクライアントインスタンスをオンラインで検出した場合、古いクライアントインスタンスに特別な SIP NOTIFY を送信し、ログアウトさせます。 例えば、デスクトップクライアントは同一の *appid-value* を持ちますが、クライアント側ではこの識別子の使用に制限はありません。 *appid-value* はサービスプロバイダが設定します。

強制ログアウトを使用するには、SIP *Call-Info* サブスクリプションを有効にする必要があります。

この機能に必要な Cisco BroadWorks パッチおよびリリースの詳細については、『 *Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド*』の「Cisco BroadWorks ソフトウェア要件」のセクションを参照してください。

設定の詳細については、次の例を参照してください (SIP は、このリリースでサポートされている唯一のコントロールプロトコルです)。

```
<config>
<サービス>
<forced-logoutenabled="%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%" control-protocol="SIP"
appid="%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	フォルス	true、false	強制ログアウトを有効にします。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	空	文字列	相関関係のためにサーバ側で使用されるアプリです。 任意の文字列を指定できます。 例:「123abc」

Cisco 社外秘

6.2.2 コール ピックアップ

コール ピックアップは、選択されたユーザが、コール ピックアップ グループ内の任意の呼び出し中の回線に応答できるマルチユーザ サービスです。 コールピックアップグループは管理者により定義され、グループ内で互いのコールに応答できるユーザのサブセットです。

次の集荷ケースがサポートされています。

- ブラインド コール ピックアップ
- ダイレクト コール ピックアップ (ユーザが各機能アクセス コードをダイヤルしてから呼び出し中の電話の内線番号をダイヤルすることで、グループ内の別の電話にダイレクトされたコールに応答できます)。

```
<config>
<サービス><コール>
<call-pickupblending="%ENABLE_CALL_PICKUP_blnd_WXT%"
Directed="%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	フォルス	true、false	ブラインド コール ピックアップを有効にするには、"true" に設定します。
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	フォルス	true、false	「true」に設定すると、ダイレクト コール ピックアップが有効になります。

6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) サポート

Cisco BroadWorks ではエグゼクティブ アシスタントとして知られる上司管理機能を使用すると、アシスタントがエグゼクティブの代理として、「エグゼクティブ」として通話のスクリーニング、応答、発信を行うことができます。 1 人のアシスタントに多数のエグゼクティブを含めることができます。この場合、次のことが可能です。

- 発信するときに、希望の役割を選択します。
- エグゼクティブの代理として着信に応答し、エグゼクティブに発信をプッシュします。 それに加えて、すべての通常の通話管理オプションが利用できます。
- かかってきた電話が実際にエグゼクティブ宛てであることを確認します。

エグゼクティブとエグゼクティブ-アシスタントは、相互に関連する 2 つの Cisco BroadWorks サービスで、以下の機能を併せて提供します。

- エグゼクティブ サービスのユーザは、通話を管理するアシスタントのプールを定義できます。 アシスタントは同じグループ内、またはエグゼクティブ アシスタント サービスが割り当てられているエンタープライズ内のユーザから選択する必要があります。
- エグゼクティブ-アシスタントサービスを利用するユーザは、エグゼクティブの代理として通話に応答したり、発信したりできます。

Cisco 社外秘

- 重役とアシスタントの両方が、どの通話をアシスタントに転送するか、アシスタントに着信をどのように警告するか、アシスタントに転送された通話のうちどれをスクリーニングのためにエグゼクティブに表示するかを指定できます。

```
<config>
<サービス>
<executive-assistantenabled="%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_WXT%	フォルス	true、false	Boss-Admin 機能を有効にするには、"true" に設定します。

メモ重要: 上司管理 (エグゼクティブアシスタント) サポート機能は、共有回線と組み合わせて使用することはできません。

6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレートする (Webex Calling のみ)

クライアントは、進行中の SIP 通話をミーティングに Webex Calling 経由でエスカレートする機能を提供します。 標準の臨時電話会議の代わりにこの機能を使用することで、ユーザはミーティング中にビデオと画面共有を使用することができます。

```
<config>
<services><calls>
       <escalate-to-webex-
meetingenabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	フォルス	true、false	"true" に設定して Webex ミーティングにエスカレート メニュー オプションを有効にします。

6.2.5 デスク フォン 制御コーリング - 自動応答

自動応答により、ユーザはクライアントで発信通話にデスク フォンコントロール (DPC) を使用して、ゼロタッチ応答の MPP 電話を管理できます。

選択された MPP 電話は、発信 DPC コールの音声/ビデオを伝送します。

自動応答は、プライマリおよび非プライマリのプロビジョニング デバイスで機能します。 ユーザがペアリングできる登録済みのデスク フォンを複数持っている場合、選択/ペアリングされたデバイスのみが自動応答します。

```
<config>
```


Cisco 社外秘

```
<services><calls>
<deskphone-control auto-answer="%ENABLE_DESKPHONE_Control_AUTO_ANSWER_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_DESKPHONE_Control_AUTO_ANSWER_WXT%	true	true、false	true に設定すると、デスク フォンコントロールの自動応答が有効になります。

メモ: DPC モード中は、自動応答が着信に影響を与えないため、デスク フォンが着信に対して鳴ります。

6.2.6 トーン通知音による自動応答

この機能により、ローカル デバイスの自動着信応答サポートが有効になります (着信コール リクエストに表示されている場合)。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	フォルス	true、false	「true」に設定すると、バックエンドから要求された場合に、自動着信応答が有効になります。

6.2.7 デスク フォンのコントロール - 通話中のコントロール - 電話会議

この機能により、別のロケーションで終端されたリモート (XSI) コールの電話会議と結合のオプションが有効になります。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%	フォルス	true、false	true に設定すると、 別のロケーションで終端されたリモート (XSI) 通話で電話会議と結合のオプションが有効になります。

6.2.8 コールピックアップ通知

コール ピックアップ通知は、監視するように設定されているユーザへの着信があった場合に、それをユーザに知らせる機能を提供します。 コール ピックアップ通知は、コール ピックアップ グループおよび通話中ランプ フィールド サービスを通じて設定されたウォッチリストに対して受信できます。

コール ピックアップ通知は、監視対象のユーザがお互いに物理的に近くにいないため、同僚の電話の呼び出し音が聞こえない場合に役立ちます。

Cisco 社外秘

6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド

Webex デスクトップ アプリケーションは、ビジー ランプ フィールド BLF のウォッチリストに含まれるメンバーにアラート状態の着信がある場合に通知を表示します。 通知には、発信者と着信通話を受けたユーザに関する情報と、通話を受ける、通知を無音にする、または無視するオプションが含まれます。 ユーザが着信に応答すると、ダイレクト コール ピックアップが開始されます。

リリース 43.4 以降、BLF 監視ユーザのリストは、発信の複数通話ウィンドウ (MCW) で使用できます (Windows でのみ使用可能)。 MCW での BLF リストの統合には以下が含まれます。

- 通話に応答するか、アラートを無視するかを選択して、着信通話を監視します。
- BLF ユーザの完全なリストをご覧ください。
- ユーザのプレゼンスを監視する - リッチ プレゼンスは、クラウド エンタイトルメント Webex を持つユーザのみが利用できます。 Basic (テレフォニー) プレゼンスは、BroadWorks-only ユーザのみが利用できます。
- BLF ユーザとの通話を開始します。
- BLF ユーザとのチャットを開始します。これは Webex クラウド エンタイトルメントを持つユーザのみが利用できます。
- BLF ユーザを連絡先として追加します。

```
<config>
  <サービス>
    <コール>
      <BUSY-LAMP-fieldenabled="%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%">
        <display-callerenabled="%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <notification-delay time="%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	フォルス	true、false	通話に応答できる他のユーザに対して、[ビジー ランプ] フィールドの監視と呼び出し音通知を有効にします。
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し音の通知に発信者の表示名/番号を表示できるようにします。
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	0	0-60	呼び出し音の通知がユーザに表示されるまでの遅延秒数を制御します。

メモ: この機能は、ダイレクト コール ピックアップ サービスに依存しています。

Cisco 社外秘

6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)

リリース 44.2 以降、Webex アプリケーションは Webex Calling 展開のグループ通話ピックアップ (GCP) 通知のサポートを追加します。 これにより、ユーザは、通話ピックアップ グループを通じて監視されているユーザの着信通話について通知を受けることができます。

コール ピックアップ グループのユーザに対して着信コールがあった場合、着信者がコールに応答することができます。 Control Hub を通じて構成可能な GCP 通知遅延があります。 呼び出し先が構成された時間内に通話を処理しなかった場合、そのグループに GCP 通知が送信されます。

同じコール ピックアップ グループ内に複数のコールがある場合、受信した時間に基づいて順番に処理されます。 最も古い通話の通知が最初にグループに配信され、処理が完了すると、次の通知がグループに配信されます。

通知は、Control Hub 管理者ポータルの構成に応じて、音声のみ、ビジュアルのみ、または音声とビジュアルのいずれかになります。 視覚的な GCP 通知がある場合、ユーザは通話ピックアップ機能を使用して、通話に応答できます。 音声のみの通知が設定されている場合、ユーザは視覚的な着信通知を確認せず、特定の呼び出し音が流れ、Webex アプリの [コール ピックアップ] メニューから受けることができます。または、FAC をダイヤルすることでも受けることができます。コード (*98) と拡張子を手動で指定する必要があります。

ユーザはアプリケーション設定を通じて GCP 通知をミュートできます。 この設定はすべてのコール ピックアップ通知 (BLF および GCP) に適用され、デフォルトでは通知はミュートされています。

この機能は、プライマリ回線、およびユーザに割り当てられた共有または仮想回線に対して機能します。

```
<config>
<services><calls>
    <group-call-pickup-notificationsenabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
        <display-callerenabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
    </group-call-pickup-notifications>
...
<プロトコル><sip>
    <行>
        <行>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        <行>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        ...
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	フォルス	true、false	グループ通話のピックアップ通知を有効にする
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し音の通知に発信者の表示名/番号を表示する
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	120	5-120	ユーザが GCP 通知を利用できる最長時間を定義します
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%	フォルス	true、false	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します

メモ 1: これは Webex Calling のみの機能です。

メモ 2: この機能は、ユーザに設定されているコール ピックアップ グループによって異なります。

6.2.9 リモートコントロールイベントパッケージ

Webex アプリが発信デバイスである、BroadWorks Receptionist シン クライアントや Go インテグレーターなどのクリック ダイヤル クライアントで、着信時または保留/再開の処理時に、Webex アプリはリモート コントロール イベント パッケージを優先するようになりました。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_control_events_WXT%	false	true、false	True に設定すると、ユーザに対してリモートコントロールが有効になります。

6.2.10 発信キュー エージェントの CLID の選択

エージェントが顧客に発信するとき、顧客に個人/企業の CLID ではなく、適切な Calling Line ID (CLID) を見せたいと考えています。 たとえば、エージェントのメアリー・スミスがテクニカルサポートのコールキューに参加している場合、顧客に発信したときに、メアリーは顧客に彼女の CLID がメアリー・スミスではなくテクニカルサポートとして表示されることを望んでいます。

Control Hub または CommPilot の管理者は、通話キューで発信 CLID に使用される 1 つ以上の DNIS 番号を指定できます。 エージェントには、発信コールを行う際に CLID として使用される DNIS 番号の 1 つを選択するオプションがあります。 Webex アプリは、エージェントが CLID として使用する DNIS を選択する機能を提供します。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	コールセンターのキューの代わりに発信通話を有効にします (CLID 選択)。

6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ(Webex Calling のみ)

リリース 43.2 以降、Webex アプリケーションがサバイバビリティ コール モードのサポートを追加します。この機能が有効になっていて、Webex クラウド接続がない場合、Webex アプリケーションはサバイバビリティ モードで実行できます。 このモードでは、ユーザが利用できる発信機能が制限されます。

顧客がローカル 存続可能性ゲートウェイを展開します。

```
<config>
<プロトコル>
<sip>
<surliveability-gatewayenabled="%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEway_WXT%" walkback-
time="%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%">%BWSURVIVABILITYGATEway%</survinability-
gateway>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEway_WXT%	フォルス	true、false	サバイバビリティ モードのサポートを有効にします。
%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%	30	>=30	フォールバック時間 (SSE へのサバイバビリティ ゲートウェイ) を指定します

メモ: この機能により、オンプレミスからクラウドの通話ソリューションに確実に移行できます。

6.2.12 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ)

リリース 43.9 以降、Webex アプリは音声メディア ストリームのリモート ミュート コール コントロールのサポートを追加します。 これにより、進行中の通話のミュート/ミュート解除を、BroadWorks Receptionist シン クライアントのような別のロケーションからトリガーできます。この場合、Webex アプリが発信デバイスになります。

この機能は新しい SIP *x-cisco-mute-status* info パッケージに依存しています。 *Recv-Info:x-cisco-mute-status* ヘッダーが、SIP INVITE セッションの確立の呼び出し中に受信されると、ローカルまたはリモートのセッションへの更新が音声通話セッションのミュート状態の場合、Webex アプリは SIP INFO を *Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*)、ミュートパラメータは音声メディアストリームの更新状態を表します。

Cisco 社外秘

ミュートまたはミュート解除は、ローカルまたはリモートの場所からトリガーできます。 リモート更新により、 *イベント:ミュート (または* unmute *) を含む SIP NOTIFY が Webex アプリに送信されるようトリガーされます。アプリケーションサーバからダウンロードします。* Webex アプリはリモート要求を受け入れ、音声メディア ストリームの状態の更新後、 *Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*).

```
<config>
<サービス>
   <コール>
       <remote-mute-controlenabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_Control_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_MUTE_Control_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、リモートの通話ミュートコントロールがユーザに対して有効になります。

6.2.13 通話を移動

Webex アプリは、別の場所で終了した VoIP 通話の通話監視と通話コントロールを提供します。これは、ユーザのプライマリ回線に対してのみ利用できます。

リリース 43.12 以降、Webex アプリが強化され、別のロケーションで終了した通話を共有回線と仮想回線でも表示できるようになりました。 このような通話は進行中の通話領域に情報として表示され、コントロールすることはできません。 そのような通話が保留になっている場合にのみ、ユーザはそれを選択してローカル デバイスに移動し、通話画面から再開できます。 このメカニズムは、コールが別の場所の同じユーザによって処理された場合、または同じ回線を使用して別のユーザによって処理された場合に役立ちます。

Webex アプリでは、保留中の通話をペアリングされた端末に移動することはできません。 ユーザがデバイスとペアリングされている場合、まず切断する必要があります。それから、保留中の通話をローカルで再開できます。

共有および仮想回線の通話監視は、SIP call-info イベント パッケージに依存します。

ユーザのプライマリ回線の通話の監視は XSI イベント (高度な通話イベント パッケージ) によって異なり、これらの通話ではローカル デバイスに通話を移動することはできません。 このタイプの通話では、ユーザはコールプル (*6.1.22 通話 (*プル)) 機能を使用できます。 コール プルは、ユーザの最後のアクティブ コールに対してのみ機能します。共有回線および仮想回線のメカニズムは、保留になっているユーザのすべてのコールに対して機能します。

- 使用事例 1:
    a. アリスには、デスク フォンとデスク フォンのプロファイルに割り当てられたボブの回線があります。
    b. アリスはデスク フォンを通じてチャーリーと通話ができます – アリスはデスクトップ アプリで進行中の通話を確認できます。

Cisco 社外秘

c. アリスはデスク フォンから通話を保留にします。アリスはデスクトップアプリから通話を再開できます。

- 使用事例 2:

  a. アリスには、デスク フォンとデスクフォンのプロファイルに割り当てられたボブの回線があります。

  b. 「ボブはチャーリーと通話ができます」– アリスは進行中の通話をデスクトップアプリで確認できます。

  c. ボブがチャーリーとの通話を保留にする – アリスはデスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できます。

- 使用事例 3:

  a. アリスには、デスク フォンとデスクフォンのプロファイルに割り当てられたボブの回線があります。

  b. アリスはデスクトップ アプリから彼のデスク フォンとペアリングされています。

  c. 「ボブはチャーリーと通話ができます」– アリスは進行中の通話をデスクトップアプリで確認できます。

  d. ボブがチャーリーとの通話を保留にする - アリスはデスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できません。

  e. アリスはデスク フォンからデスクトップ アプリを切断します – アリスはデスクトップ アプリからチャーリーとの通話を再開できます。

```
<config>
<サービス><コール>
    <call-move>
        <move-hereenabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	false	true、false	ローカル デバイスで通話の転送を有効にします。複数回線のユースケースで、複数のロケーション/ユーザにまたがる保留/再開に使用されます。

Cisco 社外秘

6.3 モバイルのみの機能

6.3.1 緊急通話

Cisco BroadWorks 版 Webex は、ネイティブの緊急通話をサポートしています。

この機能が有効な場合、発信 VoIP 通話を開始する際に、アプリケーションはダイヤルされた番号を分析し、設定された緊急電話番号のリストと比較します。 その番号が緊急用であると識別された場合、アプリケーションは設定されたダイヤル動作を実行します。 ダイヤルシーケンス*タグを使用して設定することができます。*

サポートされているモードは次のとおりです。

- cs-only : クライアントは、ネットワークが利用可能な場合に、携帯電話ネットワーク経由でのみ緊急通話を発信します。
- cs-first - 緊急通話の発信時に、クライアントは現在のデバイスが接続されているネットワーク タイプを確認します。 携帯電話ネットワークが利用できる場合、クライアントは携帯電話ネットワーク経由で発信します。 セルラー ネットワークが利用できないが、セルラー データ/Wi-Fi ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーデータ/Wi-Fi ネットワーク経由で VoIP 通話として発信します。 また、緊急通話が携帯電話ネットワーク経由で発信される場合、クライアントはユーザに対し、緊急通話を VoIP として再試行するよう提案します。。
- VoIP のみ - 携帯データ ネットワークまたは Wi-Fi ネットワークが利用できる場合、クライアントは VoIP としてのみ緊急通話を発信します。。
- cs-voip – クライアントは、デバイスがネイティブの回線交換 (CS) 通話として開始できるかどうかを分析します (CS ネットワークが利用可能かどうかは考慮しません)。 デバイスがネイティブ コールを開始できる場合、緊急 CS コールとして緊急番号がダイヤルされます。 それ以外の場合は、VoIP としてダイヤルされます。。

> **メモ**: VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の唯一の意味のある値は cs-only です。

緊急通話の免責事項はユーザのログイン時に表示されます。構成オプションでは制御できません。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	フォルス	true、false	緊急通話検出を有効にするには、"true" に設定します。 デフォルト値は空です。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	cs のみ	cs-only、cs-first、voip-only、cs-voip	緊急通話のダイヤル順序モードを制御します。
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	“911,112”	CSV list	緊急電話番号のリスト。 例: 911、112

6.3.2 通話のプッシュ通知

着信コールを受信すると、モバイル クライアントはまずプッシュ通知 (PN) を受信します。 SIP レジスタ セッションがいつ確立されるかを制御するために使用できる構成パラメータがあります。

1. プッシュ通知が受信されたら、または
2. ユーザが発信を承諾したとき。

2 番目の方法をお勧めします。 ただし、最初のケースと比較すると、呼び出しが確立される前に遅延が追加されます。

iOS 13 の要件によると、VoIP PN は着信コールにのみ使用する必要があります。 残りの通話関連のイベントでは、通常の PN を使用する必要があります。

この要件を満たすために、新しい PN 登録 API が導入され、対応するパッチをアプリケーションサーバに適用する必要があります。 バックエンドが iOS 13 PN をサポートするように構成されていない場合、構成パラメータを使用して、すべての通話関連イベントが CSV PN を通じて配信されるレガシー プッシュ通知の使用を強制できます。

呼び出し音が別の場所にいる着信者によって受け入れられたとき、発信者によって閉じられたとき、あるいはボイスメールにリダイレクトされたときなど、アプリケーションサーバ (AS) からプッシュ通知が送信されます。 iOS 13 では、このタイプのプッシュ通知が通常のものになり、いくつかの制限があります。 Apple プッシュ通知サービス (APNS) によって遅延するか、まったく配信されない場合があります。 通話更新 PN の欠落または遅延に対処するために、最大呼び出し時間をコントロールする設定可能な呼び出しタイムアウトが追加されました。 呼び出し音の最大時間に達した場合、呼び出し先の呼び出し音は停止し、その呼び出しは不在着信として扱われます。 発信者側では、アプリケーションサーバ (AS) で設定された応答なし呼び出し音のポリシーが実行されるまで、呼び出し音が鳴ったままになる場合があります。

アプリケーションの動作の一貫性を保つために、設定可能な呼び出しタイマーが Android と iOS の両方に適用されます。

Cisco 社外秘

着信がプッシュ通知として受信された場合に、通話拒否の動作を指定するための別の構成オプションが追加されました。 クライアントは、着信を無視するか、Xsi を通じて拒否を「true」または「false」に設定してサーバに応答するように構成できます。この場合、割り当てられた Cisco BroadWorks 着信処理サービスが適用されます。 「decline_false」が設定されている場合、発信者が放棄するか、無応答タイマーが期限切れになり、関連付けられたコール処理サービスが開始するまで、呼び出し音は鳴り続けます。 「decline_true」が設定されている場合、拒否理由はコール処理を示します。 拒否理由が「ビジー」に設定されている場合、サーバは直ちにビジー処理サービスを強制します。 「temp_unavailable」が設定されている場合、一時的不可の処理サービスが適用されます。

```
<config>
<サービス>
    <p Push-notifications-for-callsenabled="true"
    connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
    リングタイムアウト-秒="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"/>
    <コール>
        <reject-with-xsi mode="%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%"
        拒否 Reason="%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	フォルス	true、false	着信のプッシュ通知を受信したとき、または承諾したときに、SIP REGSITER セッションを確立するタイミングを制御します。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	35	[0-180]	PN 経由で受信した通話の最大着信呼び出し時間を制御します。 指定された期間内に CallUpd PN を受信しない場合、通話は不在着信として扱われます。
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	拒否_false	無視、拒否する_true、拒否_false	発信の拒否動作を指定します。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	通話中	取り込み中のため、一時的ではありません	拒否モードが「decline_true」に設定されている場合、発信の拒否理由を指定します。

6.3.2.1 MWI

MWI 機能を有効にすると、モバイルの Webex クライアントは MWI プッシュ通知にサブスクライブして、ユーザのボイスメールで更新を受信し、ユーザに通知します。

Cisco 社外秘

通知の数を減らし、不必要に注意をそらすことを避けるために、場合によっては MWI プッシュ通知が抑制されています。 たとえば、ユーザがボイスメールメッセージを聞いているとき、またはモバイル VoIP クライアント内から既読としてマークしているときなどです (未読数は減少しています)。これを制御する構成可能なオプションはありません。

MWI に関する詳細は、*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、待機メッセージインジケータ* 項を確認してください。

6.3.2.2 リング スプラッシュ

BroadWorks サービス (DND など) では、着信がリダイレクトされたときに呼び出し音のリマインダを送信できます。 Webex モバイル クライアントを構成して、リング スプラッシュ プッシュ通知を有効にし、BroadWorks によってトリガーされたときに、プッシュ通知をユーザに表示できます。

```
設定>
<サービス>
<ring-splashenabled="%ENABLE_RING_SPLash_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_RING_SPLash_WXT%	フォルス	true、false	BroadWorks 構成でリング スプラッシュを有効にします。

6.3.2.3 配信モード (Webex のみ)

Webex アプリは通知プッシュ サーバ (NPS) を利用して、APNS/FCM への呼び出しのプッシュ通知を配信します。 Webex アプリのリリース 45.2 は、通話関連のプッシュ通知を APNS/FCM に配信する方法を設定する 3 つの異なる配信モードをサポートするようになりました。

- nps - NPS を使用する現在のメカニズム
- cloud - Cisco Webex を使用してメカニズムを強化 クラウド マイクロサービス
- 外部 - サードパーティのシステムを使用するメカニズム。 サードパーティシステムと Cisco WebHooks エンジンの統合が必要です

```
<config>
<サービス><コール>
<p Push-notifications-for-callsenabled="true"
      connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
      ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"
      Delivery-mode="%PN_FOR_CALLS_DElivery_mode_WXT%">
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_DEIivery_mode_WXT%	nps	nps、クラウド、外部	通話のプッシュ通知の配信モードを指定します。

Cisco 社外秘

6.3.3 単一のアラート

モバイル シングル アラート機能は、BroadWorks モビリティ サービスを活用する、固定とモバイルの統合 (FMC) / モバイル ネットワーク オペレータ (MNO) の展開を対象としています。 これがないと、Webex クライアントにログインして着信通話を受けると、ネイティブの通話とプッシュ通知 (VoIP) 通話の 2 つの通話を同時に受信することになります。 この機能が有効な場合、アプリケーションはログイン時にユーザの BroadWorks Mobility ロケーションのモビリティ アラートを無効にし、ログアウト時にアラートを有効にします。 この機能を使用するための重要な前提条件は、ユーザに BroadWorks モビリティ サービスが割り当てられており、1 つのロケーションのみが構成されていることです。

```
<config>
<サービス><コール>
<single-alertingenabled="%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	false	true、false	単一のアラート を有効にするには "true" に設定します。

6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)

Click to Dial の発信により、エンドユーザは個人用の回路交換携帯電話で発信し、ビジネス DN を発信回線 ID として提供できます。

モバイル SNR クライアントは、BroadWorks Anywhere サービスを使用したクリック ダイヤル (コールバック) 通話をサポートしています。 Webex アプリケーション内の BroadWorks Anywhere ロケーションは Single Number Reach (SNR) ロケーション と呼ばれます。

この機能が有効になっている場合、ユーザはデバイスのペアリング メニューから #dntr_bifejfb ロケーションを選択できます。 SNR location とペアリングされている場合、すべての発信はクリック ダイヤル (コールバック) 通話を使用して開始されます。 二重の警告を防ぐため、着信のプッシュ通知は無効になっています。

ユーザが [クリックしてダイヤル] 通話を開始すると、発信通話画面に、選択した SNR 場所での着信通話を予測するための情報が表示されます。 この画面は、設定可能なタイマーに基づいて自動的に閉じます。

SNR ロケーションから切断するとき、アプリケーションは着信コールのプッシュ通知に再度登録します。

```
<config>
<サービス>
  <ダイヤル中>
    <call-
backenabled="%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%"timer="%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%"/>
```


Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	false	true、false	クリックしてダイヤル (コールバック) 発信を有効にするには、"true" に設定します。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	10	[3-20]	[コールバック] 画面が自動的に閉じるまでの秒数を制御します。

6.3.5 MNO サポート

6.3.5.1 ネイティブのダイヤラーで発信する

この機能により、BroadWorks Mobility (BWM) サービスを活用するモバイル ネットワーク オペレータ (MNO) 展開のサポートが追加されます。 ユーザには BroadWorks モビリティ サービスが割り当てられており、少なくとも 1 つのロケーションが構成されていることが想定されます。

ネイティブの電話を使って発信するユーザの機能は、 **ネイティブ** 設定タグで制御されます。 有効な場合、アプリケーションはネイティブのダイヤラーを起動し、発信します。 さらに、VoIP 通話の可用性は、 **voip** タグによって制御されます。展開要件に基づき、VoIP 通話を有効または無効にします。

VoIP とネイティブの通話が有効になっている場合、ユーザはどちらのオプションを使用するかを選択できます。

<dialing-mode>は、タグは、ユーザが通話の開始/受信の方法を選択できるかどうかを制御します。 ネイティブ コールと VoIP コールの両方を有効にする必要があります。

リリース 43.12 以降、ネイティブのダイヤル設定が拡張され、カスタム プレフィックスを発信コール番号の先頭に追加できる機能が提供されます。 これは、Webex アプリから開始される携帯電話通話に適用されますが、ダイヤルされた番号が FAC コードで始まる場合に限ります。

この機能は、通話を統合 Cisco BroadWorks アプリケーション サーバにリダイレクトする代わりに、FAC コードを通信バックエンドで処理する MNO 展開を使用している顧客に役立ちます。新しい<fac-prefix>タグは、<dialing><native>セクションの下に追加されます。と通信し、通信はこの問題を解決するためにそれを使用できます。

```
<config>
<サービス>
  <ダイヤル中>
    <voipenabled="%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%"/>
    <nativeenabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%"
ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%"
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%"/>
    </ネイティブ>
    <dialing-modeenabled="%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%" default="%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	true	true、false	"true" に設定して VoIP 通話オプションを有効にします。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	フォルス	true、false	ネイティブ通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%	false	true、false	[基本設定] の [通話設定] を通じて、ユーザが通話モードを選択できるようにします。
%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%	VoIP	VoIP、ネイティブ	選択されている既定の通話モードを指定します。
%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%	フォルス	true、false	ネイティブ コールの可用性を、ユーザに構成されている BroadWorks モビリティ サービスとモビリティ ロケーションに依存させるかどうかを制御します。
%DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%	*空*	文字列	FAC コードで始まる番号への発信通話が携帯電話として開始された場合に、先頭に追加されるプレフィックスを指定します。 デフォルトでは、FAC プレフィックスは定義されず、タグは空です。

メモ 1: 少なくとも **VoIP** および **ネイティブ** 発信のうちの少なくとも 1 つを有効にする必要があります。。

注意 2: MNO 展開で、ネイティブの
発信のみが有効な場合、シングルアラートを無効にして、クライアントが帯域幅管理警告を無効にする。

メモ 3: MNO 展開で、 **native** および **voip** 発信の両方が有効な場合、二重アラートを防ぐために、シングルアラートを有効にすることをお勧めします。

6.3.5.2 通話中のコントロール

この機能により、モバイル Webex クライアントは、Cisco BroadWorks に固定されているモバイル デバイス上の XSI ネイティブ コールを介してコントロールできます。 XSI 通話コントロールは、次の場合にのみ使用できます。

- BroadWorks Mobility (BWM) サービスがユーザに割り当てられ、
- 構成されているのは 1 つの BMW モバイル ID だけです。
- ネイティブ通話モードはユーザが選択します (詳細はセクション *6.3.5.1 ネイティブのダイヤラーで発信する*を確認してください)、
- BroadWorks にアンカーされている発信があります。このコールは、BMW サービスを経由します。

Cisco 社外秘

- モバイル端末で進行中の携帯電話通話がかかっています。

リリース 43.10 では、打診転送の処理が改善され、Webex アプリで提示される 2 つのセルラー コール間の関連付けが作成され、ユーザが転送を完了するためのオプションが提供されます。また、ユーザが同じデバイスで 2 つの独立したセルラー コールを持っている場合、転送メニューが強化され、それらの間に関連付けが作成されていない場合でも、一方を他方に転送できるようになりました。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CALL_Control_WXT%	フォルス	true、false	MNO 環境の XSI コール制御を有効にします。
%XSI_CALL_Control_DEPLOYMENT_TYPE_WXT%	MNO_アクセス	MNO_Access、MNO_Network	アプリケーションで使用される XSI MNO 展開タイプを制御します。 値は次のいずれかになります。 ▪ MNO_Access – 下のノードで定義されたデバイス タイプですべてのリモート (XSI) 通話を表示します。 ▪ MNO_Network - すべてのリモート (XSI) 通話を表示します。
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT%、%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT%、%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT%	“”	文字列	MNO_Access 展開タイプで使用されるデバイス タイプ名。
%ENABLE_XSI_ホールド_CALLS_WXT%	true	true、false	XSI モバイル通話に対して、ユーザが [通話保留] アクションを利用できるようにするかどうかを制御します。

6.3.5.3 発信発信回線 ID (CLID) - デュアル ペルソナ

モバイル リリース 42.12 では、Webex アプリにより、ユーザは発信通話の開始時にリモートに表示される発信回線 ID (CLID) を選択できます。

ユーザが Cisco BroadWorks モビリティで構成され、モバイル ネットワーク オペレータ (MNO) 展開の一般的な構成であり、ネイティブ コーリングが有効な場合、ユーザは、発信している人々に提示する ID を選択できます。 ユーザはビジネスまたは個人の ID を選択できます。 自分の ID を非表示にし、通話を匿名として表示するオプションもあります。

VoIP 通話の場合、ユーザは CLID を操作することもできます。 この場合利用できるオプションは、身元を隠すかどうかをコントロールすることだけです。

Cisco 社外秘

ペルソナ管理と CLID ブロックは、個別の構成オプションを通じて制御されます。

```
<config>
<サービス>
<ダイヤル中>
   %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
   <Mobility-persona-
managementenabled="%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_DElivery_BLOCKING_WXT%	false	true、false	発信側回線 ID の配信のブロックを有効にします。 ユーザのすべての発信タイプの通話に適用されます。
%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%	false	true、false	展開タイプが MNO_Access または MNO_Network として構成されている場合、ネイティブ通話のパーソナル管理を有効にします。 (BroadWorks Mobility はネイティブ コールに使用され、すべてのネイティブ コールは BroadWorks に固定されます)

6.3.5.4 ネイティブ コールの通知

MNO で展開されているユーザの場合、この機能は Webex アプリで制御できるネイティブ コールの通知バナーを追加します。 この通知はプッシュ通知を利用しており、呼び出しが確立されるとアプリケーションサーバにより送信されます。

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT%	true	true、false	モバイル CALL_INFO プッシュ通知のサブスクリプションを有効にします。

6.3.5.5 ネイティブ通話を統合型ミーティングに移動

MNO で展開されているユーザの場合、この機能により、1 対 1 の通話の両当事者に対して、ネイティブの音声通話をミーティングにエスカレートできます (相手方が Webex ユーザでなくても)。 リモートユーザが Webex ユーザの場合、ミーティング開始後、関係者は次のことができるようになります:

- ミーティングチャットで Webex を開始する
- ビデオの追加 (ネイティブ コールでは音声が継続されることに注意してください)
- 画面/コンテンツの共有

Cisco 社外秘

- ミーティング録画をトリガーする

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	フォルス	true、false	Power Up を有効にします (招待とミーティング、Video Meet アクション)。

6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中ウィジェット

Android Webex アプリ (モバイルおよびタブレット) のリリース 43.7 では、新しいコール制御ウィジェット (バブル) が正式に導入され、モビリティ サービスを使用して、Cisco BroadWorks に固定されたネイティブ コールに追加のコール コントロールを提供します。 ウィジェットはネイティブ UI の上部に表示され、ユーザは次のアクションが可能になります。

- 保留または復帰
- ブラインド/打合せ転送 - ユーザに Webex アプリの転送ダイアログを表示します。
- 転送の完了 – 打合せ転送を完了するためのオプションを提供します (リリース 43.10)
- ビデオ ミーティング - 参加者を Webex ミーティングに移動します。
- コールの終了

```
<config>
<services><calls>
        <ホールド xsi-enabled="%ENABLE_XSI_ホールド_CALLS_WXT%" Widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT%"/>
        <Transfer-callenabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" Widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
        <escalate-to-webex-
meetingenabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" Widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
%ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットで保留アクションを使用できるかどうかを指定します。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットでの [転送] および [転送の完了] アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE	true	true、false	発信ウィジェットのビデオミーティングアクションの可用性を制御します。

Cisco 社外秘

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
_TO_WEBEX_MEETING_WXT%			

6.3.6 着信発信者 ID

リリース 44.2 では、名前と番号に基づいてユーザに表示される連絡先情報をコントロールする機能が追加されます。 着信画面と着信通知、および不在着信通知でユーザに表示される情報をコントロールするために、2 つの構成オプションが追加されました。

6.3.6.1 着信通話のスクリーニング

着信画面でのデータ表示に関して、Android と iOS ではプラットフォームが異なります。 着信通話の情報を表示するネイティブ エクスペリエンスは次のとおりです。

Android - 着信画面に名前と番号の両方を表示する 2 つの異なるフィールドがあります

iOS - 名前または番号のいずれかを表示するフィールドは 1 つしかありません - 両方が利用可能な場合、名前が優先されます

着信通話の新しい構成オプションを使用すると、iOS Webex アプリが通話画面の名前 (形式: *名前 (番号)*) を参照してください。 Android Webex アプリの動作への影響はありません。

6.3.6.2 着信通知

場合によっては、着信が通知としてユーザに表示されます。 スペースの関係上、必ずしも番号が表示されているわけではありません。

着信の新しい設定オプションは、着信通知に表示される情報もコントロールします。 有効になっていて、名前と番号の両方を利用できる場合、Webex アプリは名前の横に番号を追加します (形式: *名前 (番号)*) を参照してください。 これは Webex アプリの動作であり、Android と iOS の両方に適用されます。

6.3.6.3 不在着信通知

不在着信通知に追加の構成パラメータがあります。 着信通知と同様に、リモートパーティ情報の管理に使用できます。番号をリモートユーザの表示名に追加し、不在着信通知で表示できます。 これは Webex アプリの動作であり、Android と iOS の両方に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
   <発信者番号>
      <incoming-calls>
         <append-numberenabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
      </incoming-calls>
      <不在着信数>
```


Cisco 社外秘

```
    <append-numberenabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
不在着信>
```

タグ	省略時の既定値	サポートされている値	説明
% ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT %	フォルス	true、false	着信画面 (iOS のみ) および通知で名前に番号を追加するかどうかを制御します。
% ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT %	フォルス	true、false	不在着信通知で番号を名前に追加するかどうかを制御します。

メモ注意:
番号が表示名として配信される場合、または表示名が番号で終わる場合、Webex アプリは重複を避け、番号は 1 回だけ表示されます。

Cisco 社外秘

7 早期フィールド トライアル (ベータ) の機能

最新リリースのベータ版の機能はありません。

Cisco 社外秘

8 Cisco BroadWorks 用 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング

次の表は、UC-One のレガシー カスタム タグと一致する、Cisco BroadWorks カスタム タグの Webex の一覧です。

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_DESKTOP%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	該当なし	%REJECT_WITH_XSI_MODE_モバイル%
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	該当なし	%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_MOBILE%
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	該当なし	%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_Nway_participant_list_WXT%	%ENABLE_Nway_participant_list_deskTOP%	該当なし
%MAX_CONF_parties_WXT%	%MAX_CONF_parties%	該当なし
%ENABLE_CALL_StatistICS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	%ENABLE_CALL_PULL_DESKTOP%	%ENABLE_CALL_PULL_MOBILE%
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	該当なし	%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%MWI_MODE_WXT%	%DESKTOP_MWI_MODE%	%MWI_MODE_MOBILE%
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL%	該当なし
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	%ENABLE_FORCED_LOGOUT%	該当なし
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	%FORCED_LOGOUT_APPID%	該当なし
%ENABLE_CALL_FORDING_AlwayS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_WXT%	該当なし	該当なし
パーセント WXT%	該当なし	該当なし

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_BROADWORKS_ANYSHA_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	該当なし	該当なし
お問い合わせ	該当なし	該当なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT%	該当なし	該当なし
%BROADWORKS_ANYWhere_CALL_control_defaULT_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	該当なし	該当なし
パーセント	該当なし	該当なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	該当なし	該当なし
パーセント	該当なし	該当なし
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	該当なし	該当なし
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	%USE_RPORT_IP%	%ENABLE_USE_RPORT_MOBILE%
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	該当なし	パーセント
%USE_TLS_WXT%	%USE_TLS%	該当なし
%SBC_ADDRESS_WXT%	%SBC_ADDRESS%	%SBC_ADDRESS%
%SBC_PORT_WXT%	%SBC_PORT%	%SBC_PORT%
%USE_PROxy_DISCOVERY_ WXT%	%USE_PROxy_DISCOVERY%	%USE_PROxy_DISCOVERY_ モバイル %
%USE_TCP_FROM_DNS_ WXT%	%USE_TCP_FROM_DNS%	該当なし
%USE_UDP_FROM_DNS_ WXT%	%USE_UDP_FROM_DNS%	該当なし
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	%USE_TLS_FROM_DNS%	該当なし
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	%DOMAIN_OVERRIDE%	%DOMAIN_OVERRIDE%
%SOURCE_PORT_WXT%	%SOURCE_PORT%	%SOURCE_PORT%
%USE_ALTERNATIVE_IDENTIties_WXT%	%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES%	該当なし

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%TCP_SIZE_THRES ホールド_ WXT%	%TCP_SIZE_THRES ホールド%	該当なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	%SIP_REFRESH_ON_TTL%	該当なし
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_DESKTOP%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_MOBILE%
%ENABLE_PEM_SUPPORT_ WXT%	%ENABLE_PEM_SUPPORT_ デスクトップ %	該当なし
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_ WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO _FIR_WXT%	該当なし	該当なし
%SRTP_ENABLED_WXT%	%USE_SRTP%	%SRTP_ENABLED_MOBILE%
%SRTP_MODE_WXT%	%SRTP_PREFERENCE%	%SRTP_MODE_MOBILE%
%ENABLE_REKEYING_WXT%	%ENABLE_RE_KEYING_Desktop%	%ENABLE_RE-KEYING_MOBILE%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _START_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _START%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _START%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _END_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _END%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE _END%
%RTP_Video_PORT_RANGE_ START_WXT%	%RTP_Video_PORT_RANGE_ START%	%RTP_Video_PORT_RANGE_ START%
%RTP_Video_PORT_RANGE_ END_WXT%	%RTP_Video_PORT_RANGE_ END%	%RTP_Video_PORT_RANGE_ END%
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT %	%ENABLE_RTCP_MUX%	%ENABLE_RTCP_MUX%
%ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT%	%ENABLE_XSI_event_CHANNEL%	該当なし
%CHANNEL_HEARTBEAT_ WXT%	%CHANNEL_HEARTBEAT%	%CHANNEL_HEARTBEAT_ モバイル%
%XSI_ROOT_WXT%	%XSI_ROOT%	%XSI_ROOT%
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	該当なし	%XSI_ACTIONS_PATH_MOBILE%
%XSI_eventS_PATH_WXT%	該当なし	%XSI_eventS_PATH_MOBILE %
%ENABLE_CALLS_AUTO_ RECOVERY_WXT%	該当なし	%ENABLE_CALLS_AUTO_ RECOVERY_MOBILE%
%EMERGENCY_CALL_DIAL_ SEQUENCE_WXT%	該当なし	%EMERGENCY_CALL_DIAL_ SEQUENCE_MOBILE%
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	該当なし	該当なし

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	該当なし	該当なし
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_URL%
%USE_MEDIASEC_WXT%	%USE_MEDIASEC_MOBILE%	%USE_MEDIASEC_DESKTOP%
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	%ENABLE_CALL_CENTER_Desktop%"	該当なし
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	該当なし	該当なし
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_配列番号	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_配列番号:
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_STANDARD_SETTINGS_CC_VISIble%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble%

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble%
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	該当なし	該当なし
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_WXT%	%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_Desktop%	該当なし
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	該当なし	%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_MOBILE%
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	%ENABLE_CALL_RECORDING_DESKTOP%	%CALL_RECORDING_MOBILE%
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	該当なし	%ENABLE_SINGLE_ALERTING%
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	%ENABLE_CALL_PARK_ デスクトップ %	該当なし
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	該当なし	該当なし
%RTP_ICE_MODE_WXT%	該当なし	該当なし
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	該当なし	該当なし
%RTP_ICE_PORT_WXT%	該当なし	該当なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_DIALING_VOIP_ WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_DIALING_NATIVE_ WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_DESKPHONE_control_AUTO_ANSWER_ WXT%	該当なし	該当なし
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_UNIFIED_CALL_ HISTORY_WXT%	該当なし	該当なし
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	該当なし	該当なし
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	該当なし	該当なし

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	該当なし	該当なし
%SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	該当なし	該当なし
%DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	該当なし	該当なし

Cisco 社外秘

Webex (Cisco BroadWorks タグ用)	デスクトップのレガシー タグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_Desktop%	該当なし
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_DESKTOP%	該当なし
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	該当なし	該当なし
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	該当なし	該当なし
% UDP_keepalive_ENABLED_WXT %	該当なし	該当なし
% TCP_keepalive_ENABLED_WXT %	該当なし	該当なし
% TLS_KEEPAlive_ENABLED_WXT %	該当なし	該当なし
%PERSONAL_ASSISTant_ENABLED_WXT%	%DESKTOP_PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED%	%ENABLE_PERSONAL_ASSISTANT_PRESENCE%
%PN_FOR_CALLS_DElivery_mode_WXT%	該当なし	該当なし
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	該当なし	該当なし

Cisco 社外秘

メモ: N/A は、UC-One の機能をコントロールする、対応するカスタム
タグがなかったことを示します。 デスクトップとモバイルの両方のレガシー タグに N/A があるということは、Cisco BroadWorks の Webex タグが新しく、新しい機能または UC-One のカスタム タグでは制御されていない既存の機能を制御することを示します。

Cisco 社外秘

9 付録 A: TLS 暗号

BroadWorks クライアント用の Webex は、さらにセキュリティ強化を行った OpenSSL に基づく CiscoSSL を使用します。

Cisco 社外秘

10 付録 B: DM タグプロビジョニングスクリプト

カスタム DM タグの数はリリースごとに増加しており、多くの顧客は新しい構成パラメータのタグを好みます。 これらのカスタム DM タグをより簡単にプロビジョニングするためのメカニズムを提供するために、このセクションには、カスタム DM タグに値を割り当てるアプリケーションサーバ (AS) 側で実行できるスクリプトが含まれています。 このスクリプトは、ほとんどのカスタム DM タグが使用される新しい展開を特に想定しています。

このスクリプトは、カスタム DM タグが作成される新規展開でのみ有効です。 既存のカスタム DM タグを変更するには、次のスクリプト中のコマンドを「add」から「set」に変更する必要があります。

少数のカスタム タグ セットのみを含むスクリプト テンプレート (実際の展開では、カスタム タグのより大きなリストを入力する必要があります)。 次の例はモバイル用です。 デスクトップの場合、Connect_Tags の代わりに BroadTouch_tags タグ セットを使用します。 タブレットの場合、Connect_Tags の代わりに ConnectTablet_Tags タグセットを使用します。

```
%% ********************************** Connect_Tags - ファイルを読み込みます ***********
************************
%%
%% 説明:
%% -------------------
%% - この読み込みファイルは BroadWorks の Webex の作成、追加、設定に使用できます。
%% クライアントのカスタムタグ
%% - %% を使用して、展開固有の要件に基づいて必要のない手順をコメントアウトします。
%% のサービス要件:
%% ステップ 1 -- 新規展開のみ、初期タグセットラベルを作成する
%% ステップ 2 -- 新しいカスタムタグを追加します (新しいタグごとに入力が必要です)
%% ステップ 3 -- 既存のカスタムタグに値を設定します
(該当するタグごとにエントリが必要です)
%% ステップ 4 -- タグ設定を表示して視覚的に確認する
%%
%% - コマンド構文に従い、必要に応じてファイルを編集してください。 ファイルを保存します
(例: WxT_Tags.txt)
%% - SFTP はディレクトリ /tmp の下の AS にファイルを読み込みました
%% - AS にログイン、bwcli (admin としてログイン)
%% - bwcli から次のコマンドを実行します: AS_CLI> r /tmp/ WxT_Tags.txt
%% - 結果の確認
%%
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% ステップ 1: Connect タグセットラベルを作成する - Connect_Tags
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
すべて終了;システム;DeviceTagSet
Connect_Tags を追加
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% ステップ 2: BWKS カスタムタグに WxT を追加する
%% 例 – すべてのモバイルタグについて、以下のリストを参照------------------------------------ ---------
-------
すべて終了;システム;DeviceTagSet;タグ
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% true
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% ステップ 3: Connect カスタムタグを設定する (タグがすでに存在する場合)
```


Cisco 社外秘

```
%% 例 - すべてのモバイルタグについて、以下のリストを参照してください
set tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% isOverridable true
tagvalue false
%% ----------
%% ステップ 4: カスタムタグが正しく定義され、設定されていることを確認します
%% ----------
すべて終了;システム;DeviceTagSet;タグ
get tagSetName Connect_Tags
すべて終了
```

以下は、Cisco BroadWorks の Webex により使用されるすべてのカスタム タグと、その例 (デフォルトまたは推奨) 値と共に一覧を示しています。 一部のタグでは、対応する展開に固有の値が必要であることに注意してください (サーバ アドレスなど)。 そのため、これらのタグはスクリプトの最後に追加されますが、空のままであり、さらに set コマンドを追加してタグを指定する必要があります。

10.1 デスクトップ

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT% true
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT% に tagSetName BroadTouch_ tag を追加します。
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_REMOTE_Control_eventS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_NOICE_REMOVAL_WXT% false
tagSetName を追加 BroadTouch_tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% が一杯です
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_Nway_participant_list_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %MAX_CONF_parties_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_StatistICS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_PROxy_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
```


Cisco 社外秘

add tagSetName BroadTouch_ tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_ tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITies_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT% 900
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName BroadTouch_ tags %TCP_SIZE_THRES ホールド_WXT% 18000
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099 に tagSetName BroadTouch_ tags を追加します。
add tagSetName BroadTouch_ tags %RTP_Video_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
tagSetName BroadTouch_tags を %RTP_Video_PORT_RANGE_END_WXT% に追加します 8199
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_ tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName BroadTouch_ tags %XSI_eventS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% 外部
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_配列番号: true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIble_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%
add tagSetName BroadTouch_ tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% は外部
add tagSetName BroadTouch_ tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_PICKUP_blnd_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags % ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT % true

Cisco 社外秘

add tagSetName BroadTouch_ tags % ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT % true
add tagSetName BroadTouch_tags %VideoCALLS_ANSWER_WITH_Video_ON_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
tagSetName BroadTouch_tags を追加 %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_ tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
tagSetName BroadTouch_ tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% を 1 回_per_login に追加
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTant_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10 に tagSetName BroadTouch_ tag を追加します。
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_DESKPHONE_Control_AUTO_ANSWER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %RTP_ICE_MODE_WXT% Icestun
add tagSetName BroadTouch_ tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% add tagSetName BroadTouch_ tags
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %FORCED_LOGOUT_APPID_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_Video_QOS_WXT% true
tagSetName BroadTouch_tags %Video_QOS_VALUE_WXT% を追加します 34
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_REMOTE_MUTE_Control_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORDING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CloudNOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT% 120
add tagSetName BroadTouch_ tags %UDP_KEEP_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_ tags %TCP_KEEPAlive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %TLS_kepalive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
tagSetName を追加 BroadTouch_ tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% が解決されました
add tagSetName BroadTouch_ tags %PERSONAL_ASSISTant_ENABLED_WXT% false

Cisco 社外秘

```
add tagSetName BroadTouch_ tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
```

10.2 携帯

```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NOICE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% が一杯です
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_Nway_participant_list_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %MAX_CONF_parties_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_統計_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags 5075
add tagSetName Connect_Tags %USE_PROxy_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName Connect_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIes_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName Connect_Tags %TCP_SIZE_THRES ホールド_WXT% 18000
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099 に tagSetName Connect_Tags を追加
add tagSetName Connect_Tags %RTP_Video_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName Connect_Tags %RTP_Video_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
```


Cisco 社外秘

add tagSetName Connect_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName Connect_Tags %XSI_eventS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT true%
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
tagSetName を追加 Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% 外部
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_配列番号: true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT はい
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% は外部
tagSetName Connect_tags を追加 %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911、112
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
tagSetName Connect_Tags を追加 %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%decrain_false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% が通話中
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT%
add tagSetName Connect_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
%RTP_ICE_PORT_WXT% 3478 に tagSetName Connect_Tags を追加
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_CALL_Control_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %XSI_CALL_Control_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_ホールド_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false

Cisco 社外秘

```
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName  Connect_Tags  %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName  Connect_Tags  % ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT % true
add tagSetName  Connect_Tags  % ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT % true
add tagSetName Connect_Tags %VideoCALLS_ANSWER_WITH_Video_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% 一度_per_login
add tagSetName Connect_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_DElivery_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RING_SPLash_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_Video_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %Video_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORDING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_XR_negotiation_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %  E NABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %UDP_KEEP_ENABLED_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %TCP_Kepalive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TLS_kepalive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
tagSetName の追加 Connect_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% は解決されました
add tagSetName Connect_Tags %PERSONAL_ASSISTant_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_DElivery_mode_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
```


Cisco 社外秘

10.3 タブレット

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% 空き
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags  %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %ENABLE_NOICE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_Nway_participant_list_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MAX_CONF_parties_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_統計_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORDING_ALwayS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_CALL_Control_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWhere_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags 5075
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PROxy_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% はい
add tagSetName  ConnectTablet_Tags  %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% はい
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITies_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags 8000
8099 に tagSetName ConnectTablet_Tags を追加します
%RTP_Video_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
%RTP_Video_PORT_RANGE_END_WXT% 8199 に tagSetName Connecttablet_Tags を追加
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_event_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
```


Cisco 社外秘

add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_eventS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% 外部
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_シーケンス: true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIble_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIble_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIble_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIble_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIble_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT はい
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% は外部
add tagSetName Connectタブレット_タグ %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
911,112 件の追加 tagSetName ConnectTablet_Tags
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%decrain_false
tagSetName ConnectTablet_Tags を追加します。%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%
が通話中です
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10 add tagSetName Connect Tablett_Tags
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35 に追加 tagSetName ConnectTablet_Tags
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT%icestun
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% add tagSetName ConnectTablet_Tags% true
%RTP_ICE_PORT_WXT% 3478 に tagSetName Connecttablet_Tags を追加
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_CALL_Control_WXT% false
tagSetName ConnectTablet_Tags を追加 %XSI_CALL_Control_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT%add tagSetName ConnectTablet_Tags% true
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% を追加 tagSetName ConnectTablet_Tags
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% add tagSetName ConnectTablet_Tags% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_ホールド_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false

Cisco 社外秘

add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags % ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT % true
add tagSetName ConnectTablet_Tags % ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT % true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VideoCALLS_ANSWER_WITH_Video_ON_DEFAULT_WXT% false
追加する tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% 1
回のログイン
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RING_SPLash_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_Video_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %Video_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT はい
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_Video_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_Video_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_ホールド_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORDING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_REGIster_FAILOVER_REGISTRATION_CLEARUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_prefix_WXT%
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_ホールド_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDitionAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DElivery_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %UDP_KEEP_ENABLED_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_Kepalive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TLS_Kepalive_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
tagSetName を追加 Connecttablet_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% 解決しました
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_DElivery_mode_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false

Cisco 社外秘

10.4 システムタグ

以下に、BroadWorks の Webex が使用するシステム タグの一覧を示します。

```
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
%BWVOICE-PortAL-NUMBER-n%
%BW ラインポート-n%
%BWHOST-n%
%BWAUTHUSER-n%
%BWAUTHPASSWORD-n%
%BWE164-n%
%BWNAME-n%
%BWExtENSION-n%
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%
%BWDISPLAYNAMElineport%
%BW ラインポート-プライマリ%
%BWE911-PRIMary-HELDURL%
%BWE911-CUSTOMERID%
%BWE911-SECRETKEY%
%BWE911-緊急番号-リスト%
%BW-MEMBERTYPE-n%
%BWUSEREXID-n%
```


Cisco 社外秘

11 頭字語と略語

このセクションでは、本書で使用されている頭字語と省略語を一覧表示します。 頭字語と省略語をその意味と共にアルファベット順に一覧表示します。

ACB	自動コールバック
ACD	自動通話分配
ACR	非通知着信の拒否
AES	Advanced Encryption Standard（高度暗号化規格）
ALG	アプリケーション層ゲートウェイ
API	アプリケーション プログラミング インターフェイス
APK	アプリケーションパッケージ
APNS	Apple プッシュ通知サービス
ARS	ビットレート自動選択
AS	アプリケーションサーバ Cisco BroadWorks
AVP	音声ビジュアル プロファイル
帯域幅	BroadWorks
帯域幅	BroadWorks Anywhere
BWKS	BroadWorks
帯域幅管理	BroadWorks モビリティ
BYOD	自分のデバイスを使用
CC	コールセンター
CFB	話中の転送
CFNA	無応答時の転送
CFNR	着信の転送が到達できません
CIF	共通中間形式
CLI	コマンドライン インターフェイス
CLID	発信回線 ID
CLIDB	発信側回線 ID 配信のブロック
CRLF	キャリッジリターンラインフィード
CS	回線交換
CSWV	通話設定ウェブ表示
CW	コール待機
DB	データベース

Cisco 社外秘

DM	デバイス管理
DND	取り込み中
DNS	ドメイン ネーム システム
DPC	デスクフォン制御
DTAF	デバイスタイプアーカイブファイル
ECACS	緊急通話アドレス変更サービス
FMC	固定とモバイルのコンバージェンス
FQDN	完全修飾ドメイン名
HMAC	ハッシュメッセージ認証コード
ICE	インタラクティブ接続の確立
iLBC	インターネット低ビットレート コーデック
IM	インスタント メッセージ
IM&P	インスタント メッセージおよびプレゼンス
IOT	相互運用性テスト
IP	インターネット プロトコル
JID	Jabber 識別子
M/O	必須/任意
MNO	モバイル ネットワーク オペレータ
MTU	最大転送ユニット
MUC	マルチユーザチャット
MWI	メッセージ受信インジケータ
NAL	ネットワークアブストラクションレイヤー
NAPTR	命名機関ポインタ
NAT	ネットワークアドレス変換
OTT	オーバー・ザ・トップ
PA	パーソナル アシスタント
PAI	P-Asserted-Identity
PEM	P アーリーメディア
PLI	画像損失の表示
PLMN	公衆地上移動通信ネットワーク
PN	プッシュ通知
QCIF	クォーター共通中級フォーマット
QoS	Quality of Service

Cisco 社外秘

RO	リモートオフィス
RTCP	リアルタイム コントロール プロトコル
RTP	Real Time Protocol
SaaS	サービスとしてのソフトウェア
SAN	サブジェクト代替名
SASL	簡易認証とセキュリティレイヤー
SAVP	安全な音声ビデオプロファイル
SBC	セッション ボーダー コントローラ
SCA	共有された通話アピアランス
SCF	セッション継続機能
SCTP	ストリームコントロール伝送プロトコル
SDP	セッション定義プロトコル
配列番号:	連続呼び出し
次をシミュレーション中同時呼び出し	
SIP	セッション開始プロトコル
SNR	S/N 比
SNR	シングル ナンバー リーチ
SRTCP	セキュアなリアルタイム制御プロトコル
SRTP	セキュアなリアルタイム転送プロトコル
SSL	セキュア ソケット レイヤー
STUN	NAT のセッション トラバーサル ユーティリティ
SUBQCIF	サブクォーター CIF
[TCP]	Transmission Control Protocol（TCP）
TLS	トランスポート レイヤ セキュリティ
TTL	残存時間
TURN	リレー NAT を使用したトラバーサル
UDP	ユーザ データグラム プロトコル（User Datagram Protocol）
UI	ユーザ インターフェイス
UMS	メッセージングサーバ Cisco BroadWorks
URI	Uniform Resource Identifier（ユニフォーム リソース識別子）
[UVS]	ビデオサーバ Cisco BroadWorks
VGA	ビデオグラフィックスアレイ
VoIP	ボイスオーバー IP

Cisco 社外秘

VVM	ビジュアル ボイスメール
WXT	Webex
XMPP	拡張メッセージングとプレゼンス プロトコル
XR	拡張レポート
Xsp	Xtended Services プラットフォーム
Xsi	Xtended Services インターフェイス

Cisco 社外秘